

平成30年度

実践集録

主体的・対話的で深い学びの視点を生かした取組

(2年次/3年計画)

高知県立日高養護学校

はじめに

昨年度、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が公示され、小学部は平成32年度、中学部は平成33年度から施行されることになりました。今回の新学習指導要領では、「知識の理解の質を高め、資質・能力を育む『主体的・対話的で深い学び』の実現」及び「カリキュラム・マネジメントの確立」が大きな柱となっています。

本校では、昨年度から「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした授業づくり」を校内研究の統一テーマとして3年間の実践研究をスタートさせ、取組を展開してきました。そして、今年度、文部科学省から「特別支援教育に関する実践研究充実事業」の委託（3年間）を受けたことにより、改めて知的障害の児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」はどうあるべきかを明らかにしていく取組を始めることになりました。これまでの「主体的な学びとは」「対話的学びとは」「深い学びとは」何かの研修のうえに、「主体的・対話的で深い学び」とは何かの基本的な理念についての理解を更に深化させていくために、取組計画を再構築していくことになりました。そこで、「主体的・対話的で深い学び」の研究に取り組んでいる大学教授や先進的な取組を行っている県外の特別支援学校から講師を招へいし、講演、外部講師による公開授業に取り組んできました。これらの取組によって「主体的・対話的で深い学び」の考え方がある程度定着してきました。また、各学部や学年において年間2回の公開授業を設定し、授業後には授業研究協議を行い、児童生徒のキャリア発達を促す「主体的・対話的深い学び」を意識した授業であったのかについて協議を重ねてきました。

本校では、今までの実践研究において、児童生徒の実態をキャリア発達の観点から見ていくために、本校独自の「キャリア発達段階表」を作成し、児童生徒一人一人の実態把握に活用してきました。子どもたちの将来の自立や社会参加に向けて、子どもたちのキャリア発達を一步步着実に促していくためには、「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を意識した授業づくり・授業改善が必要です。特に「どのように学ぶのか」の観点をしっかりと捉え、「主体的・対話的深い学び」を意識した授業づくり・授業改善の取組を進めていくうえで、今年度の途中からではありますが「学習過程分析表（試案）」を作成し、学習指導案作りの際に活用していくこととしました。「学習過程分析表」については、まだまだ改良の余地があり、内容、活用方法、評価等について次年度の課題として取り組んでいきます。

私たち教職員は、将来、子どもたちが自立や社会参加をしていけるよう「生きる力」をしっかりと身に付けさせるための教育実践に取り組んでいかなければなりません。そのためには、児童生徒一人一人が、「自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる力」の育成を目指した授業づくりを行うことが必要です。今後も、教職員一人一人が自らの専門性を高め、「チーム日高」として様々な教育課題に取り組み、児童生徒が自立や社会参加を目指す「生きる力」を身に付けていけるよう、本校の特別教育のますますの充実に向けて精進してまいります。

最後になりましたが、校内研修において貴重なご指導、ご助言をいただいた、群馬大学教授 霜田浩信 先生、高知県立大学教授 石山貴章 先生はじめ、関係の皆さまに厚くお礼申し上げますとともに、この実践集録の編集を担当された研究部の先生方のご労苦に深く感謝申し上げます。

平成31年3月

高知県立日高養護学校長 利岡徳重

《目 次》

はじめに

I	本年度の教育	1
II	校内研究の取組	3
III	小学部の研究	6
	A組：阪本久世、刈谷亜希、土居颯之介	
	B組：植田知佐、上田瑞里、小島愛子、中村明美、井上皓平、小野貴司	
	C組：池添礼賀、井上潤、岡本布美	
	D組：田村咲樹、立間好枝、谷拓紀	
IV	中学部の研究	38
	1年：鎮西知代、日向晴彦、黒木彰子、大原康司	
	2年：永野千沙、明神靖彦、佐藤天、森野知佳、中川利彦	
	3年：徳田毅、山形和江、井上さくら、藤原陽色、宮川真由 中越江美	
V	高等部の研究	65
	1年：前田美奈、長尾和隆、長尾哲也、藤野陽子、武内薫子、前田紀生、清岡隆子、入野律、 豊永将也	
	2年：倉松淳也、高橋めぐみ、岡崎幸代、河路恭太、前田朝子、渡会真生、川添裕貴 筒井俊樹、寺田敏郎、増井孝弘	
	3年：筒井啓子、宮中浩充、森山陽介、公文菜子、大石真也、瀧渦崇弘 藤田和佐子、大川三千恵、平地正幸、島 俊彦、石見聡貴、西村健太	
VI	寄宿舎の研究	91
	橋本章、浅野淳子、梅井有紀、大野淳子、岡本雅代、勝原真紀、竹池恵子、中村智美、 松本有美子、矢野絵美梨、片岡和砂、川口加代、河野紳、仙波真由、武内啓輔、竹内由紀、 近澤一樹、中澤忍、松本一孝、澤田暁、田中秀典、中嶋志乃、西野嘉晃、藤岡正子、 山岡あゆみ、山中真奈美、内川隆一、浦岡佳史、櫻木香織、堀川廣美	
VII	本年度の研究のまとめ	110

I 本年度の教育

1 校訓

明るく、正しく、たくましく

2 教育方針

子どもの学ぶ楽しさや、生きる喜びを育てる教育を通して、教育目標を達成する。

3 教育目標

- (1) 児童生徒一人一人の能力・適性に応じた教育活動を充実させる。
- (2) 児童生徒の自立する力をつけ、社会参加に向けての適応力を高める。
- (3) 家庭や地域、関係機関と連携し、安全で安心できる学校づくりを進める。

4 目指す学校像

- 子どもたちが楽しく学べる学校
- 保護者が安心して子どもを任せられる学校
- 地域にとってなくてはならない存在の学校
- 教職員一人一人が力を発揮できる学校

5 経営目標と具体的方策

(1) 専門性の向上

- ア 個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく、一人一人に応じた創意工夫ある指導内容及び指導方法による日々の実践の充実を図る。
- イ 「主体的、対話的で深い学び」の視点を生かし、各クラス、教科、学習グループで年間1回以上の公開授業を実施する。
- ウ 外部専門家と連携した専門的知識技能の向上を図る。
- エ 校内研修を広く地域の学校や他の特別支援学校に公開し、情報共有及び相互の専門性向上を図る。

(2) キャリア教育の充実

- ア 適切な実態把握を基にした、小・中・高・寄宿舍の連携による、一貫した系統的、組織的な指導実践及び点検評価を実施する。
- イ 地域の資源を活用した社会体験学習や交流活動を積極的に実施し、社会をよりよく生きる力を育成する。
- ウ 小学部段階から各地域の福祉サービスに関する情報を収集し、保護者と情報共有しながら進路に関する意識を高める。
- エ 構築したアフターケア体制を関係機関との連携により推進し、本校独自スタイルとして定着させる。

(3) 家庭、地域との連携及び障害者スポーツの推進

- ア 各種運動、スポーツ大会に積極的に参加し、社会性や豊かな人間性を育み、共生社会の実現を目指す。

- イ スポーツ指導員によるスポーツ体験教室を地域のクラブとも連携して実施する。
 - ウ 保護者や関係者への理解啓発を行い、休日における「総合型地域スポーツクラブ」の利用を促進する。
 - エ 卒業生や地域社会との交流を組織的に実施する。
 - オ 防災教育の充実と家庭、地域と連携した防災訓練を実施する。
- (4) 特別支援教育のセンター的機能の充実
- ア 就学前幼児や地域の小・中及び高等学校の教育相談、校内研修等への支援を充実させる。
 - イ 専門性の向上による多様化への対応と校内の人材育成による支援体制の強化を図る。
 - ウ 専門分野における校内の教職員を活用した「チーム日高」での地域支援体制を構築する。
 - エ 本校独自の教育コンテンツを積極的に提供発信する。
- (5) 「チーム日高」としての学校力強化
- ア カリキュラムマネジメントの視点で学校全体の構造や取組を評価するシステムを構築する。
 - イ 創造性を発揮した業務の見直しにより組織力を強化する。
 - ウ 組織コンプライアンスの遵守を徹底する。
 - エ 働き方改革の意義を理解し、教職員相互の思いやりと信頼による業務遂行を行う。
 - オ いじめの早期発見及びいじめ発生時の迅速で的確な対応のために、学校全体での組織的な取組を強化する。

Ⅱ 校内研究の取組

【平成 30 年度の研究テーマ】

「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした取組」

(2 年次/3 年計画)

1 平成 29 年度までの研究成果と課題

特別支援学校幼稚部及び小学部・中学部における新学習指導要領が平成 29 年度に公示された。高等部における学習指導要領の改訂も進められる中、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善」に取り組み、新学習指導要領に円滑に移行していくため、3 年計画で研究テーマを「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の視点を生かした授業作り」に設定し、研究に取り組んだ。

29 年度は初年度となるため、基礎的な研修により理解を深めることを目的に外部講師による講義を交えながら、各学部による実践を通じた研究に取り組んだ。

こうした年間を通じた取組により、学習指導要領改訂に向けての理解が深まった一方、教育活動における授業改善や工夫等、漠然としたイメージで捉えられている部分もまだあるように見受けられた。

今後は、校内研修において群馬大学霜田教授の講義にある“本校における「主体的・対話的で深い学び」とは何を意味し、それをどう実行し、将来の何につながるのか”を具体的かつ明確にして継続して取組を進めていく必要が明らかになった。

2 平成 30 年度の校内研究方針

(1) 校内研究の目的

昨年度に引き続き新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」について、外部講師を招へいしての校内研修会や、各学部では年 2 回の公開授業・事後協議を通して、また寄宿舎では日々の生活での関わりに注目しつつ、教職員間の共通理解を深め、よりよい取組には何が重要で、今後の実践にどのようにつなげていくのか研究を行う。

(2) 取組内容

学部・寄宿舎ごとに、テーマを決めて取り組んでいく。なお、各学部では、「主体的・対話的で深い学び」がどのように学習活動と関連しているかを整理しているため「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表」（表 1）を活用して研究を進めていく。

小学部：子どもの主体的・対話的で深い学びをつくる授業づくり

中学部：主体的・対話的に学び、生活に必要な力を身に付ける取組

高等部：主体的・対話的で深い学びの視点を生かした社会的自立を目指す学習

寄宿舎：主体的・対話的で深い関わりの視点を生かした仲間づくり

表1 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表

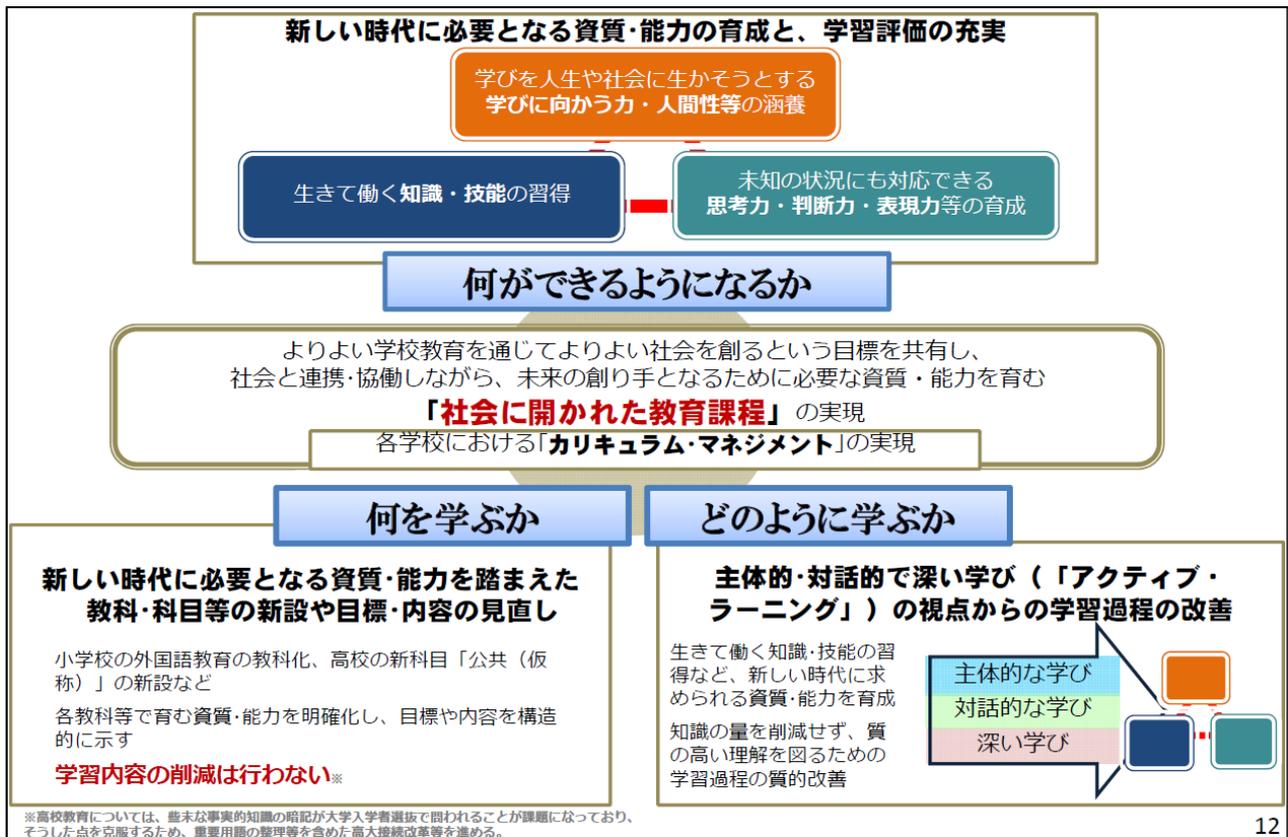
単元（題材）名		
本時の目標		
学 習 活 動		
導入		<p>■主体的な学び：学習活動への参加 「できそう」と思える</p> <p>①環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定（座席配置、道具の位置、教員の位置等） ・見通し <p>②手順理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示（音声言語－視覚情報－見本－一緒に） ・手順表 <p>③活動中への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援
展開		<p>■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ</p> <p>①他者からの情報を得て活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ <p>②役割の中で活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ（自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる） <p>③仲間と問題（課題）を捉え解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと <p>■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす
まとめ		

(3) 年間計画

月	日	研修内容
4		学部研究テーマ等の協議
5	16	学部・寄宿舎ごとのテーマ・研修計画締切
6	8	●第1回校内研修会 講演会「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした取組」 講師：群馬大学 霜田浩信 教授
7	13	●第2回校内研修会 全校授業研：小学部 助言：講師：群馬大学 霜田浩信 教授
7	27	●第3回校内研修会 人権研修会「虐待といじめについて」 講師：人権教育課 松岡英樹 チーフ
8	9	●第4回校内研修会 特別支援学校教育課程研究集会 高知県教育委員会
8		アセスメント① 「キャリア発達段階表 2017 改訂版」記入
1	18	●第5回校内研修会 県外出張報告会
3	1	●第6回校内研修会 実践研究発表会
3		アセスメント② 「キャリア発達段階表 2017 改訂版」記入

学部・寄宿舎ごとの研究日は月1回計画し提案した。詳細は各部署の研究経過・研究計画参照。

【参考】 次期学習指導要領改訂の方向性 育成すべき資質・能力の三つの柱



新しい学習指導要領の考え方—中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ— 文部科学省 HP より抜粋

Ⅲ 小学部の研究

小学部テーマ「子どもの主体的・対話的で深い学びをつくる授業づくり」

1 はじめに

昨年度、本学部では研究テーマを「子どもがわかって主体的に学ぶ授業」と設定し、生活単元学習に焦点化し、研究・実践を推進した。その方法は各クラスが生活単元学習の公開授業を行い、ビデオ録画を活用した研究授業・研究協議を行うことで授業改善を行うという手続きをとり、それらの改善点や問題点を実践集録としてまとめた。結果、学習環境や教材教具の工夫により見通しをもって主体的に取り組む児童の姿を報告することができた。

そこで本年度の研究テーマを「子どもの主体的・対話的で深い学びをつくる授業づくり」と設定し、授業における目標を達成するための手立てとして「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の観点を活用され、それらを実現するためのより良い授業改善への取組を実践・研究することとした。なお、研究の対象は昨年度と同様に生活単元学習である。

2 研究経過

(1) 研究内容

授業改善において、授業における目標の達成を確かなものとするために以下の内容に取り組む。

ア 目標の妥当性（最近接領域の観点から）についてアセスメント（「キャリア発達段階表（2017）」「新しい教育課程と学習活動 Q&A」「高知大学附属特別支援学校－2011－ 成長の記録」等）を活用する。

イ 目標を達成するために支援を最適化する。

ウ 目標の達成度（到達度）を客観的に評価する。

(2) 研究方法

アについては上述のアセスメントツールを活用すると同時に設定の根拠として新学習指導要領に照らし合わせる。

イについては「どのように学ぶか？」という観点から、本年度本校で試行された「学習過程分析表」を用い、「主体的・対話的で深い学びの視点」からアプローチする。

なお、スケジュールや手順書、その他の教材の作製や構造化を念頭においた環境の設定、教師の声掛けや指差し、身体プロンプトなどの具体的な支援の検証も行う。

ウについては研究協議で示された「授業者（MT・ST）による評価」「参観者による評価」「児童自身による評価」などを活用する

また、上述のア～ウを具体化するために他学部と同様に各クラス2回の公開授業並びに研究協議を設定した。1回目の公開授業後の研究協議における協議内容（授業者・参観者・助言者の意見や質問、助言等）を踏まえ、2回目の公開授業に向けて上述「(1) 研究内容」の研究を行う。第2回公開授業後は1回目と同様の手順を踏み、再検証を行う。その際には以後の授業における児童の変容、他の学習や家庭において般化が見られた場合も念頭に考察を行う。

(3) 研究計画

ほぼ月1回設定されている学部研を本学部全体の研究の柱とし、公開授業に向けて学習指導案の詳細な検討や教材研究などについては各クラスで行った。

また、2学期は定例の学部研を公開授業後の研究協議にあてた。そして研究を推進するにあたっての調整や周知・連絡等は学部会を活用した。

なお、上記については不定期のために以下の表には記述しない。

月日	研修内容
5 / 14	・本年度の学部研究テーマの検討
6 / 5	・研究の方向性・方法の検討
7 / 2.	・第1回公開授業（本年度は全校研として設定）学習指導案検討
7 / 13	・第1回公開授業・研究協議
夏季休業中	・児童の実態把握のためのアセスメントとして「キャリア発達段階表（2017）」「新しい教育課程と学習活動 Q&A」「高知大学附属特別支援学校－2011－ 成長の記録」を活用
9 / 18	・第2回公開授業検討 ・実践集録作成の確認
11 / 12	・第2回公開授業確認 ・実践集録作成の確認
11 / 28	・A組第2回公開授業・研究協議
11 / 30	・B組・C組第2回公開授業・研究協議
12 / 14	・D組第2回公開授業・研究協議
1 / 8	・実践集録原稿検討
2 / 5	・実践研究発表会（3 / 1）の発表内容検討
3 / 6	・本年度の反省並びに次年度の方向性の検討 ・児童の実態把握のためのアセスメント並びに引継ぎ資料として「キャリア発達段階表（2017）」「新しい教育課程と学習活動 Q&A」「高知大学附属特別支援学校 成長の記録－2011－」を活用

3 研究事例

(1) A組における取組

ア 取組にあたり

(ア) はじめに

本学級は、小学部2年生の女子1名と男子2名で構成されており、その内2名は自閉症を併せ有している。また、医療的ケアが必要な児童と難聴の児童がいる。身近な日常の場面では簡単な声掛けに応じることができるが生活全般に関して支援が必要な児童、生活や学習面での支援は必要だが簡単な声掛けや写真カードなどにより教師と一緒に活動できる児童、ジェスチャーや周りの状況を見て活動できる児童と、認知面の実態には幅がある。見通しをもちづらい場面などで不安定になることも多いため、1日のスケジュールカードなどの視覚支援を使って活動している。

生活単元学習では、主に遊びに取り組みこととし、遊具遊びなど児童が興味をもちやすく好きな遊びを通して、活動の中で教師に要求を伝える、友達と一緒に遊ぶ、交代するなど関わりながら活動する、見通しをもって活動できるようになることなどを課題と考えた。研究については、小学部の研究方法に沿ってPDCAサイクルで取り組み、日々の授業を振り返り授業改善や教材教具の工夫を行った。

(イ) 単元計画

a 生活単元学習の年間計画

1 学期				2 学期				3 学期		
4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
遊び（エアートランポリン、水遊び、ボールランドで遊ぼう） 制作活動（壁面作り） 調理 買い物 図書館利用 カレンダー作り				遊び（わくわくランドで遊ぼう） 校外学習 制作活動（作品展に向けて、クリスマス会） 調理 買い物 校外の公園利用				卒業生を送る会に向けて 制作活動（卒業生を送る会に向けて） 調理 買い物		
								➔		

b 実践事例の単元計画

実践事例Ⅰ 「ボールランドで遊ぼう」（全10時間）

第1次 ボールランドで遊ぼう 2時間

第2次 ボールランドで遊ぼう（運転手になろう）. 8時間（本時7、8／8時間目）

実践事例Ⅱ 「わくわくランドで遊ぼう」（全11時間）

第1次 すべり台で遊ぼう 2時間

第2次 ドラえもん号を作って遊ぼう 2時間

第3次 わくわくランドで遊ぼう 7時間（本時3、4／7時間目）

イ 実践事例Ⅰ

(ア) 単元名「ボールランドで遊ぼう」

(イ) 単元設定の理由

本単元では、カラーボールを用いてボールスライダーで遊ぶ。好きな遊びの1つであるボールスライダーでの遊びは児童の興味・関心が高く、意欲的に取り組み、気づきや要求の表出を促しやすい。ボールを取りに行ったり、片付けたりの場面でも友達と一緒に見通しをもって取り組むことができると考えた。また、遊びの楽しさを味わう中で、簡単なルールを守り、友達と関わりながら活動に取り組み、時間いっぱい活動できることをねらいとした。

（「知識・技能」）の観点では、遊ぶ活動を通して、「簡単なきまりのある遊び」ができることや、

「集団の中での役割に関心をもつこと」を目標とする。（「思考力・判断力・表現力」）の観点では、遊具を動かしてほしいなどの要求を伝えることや、友達の乗った遊具を引っ張る役をすることを通して「身の回りの人との関わり方に関心をもつこと」を目標とする。（「学びに向かう力・人間性等」）の観点では、活動の始めから片付けが終わるまで時間いっぱい活動することを通して、「身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとする」ことを目標とする。

遊ぶ場面では、順番に並んだ写真カードを今から遊ぶ児童が自分でボードに貼り、終わると外し、順番が分かりやすくなるようにする。写真カードを貼って切符をもらってから遊ぶことや、タイマーが鳴ったら終わること、切符を渡した人は遊具を引っ張る役をするなど、簡単なきまりのある遊びに繰り返し取り組み、主体的に活動に取り組めるようにしたい。また、友達を意識して取り組むことができるように、友達から切符をもらう場面では、言葉を添えて動きを見せて支援をする。そして、友達の乗った遊具を引っ張る役をする場面を設定し、友達の動きに注目したり、友達と関わりながら活動できるように支援をする。遊具の準備から片付けまで時間いっぱい活動できるように、ペットボトルを並べる所をテープで示し準備をやすくしたり、展開の終わりに自由にボールランドで遊ぶ時間を設けたり、ボールを投げて遊ぶ場面や片付けの場面で、児童の好きなキャラクターの絵のついた箱を使うなどの支援をし、児童が積極的に活動に取り組めるようにしたい。

また、次の単元「わくわくランドで遊ぼう」においても、この学習で得たことを生かし発展させていきたい。

(ウ) 本時における目標

○切符を渡したら、引っ張る役をすることが分かり、遊具を引っ張ることができる。

(「思考力・判断力・表現力」)

(エ) 学習活動の展開及び分析表

a 学習活動の展開

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全体	各児童
導入 (15分)	1 始まりの挨拶をする。 2 ボールランドの準備をする。 ・ペットボトルを並べる ・ボールを取りに行き、みんなで教室まで運ぶ。	・挨拶のカードを提示し声を掛けてから、写真カードを提示し挨拶の声掛けをする。 ・ペットボトルを枠の印の所に並べられるよう、枠への指差しや声掛けで支援する。 ・ボールがどこにあるか問い掛け、児童たちで取りに行き、運ぶ動きを見守る。	・C児には挨拶の手話を見せる。 ・A児とC児には、手伝ってほしいことが身振りで伝えられるよう、困っている場面があれば視線を向けるか声を掛ける。
展開 (25分)	3 本時の学習内容を知る。 ・活動の流れと遊ぶ時のルールを確認する。 4 ボールランドで遊ぶ。(ダンボールに乗り、ボールの上を前後に引っ張ってもらうなどして遊ぶ) ① 1人は切符を渡して引っ張る役をし、1人ずつ乗って遊ぶ。(2分で交代する) ・引っ張る役は切符のかごをもらう ・乗る人は写真カードを貼って切符をもらいに行く(②でも同じ) ・切符を手付けて座って乗り、やってほしいことを身振りで伝え、引っ張ってもらう ・引っ張る役は、切符を渡すとロープ	・乗る人の動きと切符を渡して引っ張る人の動きを、T2とT3が見せ、T1も言葉を添えて伝える。 ・引っ張る役の人の写真カードをかごに貼り、立ち位置用にケンステップを置いておく。 ・引っ張る役の1番目は、児童役でT2が見本を示し、関わりながら活動する。その後はC児、A児、B児、C児、B児、A児の順で行う。乗る人は、A児、B児、C児、A児、B児、C児、B児の順で行う。 ・切符をもらいに行く際は、T1が友達への指差しや「切符をください」と言葉を添え、児童が身振りで伝えられるよう支援する。 ・切符を配る児童には、友達ももらいに来ると、T2が「はい、どうぞ」と言葉や動きを添	・おしまいのルールは、C児にはiPadのタイマーを提示する。iPadは目につく所に置き、気づいていない時は、指差して支援する。 ・写真カードを貼る際は、B児には必要に応じて指差しや声掛けで支援する。 ・A児とB児には、遊具から降りると、席に着く前に切符を渡すことや写真カードを外すことが

	を持ち、乗る人の準備ができれば引張る ・タイマーが鳴ったら下りて切符を渡し、写真カードを外して席に着く。(②でも同じ) ～休憩(トイレ・水分)～	え、渡す支援をする。 ・切符を渡すと、ロープを持ち、引張ることができるよう、児童に応じて指差しや声掛けで支援する。 ・引張っている児童が、ロープを持って引張ろうとする動きや、1人で力強く引張っている動きが見られたら、その場でほめて引張り続ける動きにつなげる。 ・最後はT2が引張る役になり、回転させる動きも加え、ダイナミックに遊べるようにする。A児、B児、C児の順で乗る。	できるように、必要に応じて指差しや声掛けで支援する。 ・B児が切符を渡すときは、切符を持つと自分の手につけようとするところがあるので、友達から要求されてから切符を渡すよう支援する。
展開 (30分)	② みんなでボールランドの中に入りボールを投げたり、キャラクターの箱に入れたりして遊ぶ。	・ボールで十分遊べるよう、ボールを投げ入れて見せたり、様子を見て児童の体を滑らせてボールの感触を楽しめるよう支援する。	
まとめ (20分)	5 振り返りをする。 6 片付けをする。 ・ボールを箱や袋に入れて元の場所に運び、ペットボトルを片付ける。 7 終わりの挨拶をする。	・iPadの動画の一部を提示し、児童の頑張ったところなどを簡単な手話も交えて伝える。ボールの方に気がそれる児童がいれば、声掛けなどで支援する。 ・片付けの写真カードを提示し、1人ずつかごを渡す。教師も片付けをしながら、指差しやボールを入れる動きを見せる。かごがいっぱいになったら箱を指差し、入れる支援をする。 ・できたときは、その場でほめる。 ・ボールを運ぶ際は児童たちでできるように見守る。 ・ペットボトルや片付け場所を指差しし、自分で運べるように支援する。	・C児には手話カードを選んで発表できるようにする。 ・C児にはキャラクターの段ボール箱に入れる動きを見せたり、片付けができていたところを手話でほめる。 ・A児とB児は、必要に応じて、ボールに手を導いたり、かごや段ボール箱を指差し支援する。

b 学習過程分析表

単元(題材)名	「ボールランドで遊ぼう」 (7,8/8時間目)	
本時の目標	○切符を渡したら、引張る役をすることが分かり、遊具を引張ることができる。(思考力・判断力・表現力)	
学習活動		
導入	1 始まりの挨拶をする。 2 ボールランドの準備をする。 ・ペットボトルを並べる ・ボールを取りに行き、みんなで教室まで運ぶ。 3 本時の学習内容を知る。 ・活動の流れと遊ぶ時のルールを確認する。	<p>■主体的な学び：学習活動への参加 「できそう」と思える</p> <p>①環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定(座席配置、遊具の位置、教員の位置等) ・見通し <p>②手順理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示(音声言語-視覚情報-見本-一緒に) ・手順表 <p>③活動中への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援
展開	4 ボールランドで遊ぶ。(ダンボールに乗り、ボールの上を前後に引張ってもらうなどして遊ぶ) ① 1人は切符を渡して引張る役をし、1人ずつ乗って遊ぶ。(2分で交代する) ・引張る役は切符のかごをもらう ・乗る人は写真カードを貼って切符をもらいに行く(②でも同じ) ・切符を手付けて座って乗り、やってほしいことを身振りで伝え、引張ってもらう ・引張る役は、切符を渡すとロープを持ち、乗る人の準備ができれば引張る ・タイマーが鳴ったら降りて切符を渡し、写真カードを外して席に着く。(②でも同じ) ② みんなでボールランドの中に入りボールを投げたり、キャラクターの箱に入れたりして遊ぶ。	<p>■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ</p> <p>①他者からの情報を得て活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ <p>②他者の成功・失敗を見て学ぶ</p> <p>②役割の中で活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) <p>③仲間と問題(課題)を捉え解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと
まとめ	5 振り返りをする。 6 片づけをする。 ・ボールを箱や袋に入れて元の場所に運び、ペットボトルを片付ける。 7 終わりの挨拶をする。	<p>■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす

(オ) 成果と課題

繰り返し取り組むことで、順番を待つことや、切符を渡して乗ること、友達を乗せて引っ張ることなど、声掛けや指差しの支援が必要な児童もいるが、ルールが分かり、活動できる場面が増えてきている。乗る時には写真カードを自分で取りボードに貼ったり、切符をもらう時には手をたたいて「ちょうだい」と要求してもらったりすることができた。切符を渡したりロープを持って引っ張ったりすることは、手添えや声掛け、指差しなどの支援が必要である。また、ルール説明が多いこと、順番や切符のやり取りなどに重きが置かれていたので、分かりやすくシンプルにする工夫をし改善していきたい。そして、遊ぶ活動の時間を十分確保し、楽しい活動を通してルールを守ることや、主体的に活動する意欲につながるような工夫が必要であると考えます。

ウ 実践事例Ⅱ

(ア) 単元名「わくわくランドで遊ぼう」

(イ) 単元設定の理由

本単元では、すべり台を滑ってボールプールに入ったり、台車のついたたらいを飾り付けし、乗って光のトンネルをくぐるといった活動ができるよう「わくわくランド」を設定した。体を動かす遊びの活動や遊具を飾り付けるなどの制作の活動では、児童の興味・関心が高く、意欲的に取り組み、気付きや要求の表出を促しやすい。準備や片付けの場面でも友達と一緒に見通しをもって取り組むことができると考えた。また、遊びの楽しさを味わう中で、簡単なルールを守り、友達と関わりながら活動に取り組み、時間いっぱい活動できることをねらいとした。第1次・第2次では、遊具に飾り付けをすることで、興味・関心をもって乗ることができると考えた。また、順番が分かり座って待つことや、切符を所定の場所に貼って遊具に乗ったり、準備から片付けまで見通しをもって活動できることをねらいとした。第3次では、乗りたい遊具を自分で選び、遊具の所に行き、切符を貼って乗ることや、やってほしいことを身振りで伝え、友達と関わりながら活動できることをねらいとした。

(「知識・技能」)の観点では、遊具を飾り付ける制作の活動を通して、「色付けした紙を遊具に貼り、飾り付けができる。」ことを目標とする。(「思考力・判断力・表現力」)の観点では、遊具に乗るときには切符を所定の場所に貼ることや、タイマーが鳴ると終わることを通して「簡単な決まりを守って遊ぶことができる。」を目標とする。(「学びに向かう力・人間性等」)の観点では、乗りたい遊具を選び切符を貼って乗り、好きな活動ができることを通して、「好きな遊具を選ぶことができる。」ことを目標とする。

遊ぶ場面では、今から遊ぶ児童が自分で切符をボードに貼り、終わると外し、順番が分かりやすくなるようにする。切符をボードに貼ってから遊ぶことや、タイマーが鳴ったら終わることなど、簡単なきまりのある遊びに繰り返し取り組み、主体的に活動に取り組めるようにしたい。また、友達を意識して取り組むことができるように、待つ間はベンチに順番に座り友達が乗っている様子が見られるよう環境設定し、友達の動きに注目したり、友達と関わりながら活動できるように支援をする。そして、乗りたい遊具を選び切符をボードに貼って乗り、好きな活動ができたという体験を通して、さらに、日常生活でも好きな物や活動を選ぼうとする場面が増えるような取組にしたい。

また、次の単元「公園で遊ぼう」においても、この学習で得たことを生かし発展させていきたい。そして、校外学習では、公共交通機関を利用し、切符を買うなどの体験を通して、公共施設の利用につなげていきたい。

(ウ) 本時における目標

○乗りたい遊具を選ぶことができる。(「学びに向かう力・人間性等」)

(エ) 学習活動の展開及び分析表

a 学習活動の展開

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全体	各児童
導入 (10分)	<p>1 始まりの挨拶をする。 2 わくわくランドの準備をする。 ・ドラえもん号とボールを取りに行く 3 本時の学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>① あいさつ ② せんせいのはなし ③ わくわくランド ○じゅんばんにのってみよう ○すきなゆうぐであそぼう ④ ふりかえり ⑤ かたづけ ⑥ あいさつ</p> </div>	<p>・活動内容の写真カードを提示し、挨拶の声掛けをする。 ・ボールとドラえもん号がないことを伝え、場所の写真カードを提示し、取りに行く動きを待つ。 ・学習の流れをスケジュールで提示する。</p>	<p>・C児には挨拶の手話を見せる。 ・A児とC児には、手伝ってほしいことが身振りで伝えられるよう、困っている場面があれば視線を向けるか声を掛ける。</p>
展開 (35分)	<p>4 先生の話聞く。 ・切符を貼って乗り、終わって席に着くまでのルールを知る 5 すべり台で一人ずつ遊ぶ</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>① 切符を取ってベンチに座る ② ボードに切符を貼る ③ すべり台を滑り、ボールプールの中に入り遊ぶ (一人2分ずつ) ④ 終わったら切符を外し、ベンチに座る</p> </div> <p>・もう1回順番に乗って遊ぶ</p> <p>6 ドラえもん号で一人ずつ遊ぶ</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>⑤ 切符を取ってベンチに座る ⑥ ボードに切符を貼る ⑦ ドラえもん号に乗り、光のトンネルをくぐる (一人2周) ⑧ 終わったら切符を外し、ベンチに座る</p> </div> <p>・もう1回順番に乗って遊ぶ</p> <p>～休憩(トイレ・水分補給)～</p>	<p>・活動の中でできたことをその都度ほめる。 ・A→B→Cの順で乗る。順に児童に声を掛け、切符を持ってベンチに並んで座ってから始める。一人終わるごとにベンチの席をボードよりにつめるよう指差しや声掛けをする。 ・活動する間はBGMをかけて楽しい雰囲気をつくり、待つ間には友達の様子に注目したり、期待感もてるように指差しや声掛けなどで支援する。 ・すべり台の階段や滑りやすい所では安全に配慮する。</p> <p>・マグネットを2つホワイトボードに提示し、1周終わるごとに1つずつ外して終わりが分かるようにする。 ・ドラえもん号が教室を進む際は、スピードを速くしたり、回転させるなど変化をつける。 ・光のトンネルでは、イルミネーションを楽しめるように、児童の様子を見ながらゆっくり進むようにする。</p>	<p>・C児にはタイムタイマーを提示し視覚支援する。 ・A児とB児には、自分の番が終わったら切符をボードから外す場面で、必要に応じて指差しや声掛けで支援する。</p>
展開 (30分)	<p>7 先生の話聞く。 ・2つの好きな遊具の切符を選び、切符を貼って乗り、次の遊具を選ぶまでのルールや、タイムタイマーが鳴ると終わることを知る</p>	<p>・切符を選びその遊具で遊んだら、ボードに切符を戻し、次の遊具の切符を選ぶように見本を示す。 ・A→B→Cの順で切符を選ぶ。選んだら切符を持ってベンチに座り、スタートの合図で始める。</p>	

	8 好きな遊具のコーナーで遊ぶ (25分)	<ul style="list-style-type: none"> 活動の中で、切符を戻す場面や好きな遊具を選ぶ場面では、必要に応じて指差しや声掛けで支援する。 遊具が重なったときは、順番にベンチで待てるように、必要に応じて座る位置への指差しや声掛けで支援する。 タイマーで終わりを知らせ、テレビの前に座るよう声を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> A児とB児には、遊具を選んで遊び終わったら、切符をボードに戻す場面やまた次の遊具で遊ぶ場面で、指差しや声掛けで支援する。
まとめ (15分)	9 振り返りをする。 10 片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ボールを集め、袋に入れる。ボールに入れた袋とドラえもん号を運ぶ 11 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> iPadの動画で遊びの活動の振り返りをし、児童の頑張ったところなどを簡単な手話も交えて伝える。 ボールや袋への指差しや声掛けで支援する。片付け場所と一緒にいき、必要に応じて指差しや声掛けで支援する。 活動内容の写真カードを提示し、挨拶の声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> C児には、身振りや手話でみんなの頑張ったところを伝える。

b 学習過程分析表

単元(題材)名	「わくわくランドで遊ぼう」 (3,4/7時間目)		
本時の目標	○乗りたい遊具を選ぶことができる。(学びに向かう力・人間性等)		
学 習 活 動			
導入	1 始まりの挨拶をする。 2 わくわくランドの準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ドラえもん号とボールを取りに行く 3 本時の学習内容を知る。		■主体的な学び： 学習活動への参加 「できそう」と思える ①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> 物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) 見通し ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい指示(音声言語-視覚情報-見本-一緒に) 手順表 ③活動中への支援 <ul style="list-style-type: none"> 学習活動への展開構成 学習活動参加への手がかり ほめ方 修正の方法 障害特性への支援
展開	4 先生の話聞く。 <ul style="list-style-type: none"> 切符を貼って乗り、終わって席に着くまでのルールを知る 5 すべり台で一人ずつ遊ぶ <ul style="list-style-type: none"> もう1回順番に乗って遊ぶ 6 ドラえもん号で一人ずつ遊ぶ <ul style="list-style-type: none"> もう1回順番に乗って遊ぶ 7 先生の話聞く。 <ul style="list-style-type: none"> 2つの好きな遊具の切符を選び、切符を貼って乗り、次の遊具を選ぶまでのルールや、タイムタイマーが鳴ると終わることを知る 8 好きな遊具のコーナーで遊ぶ (25分)		■対話的な学び： 活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> 周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む 他者の見本を見て真似て学ぶ 他者の活動を見て活動する 他者の良さに気づいて自分の活動に活かす 他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ 他者からの問いかけを受けて思考し活動する 他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ 他者の成功・失敗を見て学ぶ ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> 仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う それぞれの役割を行う 役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) ③仲間と問題(課題)を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと
まとめ	9 振り返りをする。 10 片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ボールを集め、袋に入れる。ボールに入れた袋とドラえもん号を運ぶ 11 終わりの挨拶をする。		■深い学び： 学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」 <ul style="list-style-type: none"> 学習活動を通して知識・技能を活動で生かす

(オ) 成果と課題

繰り返しの取組の中で、乗りたい遊具の切符を選ぶ場面が見られるようになってきている。切符のやり取りをシンプルにし、自分の写真と遊具のイラストが入ったものを切符にすることで、ボードに貼ると自分の順番であることが分かり、見通しをもち落ち着いて活動ができていた。また、ベンチに順番に座ることで見通しをもったり、遊んでいる友達の様子を見て楽しんだり、期待感をもって待つことができた。一方で、切符に視線が向きにくかったり、選んだカードと乗りたい遊具が一致しなかったりする場面も見られた。切符のイラストを大きくするなど教具の工夫や、声掛けや指差しで選ぶことの支援を継続していきたい。そして、それぞれの遊具で順番に乗って遊ぶ活動を重ね、見通しをもってできるようになってきたので、これからは、乗りたい遊具を選んで遊ぶ活動を中心に取り組んでいくようにし、

遊具で活動できる時間をさらに確保し、より主体的な活動につなげていきたい。

エ A組における取組のまとめ

(ア) 実践を通して

「エアートランポリンをしよう」から「わくわくランドで遊ぼう」までの年間を通した遊びの取組では、遊具に乗る際の簡単なルールが分かることや、準備から片付けまで時間いっぱい活動できること、友達や教師と関わりながら活動できることなどの目標を基本とし、單元ごとに授業改善を積み重ねることによって、様々な児童の変容が見られた。児童の好きな遊びや興味のもてる遊びを設定し、遊具の準備～先生の話～遊び～振り返り～片付けという流れを基本とし取り組んだことで、活動に意欲的に取り組むことができ、どの單元においても遊具の準備物を自分から取りに行き、片付けまで時間いっぱい活動することができた。また、遊具の準備物を友達と一緒に運ぶことができるようになり、やってほしいことを身振りで伝えることができるなど、身近な人と関わりながら活動できる場面が増えてきた。そして、児童が主体的に活動できるように、遊具に乗る際の順番の写真カードや遊具の切符などの視覚支援をし、座って待つ位置などの環境を整え、繰り返し取り組んできた。「わくわくランドで遊ぼう」では、どの児童も自分の順番になると写真カードや切符を所定の場所に貼ってから乗るというルールが分かり、順番に乗る場面では見通しをもって活動することができるようになった。乗る順番に並んで座って待ち、乗る時にカードを貼るという分かりやすいルールによって、順番が来るまで、友達の様子を見ながら落ち着いて待てる場面も増えてきた。また、乗りたい遊具の選択については、2名の児童は、選んだ遊具の切符と乗りたい遊具が一致しない場面が見られたため、より分かりやすいようにイラストでなく写真にすることや、今後の学習場面でも、身近な物の写真カードを選び、要求を伝えることができるように継続していく必要がある。「わくわくランドで遊ぼう」の単元を発展させた「わんぱく」への校外学習では、事前学習や当日でも遊具の写真カードを指差して、乗りたい遊具を選び楽しむことができた児童が複数見られ、学習の成果を生かすことができた。児童の実態に幅が見られるため、今後もより個々の実態に応じた目標設定や視覚支援などの手立てをし、児童が主体的に活動できるように分かりやすい視覚支援と学習の流れや環境を設定し、授業改善に取り組んでいきたい。

(イ) 分析表改善に向けて

これまでの遊びの取組の中で、遊具に乗る際に、順番の児童の写真カードの提示や、児童の写真付きの遊具の切符を選んで、乗る時にボードに貼るようにするなど、児童が主体的に活動できるように、写真等のカードを活用することは欠かせなかった。また、活動の終わりが分かるようにタイムタイマーの活用や、決まった回数の活動の終わりが分かるように、貼った磁石を1回ごとに外すなど、活動の終わりへの支援も継続して行ってきた。「③活動中への支援」の「学習活動参加への手がかり」や「障害特性への支援」と関連する内容だが、「写真カードなどの視覚支援」という具体的な項目もあるとよいのではないか。

また、活動のまとめでは、個人目標などに関する活動の動画を視聴して振り返りを行ってきたが、「①他者からの情報を得て活動する」の評価に関する項目には児童の実態に適したものがないので、「活動を振り返り自己評価する」という項目があるとよいのではないか。深い学びについては、児童の実態から、授業の中で「学習活動を通して知識・技能を活動で生かす」ということが難しく、学習したことを校外学習や他の場面で生かしていけるようにしたい。

(2) B組における取組

ア 取組にあたり

(ア) はじめに

本学級は、3年生3名、4年生4名の計7名で構成されている。そのうち2名は昨年度、1名は今年度からの転入生である。このグループでの学習は3年目であり、共に生活をしていく中で、友達や教師に関わろうとする様子が増えてきた。全員が言葉による簡単な指示を理解することができ、ほとんどの児童が簡単な言葉でのコミュニケーションが可能である。どの児童もスケジュールを提示することで見通しをもって取り組むことができるが、急な予定変更や自分の思いと違う状況を受け入れること、時間になったらすぐに活動を終わらせることが難しい児童もいるため、事前のスケジュール提示や分かりやすい声掛け、終わりを知らせる支援の工夫などに配慮して授業を行っている。

本学級では、「運動をする習慣をつけ、健康で丈夫なからだをつくる」「自分のことは自分で行うことができる」「いろいろなことを経験し、生活経験を増やす」「友達と関わりながら、集団で活動することに慣れる」の4つを学級目標として、さまざまな学習に取り組んできた。見本を提示したり、イラストや写真、文字を活用した手順書を用意したり、環境設定を工夫したり、実態に応じた支援をすることで、できるだけ一人で活動できるようにしている。

(イ) 単元計画

今年度、本学級では児童たちの興味・関心の強い調理学習において、教師の支援を減らして自分で作る経験を増やすことや調理道具の経験を広げることをねらいとして実践を行った。

a 生活単元学習の年間計画

1学期				2学期				3学期			
4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ピザトースト 野菜スープ お好み焼き【実践事例Ⅰ】 なつまつりに向けて(製作・販売) 防災学習				カレープレート【実践事例Ⅱ】 作品展に向けて(制作) 防災学習				校外学習 クリスマス飾り(制作) 防災学習	調理	校外学習 卒業生を送る会 に向けて(制作) 防災学習	
カレンダー作り											
ゲーム・散歩											

b 実践事例の単元計画

実践事例Ⅰ「みんなで作ろう！お好み焼き」(全16時間)

- 第1次 お好み焼きを作ろう・・・12時間
- 第2次 材料を買いに行こう・・・2時間
- 第3次 買ってきた材料でお好み焼きを作ろう・・・2時間(本時)

実践事例Ⅱ「切って、量って、カレープレートを作ろう！」(全13時間)

- 第1次 フルーチェを作ろう・・・2時間
- 第2次 野菜サラダを作ろう・・・2時間
- 第3次 カレーライスを作ろう・・・2時間
- 第4次 材料を買いに行こう・・・1時間
- 第5次 カレープレートを作ろう・・・6時間(本時5、6/6)

イ 実践事例Ⅰ

(ア) 単元名 「みんなで作ろう！お好み焼き」

(イ) 単元設定の理由

本単元では、お好み焼き作りの学習を設定する。どの児童も食べることが好きであり、お好み焼きは全員が共通して好きなメニューであったため、興味・関心をもって意欲的に取り組むことができると考えた。お好み焼き作りには、水の計量や卵を割る、具材を切る、材料を混ぜる、焼くなどの工程がある。その中でも、キッチンばさみや包丁を使って具材を切る活動と計量カップで水を量って生地を作る活動は、個々の実態に応じて設定することができ、様々な調理道具の経験ができるのではないかと考える。また、材料を自分たちで買いに行く機会も設定し、お好み焼きに必要な材料を知ることや商品を選びレジでお金を払うといった買い物の仕方を知ることにもつなげたい。

（「知識・技能」）の観点では、調理活動を通して、「手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けること」や買い物の活動を通して「金銭の扱い方などを知ること」を目標とする。（「思考力・判断力・表現力」）の観点では、「簡単な指示や説明を聞き、その指示に応じた行動をする」力を養いたい。（「学びに向かう力・人間性」）の観点では、「様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとすること」を目標とする。

（ウ）本時における目標

- ・包丁やキッチンばさみを使って野菜を切ったり、生地を作ったりすることができる。（「知識・技能」）
- ・作業手順を思い出したり手順書を確認したりしながら、お好み焼きを作ることができる。（「思考力・判断力・表現力」）

（エ）学習活動の展開及び分析表

a 学習活動の展開

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全 体	各児童
導入 (10分)	1 日直が始めのあいさつをする。 2 お好み焼きを作ることを知る。 3 お好み焼き作りについて知る。 ・お好み焼き作りの流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①準備をする。 ②野菜を切って生地を作る。 ③混ぜる。 ④焼く。 ⑤食べる。 </div> ・材料と担当する役割を確認する。	○お好み焼きの写真を提示し、何を作るのかが分かるようにする。 ○活動の流れを提示し、見通しがもてるようにする。 ○材料の写真を提示する。 ○材料の横に担当する児童の顔写真を貼り、役割が分かるようにする。	○日直に、全員が姿勢したことを確認してから号令をかけるように促す。
展開 (85分)	4 野菜を切り、生地を作る。 ・手順書をもらう。 ・材料と道具を準備する。 ・野菜を切ったり、生地を作ったりする。 ・できた材料をT1に渡し、使った道具をそれぞれの机に片付ける。 ・机を拭く。	○手順書には個人目標も提示し、児童に渡す時に確認する。 ○材料と道具の置き場所を知らせる。 ○できるだけ一人でできるように、手順書や見本を確認することを促す。 ○道具を片付ける場所に写真を提示する。	○手順書は、 C児：めくり式 その他：一覧式 D児には、手順書は用意せず、工程を思い出しながら活動することを伝える。 ○C児はT4がiPadで撮った写真を見て確認する。

	5 できた材料の確認をする。	○手順書に示された目標が達成できたか、切った野菜や iPad を見せながら問いかけ、児童同士で評価し合えるようにする。	○切った野菜や iPad を見せながら問いかけ、友達を評価する時間を設ける。
	6 具材を混ぜる。	○具材をそれぞれ2つずつに分けて用意し、活動がスムーズに進むようにする。	
	7 お好み焼きを焼く。 ・型に流し入れる。 ・ひっくり返す。 ・お皿にのせ、ソースと鰹節をかける。	○型から外すのは教師が行う。 ○お好み焼きに火が通っていると思うかを児童に問いかけたり、ひっくり返す時にはホットプレートに手が当たらないように見守ったりする。	
まとめ (5分)	9 食べ終わったお皿を片付ける。	○食べ終わった児童から、流しでお皿とフォークを水洗いするように声掛けをする。	○日直に、全員が姿勢したことを確認してから号令をかけるように促す。
	10 日直が終わりの挨拶をする。		

b 学習過程分析表

単元(題材)名	みんなで作ろう! お好み焼き(15.16/16時間)~買った材料でお好み焼きを作ろう(1, 2/2時間目)~		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・包丁やキッチンバサミを使って野菜を切ったり、生地を作ったりすることができる。(知・技) ・作業手順を思い出したり手順書を確認したりしながら、お好み焼きを作ることができる。(思・判・表) 		
	学 習 活 動		
導入	1 はじめのあいさつをする。 2 お好み焼きを作ることを知る。 3 お好み焼き作りについて知る。 ・お好み焼き作りの流れを確認する。 ・材料と担当する役割を確認する。		■主体的な学び : 学習活動への参加 「できそう」と思える ①環境設定 ・物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) ・見通し ②手順理解 ・分かりやすい指示(音声言語-視覚情報-見本-一緒に) ・手順表 ③活動中への支援 ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援
展開	4 野菜を切り、生地を作る。 ・手順書をもらう。 ・材料と道具を準備する。 ・材料づくりに取り組む。 ・できた材料をT1に渡し、使った道具を片付ける。 ・机を拭く。		■対話的な学び : 活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ ①他者からの情報を得て活動する ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ
	5 できた材料の確認をする。 6 具材を混ぜる。 7 お好み焼きを焼く。 ・型に流し入れ、ひっくり返す。 ・お皿にのせ、ソースと鰹節をかける。 8 お好み焼きを食べる。		②役割の中で活動する ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) ③仲間と問題(課題)を捉え解決する ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと
まとめ	9 食べ終わったお皿を片付ける。 10 日直が終わりの挨拶をする。		■深い学び : 学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」 ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす

(オ) 成果と課題

児童の実態に応じてキッチンばさみや包丁、計量カップなどを扱った。どの児童も学習を重ねる中で使用した調理道具のスキルが向上し、教師の手添えや声掛けが無くても一人でできるようになった。特に切る活動に関しては、大きさの見本を提示したことで、見本の大きさを意識して切ることができるようになった児童が多かった。また、実態に応じた手順書を用意し何度も取り組むことで、児童たちが活

動の流れに沿って一人で活動できるようになってきた。今回の授業では対話的な学習として、児童が準備した材料を見本と比べながら他者評価する場面を設定した。それに関して、大きさの見本を提示した上で他者評価をする必要性があったのかという指摘をいただいた。学び方が適切であったか、活動の妥当性を検討する必要性があったと考える。そして、本単元では役割を分担したため、児童によって切る活動又は量る活動のみに活動が限定されてしまった。調理道具の経験を広げるといふ目標を達成するためにも、児童の活動を広げたり、一人で全工程を行ったりしていくことが課題として残った。



図1 手順書を確認する様子

ウ 実践事例Ⅱ

(ア) 単元名 「切って、量って、カレープレートを作ろう！」

(イ) 単元設定の理由

本単元はカレーライスと野菜サラダ、フルーチェの3品を協力して作り、昼食を作る単元である。カレーライスは、どの児童も好きなメニューであり、食べられない食材がある児童も具材を工夫することで、興味・関心をもって意欲的に取り組むことができると考えた。カレーライス作りには、米を炊く、材料を切る、水を量る、混ぜる、煮るといった工程があり、1学期に行ったお好み焼き作りで経験した工程を生かし、児童が扱った経験の少ないIH調理器や炊飯器を扱い、調理道具の経験を広げることができる。一人で調理活動に取り組むことができる児童には、一人で米を炊くことを経験し、将来一人で簡単な調理をすることにつなげたい。野菜サラダとフルーチェは、ドレッシングの種類やフルーチェの味を児童が選択する時間を設けることで、児童の希望を取り入れた調理活動が設定でき、調理活動の楽しみが増える。また、材料を自分たちで買いに行く機会を設定し、商品を選んだり、レジでお金を払ったりといった買い物の経験をすることにもつなげたい。

(「知識・技能」)の観点では、調理活動を通して「量の違いが分かたり」、「決められた量を量る」ことを身に付けたりする。買い物を経験する中で、教師と一緒に又は一人で「金銭を扱うこと」を目標とする。(「思考力・判断力・表現力」)の観点では、自分の好きなサラダのドレッシングやフルーチェの味を選び、伝えることで「伝えたいことを選んだり考えたりする」ことを目標とする。(「学びに向かう力・人間性等」)の観点では、単元全体を通して「様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする」力を養っていききたい。

(ウ)本時における目標

- ・計量カップや計量スプーンで、必要な分量を量ることができる。(「知識・技能」)
- ・手順書を確認しながら、教師や友達と一緒にカレープレートを作ることができる。(「知識・技能」)

(エ) 学習活動の展開及び分析表

a 学習活動の展開

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全体	各児童生徒
導入 (10分)	1 初めの挨拶をする。 2 学習の流れを知る。 ○カレープレートを作ることを知る。	○ホワイトボードにメニューのイラストを貼り提示する。	○日直に、全員が姿勢したことを確認してから号令をかけるように促す。

	<p>○学習の流れを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>① 米を炊く カレーの材料を切る</p> <p>② カレー、サラダ、フルーチェを作る</p> <p>③ 食べる準備をする</p> <p>④ 食べる</p> </div> <p>3 役割を知る。</p>	<p>○見通しがもてるように、学習の流れを提示する。</p> <p>○担当する具材の横に児童の写真を貼って説明する。</p>	
展開 (80分)	<p>4 カレーの材料を準備する。</p> <p>○手順書をもらう。</p> <p>○材料や道具を準備する。</p> <p>○カレーライス材料を準備する。 ・米を炊く。(D児) ・材料を切る。</p> <p>○できた材料をT1に渡し、道具を片付ける。</p> <p>5 カレープレートを作る。</p> <p>○役割を知る。 ◎カレーを作る。 ① 材料を炒める。 ② 水を量り鍋に入れ、煮る。 ③ ルーとほうれん草を入れて煮込む。 ④ 道具を片付ける。</p> <p>◎サラダを作る。 ① レタスを手でちぎる。 ② トッピングを用意する。 ③ ドレッシングを作る。 ④ 盛り付ける。 ⑤ 道具を片付ける。</p> <p>◎フルーチェを作る。 ① 牛乳を冷蔵庫に取りに行く。 ② フルーチェの素を入れる。 ③ 牛乳を量って入れる。 ④ スプーンで混ぜる。 ⑤ 取り分ける。 ⑥ 道具を片付ける。</p> <p>6 食べる準備をする。</p> <p>○机を並べる。 ○食堂に皿やスプーンを取りに行く。</p>	<p>○タイマーが鳴ったら、活動の途中でやめることを確認する。 ○道具と材料の置き場所を伝える。 ○B、C、G児は、材料を少しずつ渡し、なくなったらMTのところに来るように伝える。 ○タイマーを鳴らして、終わりを伝える。</p> <p>○担当するメニューの横に児童の写真を貼って説明する。 ○活動が終わった児童には、使い終わった道具を保護者控室に運ぶように伝える。</p> <p>○給食の時と同じように机を配置することを伝える。 ○食堂に誰が何を取りに行くかを伝える。</p>	<p>○左利き用のキッチンばさみを使用する。(G児) ○自動で開くキッチンばさみを使用する。(B児) ○玉ねぎのイラストに線を引き、玉ねぎの上に置いて線の所を切ることを伝える。(F児)</p> <p>○カレールーをそっと入れるように伝え、手本を見せる。</p> <p>○調味料は受け皿の上で量るよう声掛けする。 ○量る回数をイラストで提示する。</p> <p>○教師と一緒に計量カップの印まで入れることを確認する。 ○計量カップの印に目線を合わせるように声掛けする。</p>
まとめ (10分)	<p>7 カレープレートを盛り付けて食べる。</p>	<p>※7は本時以降に行う。 ○盛り付ける時は、やけどに気を付けるように伝え、見守る。</p>	

b 学習過程分析表

単元(題材)名	切って、量って、カレープレートを作ろう！(12、13/13時間)～カレープレートを作ろう(5、6/6時間)～	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計量カップや計量スプーンで、必要な分量を量ることができる。(知・技) ・手順書を確認しながら、教師や友達と一緒にカレープレートを作ることができる。(知・技) 	
学 習 活 動		
導入	1 初めの挨拶をする。 2 学習の流れを知る。 3 役割を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ■主体的な学び：学習活動への参加 「できそう」と思える ①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ●物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) ●見通し ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> ●分かりやすい指示(音声言語一視覚情報一見本一一緒に) ●手順表
展開	4 カレーの材料を準備する。 5 カレープレートを作る。 ○手順書もらう。 ◎カレーを作る。 ◎サラダを作る。 ◎フルーチェを作る。 ○使った道具を片付ける。 6 食べる準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ③活動中への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ●学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援 ■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ●他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ●他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ●それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) ③仲間と問題(課題)を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと ■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」 ●学習活動を通して知識・技能を活動で生かす
まとめ	7 カレープレートを盛り付けて食べる。	

(オ) 成果と課題

実践Ⅰでの課題を生かし、本単元では児童それぞれに切る活動と量る活動の両方を設定したことでどの児童も調理器具の経験を広げることができた。特に量る活動においては、本単元が始まる前にゲームの取組で計量カップや計量スプーンを使った水量りゲームを行っていたこともあり、全13時間という短い単元ではあったが、ほとんどの児童が目標を達成することができた。ただし、1名の児童は量ることが難しかったため、目標設定や支援方法を検討する必要がある。手順書は児童の実態を考え一部の児童を一覧式からめくり式に変更したことで、より手順書を見て一人で活動する様子が見られるようになった。児童によっては工程の一部を覚え、手順書を見ずに活動している様子も見られたため、今後は児童に応じて手順書が無くても活動できるよう支援が必要である。また、量る活動が難しい児童には、手添えをして成功体験をさせる必要があったと指摘をいただいた。児童の実態把握を重ね、システムティック・インストラクションに基づき、体系に沿った指導をしていくことが課題である。



図2、3 計量する様子

エ B組における取組のまとめ

(ア) 実践を通して

今年度、本学級での調理活動は、教師の支援を減らして自分で作る経験を増やすことや調理道具の経験を広げることをねらいとして取り組んできた。2つの実践事例を通して、切る・量る活動を中心に設定したことで児童それぞれに成長が見られ、一部の児童のみではあったがIH調理器や炊飯器を扱うことができた。米を一人で研ぎ炊飯器で炊く活動を行った児童は、家庭でも家族分の米を炊くようになり、家庭への般化につながった。こういったスキルの習得、家庭や日常生活での般化は深い学びの成果であったと考える。また、手順書や環境設定の工夫、教師が子どもの活動を見守り待つ支援を行ったことにより、児童が主体的に活動し自分で作る経験を増やすことにつながった。しかし、待つことが優先されてしまい、支援が必要な児童への支援ができていない部分もあった。児童の実態把握に努め、活動の課題分析を十分に行ったうえで、児童の理解度に合わせて「手添え」「見本の提示」「ジェスチャー」「言語指示」といった支援の段階を整理すること（システムティック・インストラクション）は今後の課題である。

今年度、小学部の研究テーマである「子どもの主体的・対話的で深い学びをつくる授業づくり」に向けて授業実践に取り組んできたが、実践事例Ⅰでは活動の振り返り場面が対話的な学びありきの活動設定になってしまった。今後の課題として、まず子どもたちに何を学ばせたいのかを考え、その学習方法について、主体的・対話的で深い学びの視点から整理していく必要がある。

(イ) 分析表改善に向けて

本学級には、日常生活や授業場面で自分から他者に報告を行い活動に取り組むことが目標となる児童がいる。実践事例Ⅰ・Ⅱにおいても意図的に報告の場面を設定してきた。しかし、対話的な学びの項目には「他者からの情報を得て活動する」ことに関する項目が多く、受動的な印象がある。そのため、「他者への報告や意思表示を行い活動に取り組む」等の項目を設定してはどうだろうか。

(3) C組における取組

ア 取組にあたり

(ア) はじめに

本学級は、小学部5年生4名の児童で構成されている。全員が自閉症と知的障害を併せ有する児童である。3語文程度の言葉があり、1、2往復程度の具体的な会話ができる児童から、発語はないが、絵カードや写真カードを使って自分の要求を伝えることのできる児童まで実態は様々である。学校生活では、どの児童も朝の会でのスケジュール提示を見て一日の活動に見通しをもったり、個々のスケジュールを確認して次の授業や移動する教室が分かって動いたりするなど、主体的に行動したりすることができている。

授業場面においても、構造化された環境であれば自主的に行動しやすく、繰り返しの学習の中で習熟度を高めることは必要であるが、スケジュールに注目するよう促すと、次の行動が分かって動ける。個別学習の中では、課題が終わったら言葉やカードで報告することは定着しているが、学校生活や授業場面においても、必要な時に自分から教師に報告することはまだ確実ではない。また、手伝って欲しい時や、どうしたらいいか分からず困っている時に援助を求めることも課題である。

対人関係では、一緒に遊ぶことを求めたり、一方的ではあるが、話しかけたりするなど、積極的に友達に関わっていく児童もいれば、欠席の児童の友達を気にしたり、順番に使う物を次の友達に渡したりするなど、少しずつではあるが友達への関心が芽生え始めた児童もいる。

児童の興味・関心については一人一人異なるが、食べることや買い物、調理が好きな活動であることは共通している。偏食のある児童もおり、調理活動を含む生活単元学習を計画する際には、事前に保護者から簡単な聞き取りをしたり、児童が実際に食べてみたりして実態把握を行っている。

実践事例Ⅰ、Ⅱでは、調理活動を中心とした生活単元学習において、構造化された環境の中で学習する態勢になり、スケジュールや手順表を手掛かりにしながら、教師のできるだけ少ない支援で主体的に活動に取り組んだり、絵カードを使って教師に援助を要求したりする力を育むことを共通のねらいとして取り組んだ。

生活単元学習を、今まで児童が個別学習や普段の学校生活の中で身に付けてきた力の般化の場とし、さらに学びを深め、広げていけるような活動の設定を工夫した。

(イ) 単元計画

a 生活単元学習の年間計画

1 学期				2 学期				3 学期		
4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
とび石づくり				作品展に向けて				学習発表会に向けて		
歩行学習				(Ⅱ)サツマイモでつくるう						
(Ⅰ)お弁当をつくってみんなで出かけよう				修学旅行に向けて				卒業生を送る会に向けて		

※(Ⅰ)は実践事例Ⅰを示す。※(Ⅱ)は実践事例Ⅱを示す。

b 実践事例の単元計画

実践事例Ⅰ「お弁当をつくってみんなででかけよう」(全24時間)

- (A) お弁当の材料を買いに行こう 2時間
- (B) お弁当をつくろう 2時間(本時1. 2/2時間)
- (C) お弁当を持ってでかけよう 2時間

※本単元では、(A)、(B)、(C)を一連の活動として繰り返し行い、全24時間の授業を行う。

実践事例Ⅱ「サツマイモでつくろう～パウンドケーキとチップス～」(全13時間)

- 第1次 サツマイモを収穫しよう 1時間
- 第2次 材料を買いに行こう 2時間
- 第3次 パウンドケーキとチップスをつくろう 10時間

イ 実践事例Ⅰ

- (ア) 単元名「お弁当をつくってみんなで出かけよう」
- (イ) 単元設定の理由

本学級の児童は、今年度転入してきた1名の児童を除き、昨年度、好きなおかずを選んで買い物をして、スケジュールや手順書を活用して、教師の少ない支援でお弁当をつくり、公園へ遊びに行ってお弁当を食べる経験をしてきている。どの児童も、買い物や調理、公園に出かけてお弁当を食べることに対して意欲的である。

本単元では、昨年度に引き続き、自分が食べたいおかずを選んで買い物をする、お弁当を作る、作ったお弁当を持って公園に出掛けるという一連の活動に取り組む。お弁当を作る活動では教師の支援を受けながら道具の準備から片付けまでを自分たちで行うようにする。お弁当を作る活動に、必要な調理用具を自分たちで準備したり、使った食器を自分たちで洗ったりする過程を含むことで、より実際の生活に近い形の活動になり、そこで身に付けた力が現在や将来の生活に生かされると考える。

本単元で育成をめざす資質・能力を三つの観点から示す。「知識・技能」の観点では、買い物活動において、教師の支援を受けながら、品物を選んでレジまで持って行く、店の人に金銭を渡す、品物を袋に入れるなどの体験を通して、物の買い方を知ることを行いたいとする。また、調理活動において、弁当づくりの手順について知り、教師に援助を求めながら作る力を育てる。「思考力・判断力・表現力」の観点では、困ったときに言葉や絵カードで援助要求する力を育てる。「学びに向かう力」の観点では、調理活動を通して、教師の言葉掛けを聞いたり、スケジュールや手順書を見たりして、次に何をするのか分かり、できるだけ一人で行動しようとする意欲や態度を育てる。

児童が主体的に買い物や調理に参加したり、教師等と対話して能動的に思考したりすることで、学びの幅を広げたり、満足感や達成感を感じることでできる学習過程を通して、これらの資質・能力を身に付けさせたい。

(ウ) 本時における目標

- ・ 弁当作りの手順について知り、教師に援助を求めながら作ることができる。(「知識・技能」)
- ・ 困ったときに言葉や絵カードで援助を要求することができる。(「思考力・判断力・表現力」)
- ・ 教師の言葉掛けを聞いたり、スケジュールや手順書を見たりして、次に何をするのか分かり、できるだけ一人で行動しようとする意欲や態度を育てる。(「学びに向かう力・人間性等」)

(エ) 学習活動の展開及び分析表

a 学習活動の展開

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全 体	各児童生徒
導入 5分	<p>・エプロン、帽子、マスクを着け、手洗いを済ませて集合する。</p> <p>1 始まりの挨拶をする。</p> <p>2 教師の話を読み、本時のスケジュール（下図）を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① あいさつ ② せんせいはなし ③ てあらい ④ どうぐのじゅんぴ ⑤ べんとうづくり ⑥ しょつきあらい ⑦ ひるごはん ⑧ おわりのあいさつ</p> </div>	<p>・児童の立つ位置が分かりやすいように足形をつけておく。</p> <p>・スケジュールカードに注目できるように名前を呼んで促す。</p> <p>・終わったスケジュールはカードをはずしていく。</p>	<p>・足形に注目できるように指さして促す。（児童A、B）</p> <p>・スケジュールのイラストに注目するように促す。（児童A、B）</p> <p>・スケジュールの文字を読むように促す。（児童C、D）</p>
展開 50分	<p>3. 手洗いをする。</p> <p>4. 弁当をつくる。</p> <p>・手順書（下図）を見ておにぎりを作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① どうぐをじゅんぴする ② ごはんにふりかけをかける ③ おにぎりをつくる ④ べんとうばこに入れる</p> </div> <p>・手順書（下図）を見ておかずを作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① どうぐをじゅんぴする ② ざいりょうをじゅんぴする ③ レンジであたためる ④ レンジであたためる ⑤ レンジであたためる ⑥ べんとうばこに入れる</p> </div> <p>・2時間目の休憩はとらず、終わった児童から道具を運ぶ。</p> <p>5 それぞれの場所で使った道具を片付ける。（下図はD児の手順書）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① どうぐをとる ② スポンジであらう ③ みずでながす ④ ふきんでふく ⑤ おけにいれる ⑥ どうぐをはこぶ</p> </div>	<p>・道具の準備からお弁当づくりまでは個々に行う。</p> <p>・一人一人の児童が主体的に活動しやすいように、作業場を構造化し、お弁当づくりの手順カードをミニホワイトボードに貼って設置する。</p> <p>・電子レンジの順番を並んで待つことができるよう足形を貼っておく。</p> <p>・電子レンジから皿を取り出すときには、やけどしないようにミトンや皿をはさむ道具を使うようにしておく。</p> <p>・洗い場に汚れ物が入ったおけ、かご、洗ったものを入れるおけを並べて置き、児童が①～⑤の手順で洗い上げることができるようそれぞれの実態に応じて支援する。</p>	<p>・トレーに道具の写真を貼り、どこに何を置いて準備すればよいか分かるようにする。指さして次を取る道具の写真に注目できるように促す。（児童A、B）</p> <p>・スケジュールや手順書に注目できるように必要な場合には声かけや指さして促す。（児童A、B、C、D）</p> <p>・助けて欲しいが、自発的にヘルプカードを渡すことができているときは、少し待ってからカードを渡すよう促す。何を助けてほしいか尋ねたり、ヒントを出したりすることで思考できるように促す。（児童D）</p> <p>・十分なスペースを確保するため、道具洗いはそれぞれの場所で作業する。 調理室・・・児童A、児童D 教室・・・児童B 保護者控室・・・児童C</p>
まとめ 5分	<p>6 おわりのあいさつ</p> <p>・教室に戻って、はじめのあいさつの場所に集合する。</p> <p>・教師の声掛けで気をつけ、礼をしておわりのあいさつとする。</p>	<p>・スケジュールカードに注目できるように名前を呼ぶ。</p> <p>・おわりの挨拶の後、公園にかけて弁当を食べよう知らせる。</p>	<p>・児童が全員集合したら、あいさつの前に児童Dに対して教師が簡単な質問をし、考えて応答することで振り返りを促す。</p>

b 学習過程分析表

単元名	お弁当をつくってみなで出かけよう	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・弁当づくりの手順について知り、教師に援助を求めながらつくることができる。 ・困ったときに言葉や絵カードで援助を要求することができる。 ・教師の言葉掛けをきいたり、スケジュールや手順表をみたりして、次に何をするか分かり、できるだけ一人で行動しようとする意欲や態度を育てる。 	
	学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ■主体的な学び：学習活動への参加 「できそう」と思える
導入	1 始まりの挨拶をする。 2 先生の話を書き、本時のスケジュールを知る。	①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定（座席配置、道具の位置、教員の位置等） ・見通し ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示（音声言語-視覚情報-見本-一緒に） ・手順表
展開	3 弁当作りをする。 ・道具の準備をする。 ・スケジュールや手順表を手掛かりに調理をする。 ・道具を調理室に運ぶ。	③活動中への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援
	4 それぞれの場所で使った道具を片付ける。	■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ
まとめ	5 終わりの挨拶をする。	②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ（自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分か ③仲間と問題（課題）を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと
		■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす

(オ) 成果と課題

本時の目標である「困ったときに言葉や絵カードで援助を要求することができる。」については、電子レンジ使用の場面等で全員の児童が達成することができた。一方で、「弁当づくりの手順について知り、教師に援助を求めながら作ることができる。」や「教師の言葉掛けを聞いたり、スケジュールや手順書を見たりして、次に何をするか分かり、できるだけ一人で行動しようとする意欲や態度を育てる。」については、4人中3人の児童が達成したが、1人の児童は習熟するための適切な授業時間を確保することができていなかったことが原因で、多くの支援を必要とし、達成できなかった。こうした結果を踏まえ、単元を通して目指す個々の児童の姿を具体的に描き、達成へのステップを考えておくことが課題となった。

また、本時の目標に対する課題以外の部分では、「児童一人一人の活動で完結しており、児童同士が協力するなどの関わりの場面が無かった」という指摘もあった。生活単元学習の指導計画の作成にあたっては、特別支援学校学習指導要領の中で「単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に

取り組むとともに、学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるものであること。」と記載されている。本単元では、一人一人が主体的に取り組むことのできる活動設定ではあったが、役割分担や協働という面では課題がある。個々の児童の発達段階や、自閉症という障害特性を考えると難しい課題ではあるが、次の実践では、友達と関わる場面を設定して取り組むことで、友達に対する関心を広げるきっかけとしたいと考えた。

ウ 実践事例Ⅱ

(ア) 単元名 サツマイモでつくろう～パウンドケーキとチップス～

(イ) 単元設定の理由

本単元では、自分たちが苗を植え、育ててきたサツマイモを使ってサツマイモパウンドケーキを作る活動を行う。サツマイモパウンドケーキを作るには、砂糖やバター、卵、ホットケーキミックスなどの材料を入れる、ゆでたサツマイモを混ぜる、型に入れる、後のセバターを置く、電子レンジのオープン機能を使って焼くなどの工程がある。サツマイモチップスづくりでは、芋を洗う、芋をスライサーで切る、芋にサラダ油を塗る、トースターで焼くなどの工程がある。これらの様々な作業の中で、スケジュールや手順書を手掛かりに、友達と協力して行ったり、教師に手伝ってもらったりしながら、全員がサツマイモパウンドケーキ作りやサツマイモチップス作りに関わり、4人で作りあげることで自分のできることを増やし、それぞれの生活経験を豊かにすることにつながると考える。

実践事例Ⅰの調理活動と同様に、児童一人一人がその実態に応じて、日々使っているスケジュールや絵カードのシステムを本単元の中でも般化できるようにしたい。知的障害や自閉症のある児童にとって、般化は学びの幅を広げることであり、深い学びにもつながると考える。また、今回の調理では、教師の支援を受けながらそれぞれの工程に取り組む児童が2名と、教師の支援を受けながら児童同士でペアを組み、協力しながらサツマイモチップス作りの活動に取り組む児童2名がいる。児童と教師が関わったり、児童同士が関わったりする中で、協力したり、友達や教師の見本を見て学ぶなど、対話的な学びにもつながると考える。

本単元で育成をめざす資質・能力を三つの観点から示す。「知識・技能」の観点では、サツマイモパウンドケーキの作り方を知り、手順表を見て活動できる力を育てる。「思考力・判断力・表現力」の観点では、絵や写真、文字カードを手掛かりにして必要な材料や調理道具を取ってくる力が育てる。「学びに向かう力、人間性等」の観点では、教師やペアの友達と一緒に意欲的に調理に取り組む態度を育てる。

(ウ) 本時における目標

- ・サツマイモパウンドケーキやサツマイモチップスの作り方を知り、教師の指差し支援を受けながら手順表を手掛かりに調理することができる。(「知識・技能」)
- ・教師の指差し支援で写真カードを注視し、対応した材料や調理道具をお盆に置くことができる。(「思考・判断・表現」)
- ・教師やペアの友達と一緒に調理に意欲的に取り組むことができる。(「学びに向かう力・人間性等」)

(エ) 学習活動の展開及び分析表

a 学習活動の展開

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全 体	各児童生徒
導入 5分	<p>・エプロン、帽子、マスクを着け、手洗いを済ませて集合する。</p> <p>1 始まりの挨拶をする。</p> <p>2 教師の話聞いて、本時のスケジュール(下図)を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①あいさつ</p> <p>②せんせいのはなし</p> <p>③どうぐとざいりょうのじゅんぴ</p> <p>④ちょうり</p> <p>⑤つくえのじゅんぴ</p> <p>⑥かたづけとじゅんぴ</p> <p>⑦あいさつ</p> <p>⑧しょくじ</p> <p>⑨あとかたづけ</p> </div>	<p>・児童の立つ位置が分かりやすいように足形をつけておく。</p> <p>・スケジュールカードに注目できるような名前を呼んで促す。</p> <p>・終わったスケジュールカードをはずしていく。</p>	<p>・足形に注目できるように指差しで促す。(児童A・B)</p> <p>・スケジュールのイラストに注目できるように名前を呼んで促す。(児童A・B)</p> <p>・スケジュールの文字を読むような名前を呼んで促す。(児童C・D)</p>
展開 50分	<p>・児童A・児童Dは、サツマイモを洗い、スライサーで切り、サラダ油を塗ってトースターで焼き、サツマイモチップスを作る。</p> <p>・児童B・児童Cは、それぞれバター、卵、砂糖、ホットケーキミックスをボウルに入れて混ぜ、サツマイモを加え、型に入れて、生地にはバターをのせ、オーブンをセットする工程を担当する。</p> <p>・工程を終えたペアから適宜休み時間を取る。</p> <p>3 4人で役割を分担し、片付けや食事の準備をする。</p> <p>・片付けと食事の準備のスケジュール(下図)を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① あいさつ</p> <p>② つくえのじゅんぴ</p> <p>③ せんせいのはなし</p> <p>④ かたづけとじゅんぴ</p> <p>⑤ あいさつ</p> <p>⑥ しょくじ</p> <p>⑦ あとかたづけ</p> </div> <p>机を並べる…全員 使った道具を洗う…A、D、C 机の台拭きをする…B お盆とフォーク、皿を取りに行く…B お盆をならべる…B フォークを置く…B コップと飲み物を取りに行く…B コップを並べる…B</p>	<p>・手順表を確認し、終わったらはずしていくようにする。</p> <p>・一人一人の児童が主体的に活動しやすいように作業場を構造化する。</p> <p>・スライサーを扱ったり、電子レンジやトースターを使用したりする際には、安全に留意して教師と一緒に行動するようにする。</p> <p>・食事の準備は、自分の役割が分かるようにイラストと写真カードでホワイトボードに示すようにする。</p> <p>・教師がパウンドケーキを切り分けて皿に入れる。</p>	<p>・お盆に道具や材料の写真を貼り、どこに何を置いて準備すればよいか分かるようにする。指差しで次に取る道具の写真に注目できるように促す。(児童B)</p> <p>・手順書に注目できるように指差しで促す。次の行動に移るのが難しいときには、モデルを示す支援をする。(児童A・B)</p> <p>・使った道具を洗い桶に入れて教室の洗い場まで運び、洗剤を使ってスポンジで洗うようにする。(児童A・D)</p> <p>・次の行動に移るのが難しいときには、声掛けや指差しをして、食事の準備ができるようにする。(児童B・C)</p> <p>・次の行動に移るのが難しいときには、声掛け、指差しをしたり、モデルを示したりして支援し、食事の準備ができるようにする。(児童B・C)</p>
まとめ 5分	<p>4 終わりの挨拶をする。</p> <p>5 サツマイモパウンドケーキを食べる。</p>	<p>・スケジュールカードに注目できるように名前を呼んで促す。</p>	

b 学習過程分析表

単元(題材)名	サツマイモでつくろう ～パウンドケーキとチップス～	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモパウンドケーキやサツマイモチップスをつくるのが分かり、教師の指差し支援で手順表を注視し、次の行動に移ることができる。 ・教師の指差し支援で文字カードや写真カードを注視し、対応した材料や調理道具をお盆に置くことができる。 ・教師やペアの友達と一緒に調理に意欲的に取り組むことができる。 	
学 習 活 動		
導入	<p>1 始まりの挨拶をする。</p> <p>2 先生の話を読み、本時のスケジュールを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモパウンドケーキとサツマイモチップスをつくる。 ・それぞれの児童が何をつくるか知る。 ・本時のスケジュールを知る。 	<p>■主体的な学び：学習活動への参加 「できそう」と思える</p> <p>①環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) ・見通し <p>②手順理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示(音声言語-視覚情報-見本-一緒に) ・手順表 <p>③活動中への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援
展開	<p>3 調理をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具と材料の準備をする。 ・手順表を手掛かりに調理をする。 ・道具を調理室に運ぶ。 <p>4 4人で役割を分担し、片付けや食事の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片付けと食事の準備を知ることを知る。 ・それぞれの児童の担当の活動を知る。 ・片付けと準備をする。 	<p>■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ</p> <p>①他者からの情報を得て活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ <p>②役割の中で活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分か) <p>③仲間と問題(課題)を捉え解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと
まとめ	<p>5 終わりの挨拶をする。</p> <p>6 サツマイモパウンドケーキを食べる。</p>	<p>■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす

(オ) 成果と課題

本時の目標である「教師やペアの友達と一緒に調理に意欲的に取り組むことができる」については、全員の児童が達成することができた。でき上がったパウンドケーキやチップスを食べることを楽しみにし、授業に期待感をもって臨んだり、進んで活動に取り組んだりする児童の様子が見られた。

「教師の指差し支援で写真カードを注視し、対応した材料や調理道具をお盆に置くことができる。」の目標についても、全員の児童が達成することができた。指差し支援がなくても、写真カード見て対応する材料や調理道具をお盆に置くことができた児童もいる。

一方で、「サツマイモパウンドケーキやサツマイモチップスの作り方を知り、教師の指差し支援を受けながら手順表を手掛かりに調理することができる。」の目標では、どの児童も前回よりは少ない支援で動くことができていたが、やはり習熟度の問題で多くの支援を必要とした児童もいた。

本時の目標以外では、サツマイモチップスをペアで作る児童に、サツマイモをスライサーで切る場面協力する活動を設定して取り組むことができたことは成果である。はじめは、「A君がスライサー

で切っているから、D君は押さえてあげて」などの声掛けをする教師の介入は必要であったが、回数を重ねるごとに、「D君はどうしたらいいと思う。」など、教師の間接的な言い方だけで気づき、スライサーを固定しているボウルを押さえるようになり、本時では、友達に協力しようとする姿があった。この点については課題もあり、研究協議では、安全面を配慮して、もっと簡単なことで協力する場面の方が良いと助言をいただいた。今後の実践の中で、協力場面を設定していくときには、気を付けていくようにする。

エ C組における取組のまとめ

(ア) 実践を通して

実践事例Ⅰでは、昨年度の実践を参考にしながら、スケジュール作りや教室の構造化に取り組んだ。それを受けて、実践事例Ⅱにおいては、新しい内容の活動を設定し、スケジュールのシステムや教室の構造化は実践事例Ⅰで学んだことを生かすことができた。

実践事例Ⅱでは、目標に対する物以外の部分においても成果が見られた。パウンドケーキ作りに取り組んだ児童2名は、泡立て器や小さいトング、お菓子作り用のヘラなどを使うことができるようになった。また、チップスづくりに取り組んだ児童2名は、オリーブオイルを刷毛で塗ることができるようになった。活動を繰り返し、学習を重ねる中で、このように技能面での向上もあった。

実践事例Ⅰ、Ⅱを通して、目指す個々の児童の姿を具体的に描き、達成へのステップを考えることが課題として残った。次回からの方策としては、単元が始まる前にあらかじめ課題分析を行い、必要な支援を考える等の実態把握を行ったり、授業終了ごとに初めの実態からどれ位習熟度が上がったか記録をしたりしていくなどの取組を積み重ねることで、単元を通して目指す児童の姿を具体的に描いたり、ステップを描いていくことが徐々にできるようになるのではないかと考える。今後の実践の中で取り組んでいきたい。

(イ) 分析表の改善に向けて

本単元で分析表を用いたことにより、本時の活動の中に主体的・対話的で深い学びにつながる要素を設定できているかの確認や、授業改善に向けて足りない要素は何かを知ることができた。また、授業づくりの際にも必要な学習過程の設定に参考になると考える。「知的障害教育における」主体的・対話的で深い学びにつながる要素とは、ということが表の中に具体的に示されており分かりやすかった。

分析表の改善に向けては、「主体的な学び」の中に「④興味・関心のもてる活動設定」の項目を加え、児童生徒が学習活動に参加「できそう」と思えるだけでなく、自ら積極的に「やってみたい」と思えるようにすると良いのではないかと考える。下位項目としては、「児童の興味・関心を惹く導入の工夫」、「効果的な視覚支援教材の提示」などが考えられる。また、あらかじめ教師によって決められた活動をこなすだけでなく、自分たちで考えて行動する「⑤自己選択・自己決定の場面設定」の項目も加えると主体的な学びにつながると考える。下位項目としては、「選択肢の提示」などが考えられる。さらに「深い学び」に「①知識・技能の般化」「②思考・判断・表現場面の設定」の項目を加えると良いのではないかと考える。①の下位項目としては、「場所の般化」「物の般化」「人の般化」と分けて示すことが考えられる。②の下位項目も同様に、「思考場面の設定」「判断場面の設定」「表現場面の設定」と分けて示すことが考えられる。

(4) 小学部D組における取組

ア 取組にあたり

(ア) はじめに

本学級は、小学部6年生4名(A～D)で構成されている。全員が自閉症スペクトラムを併せ有しており、学習指導要領の各教科の段階との関連では、Ⅰ段階の児童が3名、Ⅲ段階の児童が1名という実態である。昨年度は「主体的に学び、友達と一緒に行動できる児童」を学級が目指す子ども像とし、学級目標には「運動の習慣をつけ、体力を高める」「基本的な生活習慣を身に付ける」「生活経験を増やし、学校や身近な社会のきまりを守る」「友達と仲良く過ごし、集団で取り組む力を高める」という4つを設定して実践を進めた。その結果、学級の児童全員が、生活に関わる基礎的な力を向上させることができた。学級集団としては、宿泊学習やなつまつりなどに協力して取り組み、達成感を得るとともに、児童のキャリア発達を促すことができた。そこで、本年度も同様の学級目標を設定して授業づくりを進め、研究テーマに基づいて主体的・対話的で深い学びの実現を意識して生活単元学習の授業改善に努めた。

実践事例では、育てた野菜を調理して食べる「カレーランチを作ろう」と「実りの秋パーティーをしよう」の授業を取り上げることにした。

(イ) 単元計画

a 生活単元学習の年間計画

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6年生 スタート! (全21時間)	宿泊学習を しよう (全14時間)	夏まつりの お店を成功 させよう (全15時間)	育てた野菜を 食べよう① 「カレーランチ を作ろう」 (全16時間) ※実践事例 Ⅰ	作って 遊ぼう (全14時間) うどんを作 ろう (全8時間)	修学旅行 へ行こう (全16時間)	作品を作ろう (全6時間) 育てた野菜を 食べよう② 「実りの秋ご 飯を作ろう」 (全16時間)	「実りの秋 パーティー をしよう」 (全8時間) ※実践事例Ⅱ	もうすぐ中学生 (全23時間) 育てた野菜を食べよう③ (全8時間)		
(年間)カレンダー作り、野菜の栽培(玉ねぎ、米、かぼちゃ、トウモロコシ、ねぎ、さつまいも、ほうれん草、ごぼう、じゃがいも)										
郵便貯金、交流相手への手紙、防災学習										
【ねらい】○簡単なルールのある遊びや作業をみんなと一緒にすることができる。 ○身近な野菜を育て、収穫して味わうことができる。 ○商店で品物を選んで買ったり、簡単な調理をしたりすることができる。 ○いろいろな素材の扱いに慣れ、自分の表したい物を作ることができる。 ○校外学習では指示に従って行動できる。										

b 実践事例の単元計画

実践事例Ⅰ「カレーランチを作ろう」(全16時間)

- 第1次 ランチの材料を買いに行こう・・・8時間
- 第2次 カレーランチを作って食べよう・・・7時間(本時6、7/7時間)
- 第3次 カレーランチを振り返ろう・・・1時間

実践事例Ⅱ「実りの秋パーティーをしよう」(全8時間)

- 第1次 実りの秋パーティーの準備をしよう・・・1時間
- 第2次 招待状を書いて、渡しに行こう・・・1時間
- 第3次 買い物に行こう・・・2時間
- 第4次 実りの秋ご飯を作ろう・・・2時間
- 第5次 実りの秋パーティーをしよう・・・1時間(本時)
- 第6次 振り返りをしよう・・・1時間

イ 実践事例 I

(ア) 単元名「カレーランチを作ろう」

(イ) 単元設定の理由

本学級は、5年生までに様々な調理活動を経験してきている。5月の単元で取り組んだ宿泊学習では、1品からなる食事作りを行い、夕食のチャーハンと朝食のピザトーストを作ることができた。そこで、本単元ではさらに発展させた、3品からなるランチをクラスで協力して作りたいと考えた。メニューは児童の希望も取り入れて、夏野菜カレー、かぼちゃチップス、フルーツゼリーを作ることとした。また、本単元は「野菜を育てよう」の単元と関連しているので、一から自分たちで栽培した野菜を夏野菜カレーに盛り込み調理することで美味しい料理が食べられるという経験を積み重ね、偏食傾向が強い児童でも食べられる野菜が増えることが期待できると考えた。

(「知識・技能」)の観点では、買い物学習を通して教師と一緒にまたは一人で「金銭を扱う力」や金銭を数え、計算する中で「計算の仕方を見つけ出し、学習や生活で生かす力」を養う。また、調理学習を通して、調理器具の使い方や調理法を知り、慣れる中で、「手伝いに必要な知識・技能」を養う。

(「思考・判断・表現力」)の観点では、活動の手順が分かって時間いっぱい活動する力、分からないことや助けてほしいときには、「(教師や友達との)関りの中で、伝えあう力」を養う。

(「学びに向かう力・人間性」)の観点では、教師や友達と一緒に調理を協力して行い、それぞれの役割を最後までやりきることを通して「集団活動に参加し、簡単な役割を果たそうとする力」を養う中で調理を行う楽しさや意欲を高めることがねらえる。

(ウ) 本時における目標

- ・炊飯、包丁を使う、計量カップで計るなどを教師と一緒に又は一人で行うことができる。
(知識・技能)
- ・手順表を見ながら少ない支援又は一人で、担当された役割を果たすことができる。
(思考・判断・表現力)
- ・友達や教師に報告や声掛けを行いながら、協力してカレーランチを完成させることができる。
(学びに向かう力・人間性)

(エ) 学習活動の展開及び分析表

a 学習活動の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	
		全体	各児童
導入	○はじめの挨拶をする。(日直) ○めあての確認をする。 ○スケジュールを確認する。	・作り方のポイントを写真カードやイラストカードを使って、調理器具の使い方や野菜の切り方について確認する。	・米の量は4合、目盛は4のところまで、ということ伝える。机などの平らなところで計るように伝える。(D)
展開	※◎ご飯を炊く。(D) →できたらゼリー作りを手伝う。 ※◎ゼリーを作る。(A、B、C) ○野菜カレーを作る。 ・野菜を準備し、切る。 ⇒玉ねぎ(B) 人参(A) かぼちゃ(D) ヤングコーン(C)	・ゼリーを作る児童に、大机に置いている材料を取ってくるよう伝える。 ※「◎」は同時進行で行う ・児童が分かるよう黒板に切り方を掲示する。 ・切りやすいようかぼちゃに熱を通しておく。	・Dの炊飯の工程はT2が見守りながら、確認を行う。 ・水をどこまで入れるのかが分かるよう印をつけた計量カップを使う。(A、B) ・玉ねぎの皮がむきや

	<ul style="list-style-type: none"> 切った野菜を順番に炒める。 ⇒玉ねぎ、肉（B）人参（A） かぼちゃ（D）ヤングコーン（C） 水を計って入れる。（D） 煮込む。 <p>○かぼちゃチップスを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホットプレートに油をしく。（D） かぼちゃ並べ、3分片面を焼く。 ひっくり返し、蓋をし、3分待つ。 完成したら、ボウルに取り出す。 <p>○ルーを入れ、カレーを完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員が混ぜ終わったら、Dが完成を確認する。 <p>○休憩（10分） ○全員で盛り付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> かぼちゃを5ミリの厚さで切るようイラストで示す。 炒める、蓋をして待つ際には、熱いのでホットプレートに触らないよう注意喚起を行う。 	<p>すいよう玉ねぎの両端を切っておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を計量カップで計り、ボウルにまとめて入れて鍋まで持ってくるよう伝える。（D） カレールーが溶けて、とろみがついたら完成ということ伝える。（D）
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 目当てを達成できたかを発表する。 おわりの挨拶をする。（日直） 	<ul style="list-style-type: none"> 導入で掲示したポイントを振り返る。 	

b 学習過程分析表

単元（題材）名	カレーランチを作ろう		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> 炊飯をする、包丁を使う、計量カップで計るなど教師と一緒にまたは一人で行うことができる。 手順書を見ながら少ない支援または一人で行うことができる。 教師に報告を行いながら、協力してカレーランチを完成させることができる。 		
	学 習 活 動		<ul style="list-style-type: none"> ●主體的な学び：学習活動への参加 「できそう」と思える
導入	<ol style="list-style-type: none"> はじめのあいさつをする 授業の流れを確認する カレーランチを作るポイントを確認する めあてと個人目標を確認する 	●	<ul style="list-style-type: none"> ①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> 物理的な環境設定（座席配置、道具の位置、教員の位置等） ●見通し ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい指示（音声言語一視覚情報一見本一一緒に） ●手順表 ③活動中への支援 <ul style="list-style-type: none"> 学習活動への展開構成 学習活動参加への手がかり ほめ方 修正の方法 障害特性への支援
展開	<ol style="list-style-type: none"> ご飯を炊く <ul style="list-style-type: none"> 米を量る 米を洗い、スイッチを入れて炊く ゼリーを作る <ul style="list-style-type: none"> 2グループに分かれ、道具を準備する お湯と水を量って、ボウルに入れて、粉と混ぜる カップにゼリー液を入れ、冷蔵庫まで運ぶ 野菜カレーを作る <ul style="list-style-type: none"> 野菜と道具を準備して、野菜を切る 野菜を順番に炒めて、水を量って鍋に入れる 煮込んだら、カレールーを入れて、順番に混ぜる かぼちゃチップスを作る <ul style="list-style-type: none"> ホットプレートに切ったかぼちゃを並べ、両面焼く 各自、パイキング形式で盛り付けをして、カレーランチを完成させる 	● ● ● ● ●	<ul style="list-style-type: none"> ●対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> 周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む 他者の見本を見て真似て学ぶ ●他者の活動を見て活動する <ul style="list-style-type: none"> 他者の良さに気づいて自分の活動に活かす 他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ●他者からの問いかけを受けて思考し活動する <ul style="list-style-type: none"> 他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ●他者の成功・失敗を見て学ぶ ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> 仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ●それぞれの役割を行う 役割や手順を決めて活動し学ぶ（自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる） ③仲間と問題（課題）を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと ●深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ！」 ●学習活動を通して知識・技能を活動で生かす
まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 感想発表する おわりのあいさつをする 		

(オ) 成果と課題

炊飯を担当したDは、一人で炊飯を行うことができた。計量や切る活動は、包丁などの正しい扱いが、まだ身に付いていない児童が多く、教師と一緒に活動する場面が多くなった。一人で操作できる

道具を活用して自分でできる場面を増やすことが必要であった。

一人一人に応じた手順書を用意したことで、児童が見通しをもって活動することができ、一定の成果が見られた。どの児童にも主体的な活動を促すには、実態に応じた手順書を活用して継続して取り組むことが必要であると考え。その一方で、炊飯を担当したDは手順書を見ながら一人で白米を炊くことができたが、米を洗う回数は、手順書に書いてなかったため、何度も洗ってしまうことがあった。児童に分かるような具体的な記述をし、手順書の工夫をすることが課題である。

報告もどこで報告したらよいか分からないことから、教師の促しが必要なことがあった。

ウ 実践事例Ⅱ

(ア) 単元名「実りの秋パーティーをしよう」

(イ) 単元設定の理由

前単元で実りの秋ご飯を作り、美味しく食べることができた。そこで、本単元では「野菜を育てよう」の単元と関連させて、育てた野菜と米を使い、味噌汁、さつま芋ごはん、きんぴらごぼう、玉子焼き、おひたし、りんごのメニューで「実りの秋ごはん」を作り、校内の先生を招いてパーティーを行う。自分たちで一生懸命育てた野菜を協力して調理し、食べてもらう経験を通して、人に喜んでもらうことの嬉しさや楽しさを味わうことができると考える。パーティーに向けての準備では、招待状を渡す、飾りを作る、買い物をする中で新たに様々な活動を体験することがねらえる。

パーティーの当日は、丁寧な言葉遣いをねらいとし、緊張感をもって簡単な接客に取り組む態度を育てていきたいと考えた。

(「知識・技能」)の観点では、手順書を頼りに一人で玉子焼きなどを作る中で「道具を準備すること」や「工程通りに進めること」をねらいとする。

(「思考力・判断力・表現力」)の観点では、実りの秋パーティーの準備で招待状を書く時に、「文章を思いついたり、考えたりすること」を目標とする。

(「学びに向かう力・人間性等」)の観点では、育てた野菜について発表をし、お客さんを招いて食べてもらうことで「身近な人に喜んでもらい、意欲や自信をもって学ぶこと」を目標とする。

(ウ) 本時における目標

- ・手順書を頼りに、道具を準備し、玉子焼きを作ることができる。(知識・技能)
- ・丁寧に接客をしたり、料理を運んだりすることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・協力して飾りや盛り付けをし、美味しく会食をすることができる。(学びに向かう力・人間性等)

(エ) 学習活動の展開及び分析表

a 学習活動の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	
		全体	各児童
導入	○はじめの挨拶をする。(日直) ○めあての確認をする。 ○スケジュールを確認する。	・スケジュールカードを掲示し、流れを確認する。その中で、児童の役割を伝える。	・全員がそろったら、日直に号令をかけるよう促す。
展開	○手洗いをする。 ○玉子焼きを作る。(全員) ・卵を割り、めんつゆを入れ混ぜる。 ・玉子焼き器で卵を焼く。 ・まな板の上で、玉子焼きを切る。(A)	・手洗い後に、T1がきれいに洗えているかチェックする。 ・火の管理は、教師が行う。	・A、B、C児は、玉子焼きをひっくり返す初めの所が難しいため、教師が支援する。

	<p>○リンゴの皮むきをする。(D)</p> <p>○実りの秋パーティーの準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の飾り付けをする。 ・盛り付けをする。 <p>○実りの秋パーティーを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始まりの会 <p>⇒食事を運ぶ。</p> <p> きんぴら (A)、味噌汁 (C)</p> <p> さつま芋ご飯 (B)、リンゴ (D)</p> <p>⇒育てた野菜について発表する。</p> <p>⇒「いただきます」の挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会食する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに飾り付けのイラスト写真を貼り、役割を知らせる。 ・盛り付けのイラスト写真を見せ、役割を知らせる。 ・盛り付けが終わった児童から、お客さんの料理をお盆に乗せ配る準備をするよう伝える。 ・皿の持ち方や運び方を衛生的に配れるようSTが注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦型ピーラーでリンゴの皮をむく。種部分など難しい場合はT2が行う。(D) ・案内のマニュアル、進行用のメモを渡し、分からなくなったら見ていいことを事前に伝える。(D) ・お客さんの前から、案内ができていないかを見守る。(D) ・音声ペンで発表ができるよう準備する。(B、C)
まとめ	<p>○書いてもらったアンケートを読んで、振り返りを行う。</p> <p>○おわりのあいさつをする。</p>		

b 学習過程分析表

単元(題材)名	実りの秋パーティーをしよう		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手順書を頼りに、道具を準備し、玉子焼きを作ることができる。 ・丁寧に接客をしたり、料理を運んだりすることができる。 ・協力して飾りや盛り付けをし、美味しく会食をすることができる。 		
	学 習 活 動		<p>■主体的な学び：学習活動への参加 「できそう」と思える</p> <p>①環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) ●見通し <p>②手順理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示(音声言語-視覚情報-見本-一緒に) ●手順表 <p>③活動中への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援
導入	<p>1 はじめのあいさつをする</p> <p>2 めあての確認をする</p> <p>3 スケジュールの確認をする</p>		
展開	<p>4 手洗いをする</p> <p>5 玉子焼きを作る(全員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具を準備する ・玉子焼き器で卵を焼く <p>6 リンゴの皮むきをする</p> <p>7 実りの秋パーティーの準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の飾り付けをする ・盛り付けをする <p>8 実りの秋パーティーをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事を運ぶ ・始まりの会(育てた野菜についての発表) ・会食をする 		<p>■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ</p> <p>①他者からの情報を得て活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ●他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ●他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ <p>②役割の中で活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) <p>③仲間と問題(課題)を捉え解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと <p>■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学習活動を通して知識・技能を活動で生かす
まとめ	<p>9 書いてもらったアンケートを見て、振り返りをする。</p> <p>10 おわりのあいさつをする</p>		

(オ) 成果と課題

実践事例Iの反省をもとに、児童が一人で活動できる場面を増やすことを優先した。食材を切る道具は写真のように、一人一人に合ったものに変更し、担当する活動を分担したことで児童が自立して活動できる場面が増えた。活動内容が多かったが、全員が自分の役割を果たすことができた。また、

改善した個別の手順書を使用することで、自分で必要な道具を見て取ってくることができ、次の活動に見通しをもって取り掛かることができていた。

今まで経験したことのない玉子焼きを作る活動を行ったが、繰り返しの活動の中で玉子を巻くことができるようになるなど技術面での向上が見られた。

接客場面では、練習時間を十分に確保できていなかったことで、自信をもって接客をしたり、試食の盛り付けをできたりするまでには至らなかったことが反省点として挙げられる。しかし、Dは食事時の自然な会話から味噌汁が冷めたことに気が付き、残った味噌汁を温めてお客さんにもおかわりを進めてもてなすことができたので、美味しく会食するという目標は達成できたと考える。

<p>①キッチンばさみ 用途：人参、ほうれん草、糸こんにゃく、薩摩揚げを切る 担当：B、C</p>		<p>③幅広ターナー 用途：玉子焼き作り 担当：全員</p>	
<p>②縦型ピーラー 用途：リンゴの皮むき 担当：D</p>		<p>④目印付きのまな板、 ステーキナイフ 用途：味噌汁用の豆腐を切る 担当：C</p>	

図1 実践事例Ⅱで使用した調理道具

エ 小学部D組における取組のまとめ

(ア) 実践を通して

本年度は、「主体的に学び、友達と一緒に行動できる児童」を目標に、学級園の野菜を使って調理をすることに取り組んできた。事例Ⅰ「カレーランチを作ろう」では、児童が一人でできる活動を増やすことが課題として残ったので、事例Ⅱ「実りの秋パーティーをしよう」においては、自立して活動に取り組む場面を増やす授業へと改善した。

主体的な学びという点では、好きなメニューを取り入れ、繰り返し同じ流れで授業を行ったことで、見通しをもって、野菜を切る活動や玉子焼きの活動に進んで取り組もうとする姿が見られた。また、ごぼうの千切りに挑戦したり、キッチンばさみを使用したりするなど新たな経験も積むことができた。調理活動では、全員が手順書を見て、主体的に活動することができていたと考える。その一方で、主指導者が全体を見ることができず、児童を評価できなかったことにより、十分に意欲を高めることができなかった。児童がほめてほしいところを見逃さずに、評価していくことで、もっと意欲を高めることができ、次の活動につながったのではないかと考える。児童からの発展的な意見も取り入れた単元構成をすることも検討する必要がある。

対話的な学びという点では、役割の中で活動することで、どの児童も自分の役割を果たすことができ、6品の料理を作りきることができた。また、対面で調理活動を行ったことで、友達の卵の割り方を見本に自分で卵を割ろうとする様子が見られた。実践事例Ⅱでは、簡単な接客を取り入れたことで、いつもとは違う雰囲気の中で、緊張感をもって接客を経験することができた。

深い学びという点では、調理を繰り返し取り組む中で、調理機器の使い方に慣れ、どの児童も食材の切り方を自分で考えて、食材を切ることができていた。

実践事例の授業は、様々な経験を積んできた6年生だからこそ、野菜を一から作り、6品を作るということに挑戦できたと振り返る。野菜を育て、食べることで、「自分たちで作ったものを調理する」

ことの喜びや達成感を得ることができた。しかし、全体を通して活動内容が多かったため、基本となるスキルを十分に身に付けるまでには至らなかった。小学部段階の児童の実態を考えると一つ一つを丁寧に指導していくことが必要であった。これらの反省を踏まえて、今後の授業では、小学部段階という生活年

齢も十分に考え、児童に合った授業内容を考えていきたい。また、中学部進学に向けて、身近な社会経験を積むとともに、手洗いや日常生活に必要な基本的な力を確実に身に付けていきたい。

(イ) 分析表改善に向けて

「主体的、対話的で深い学び」について理解するためには、分析表の項目分けを参考にするだけで、目安になるものができ、意識をもって授業に取り組むことができた。その一方で、分析表を使って、自己やクラスで振り返るときには、客観的に分析することは難しかった。研究協議など第三者からの意見も踏まえると分析表を振り返りがしやすかった。また、項目によっては個々で捉え方が異なることもあった。新たに分析表を作成する負担感を考えると、展開表の中に項目のみを関連付けて表記する方法も検討できるのではないかという意見も挙がった。



図2 野菜を育てよう (ほうれん草、さつまいも、バケツ稲)



図3 完成したメニュー

4 おわりに

(1) 実践を通して

前述した本年度の研究内容と研究方法に関して各クラスの実践を考察する。

本年度は学習指導案の作成時に、本単元・本時の目標と新学習指導要領の教科等の目標・内容と照らし合わせることで、その関連と評価を明確化することができた。あわせて、本校で試行された「学習過程分析表」を用い、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を活用することにより、目標を達成するために手立てが必ず講じられているか、手立ては最適であるかという観点から研究協議を進めることができた。また、「何ができるようになるか」が明確化するために、全てのクラスが児童の変容を本単元のみならず、他の学習や家庭における般化の観点からも深く考察することができた。その一方で、児童の変容を客観的に評価する方法についての研究推進が十分であったとは言えず、次年度の課題として残った。

(2) 分析表改善に向けて

本年度2学期から試行した「学習過程分析表」について、検討したことを以下に記す。

ア 項目等の様式(フォーム)について

「学習活動」と「三つの視点(「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び)」のリンクを考えるうえで、「三つの視点」に該当する項目がない場合があった。その理由として小学部児童の大半が自閉症スペクトラム障害であり、認知面においても未分化な児童が多いために、「主体的な学びの視点」に重きをおく場合が多いと考えられる。

また、「生活単元学習の手引き」(文部省：1986)に「生活単元学習は、主体的な学習である」とあり、「特別支援学校学習指導要領解説」(文部科学省：2018)では「単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに」と表記されているように、生活単元学習は生徒の主体性によって成り立つ学習形態であるという側面もその一因であると考えられる。

項目の増加は作成の煩雑さにつながるために精選が必要になるが、より有益で実用的な様式とするためには障害特性や認知面を考慮したものを検討する必要があると考える。

イ 運用・活用に関して

本年度は、目標を達成するため手立てを考察するためのツールとして学習過程分析表を活用したが、次年度は評価のためのツールとしての側面も検討する必要があると考える。

IV 中学部の研究

中学部テーマ「主体的・対話的に学び、生活に必要な力を身に付ける取組」

1 はじめに

昨年度、本学部では研究テーマを「ユニバーサルデザインに基づく授業作り」と設定し、本校のキャリア発達段階表を活用することで、中学部で目指す力を具体化し「生徒の個々の目標」「手立てや支援」「今後の課題」を考察することができた。実践を行う中で「主体的とは？」「対話的とは？」「深い学びとは？」という点を検討するようになった。生徒の実態は多様であり、個々への支援も様々であることから、生徒の実態に合わせて、ユニバーサルデザインを考える必要性に改めて気付かされた。また、実践研究の経過、成果と課題についての検討を行うことで、授業づくりの大切さについて再認識することができた。

そこで本年度の研究テーマを「主体的・対話的に学び、生活に必要な力を身に付ける取組」と設定し、授業におけるねらい（目標）を達成するための手立てとして「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の観点が活用され、それらを実現するためのより良い授業改善への取組を実践・研究することとした。

なお、本年度は、生活に必要な力を身に付けることができる生活単元学習の授業に焦点化し、研究・実践を推進した。その方法は各学年が生活単元学習の公開授業を行い、ビデオ録画を活用した研究授業・研究協議を行うことで授業改善を行うという研究方法を取り、それらの改善点や問題点を実践集録としてまとめていく。

2 研究経過

(1) 研究内容

- ア 主体的、対話的で深い学びの視点から授業作りを行う。
- イ 年間2回公開授業を実施する。
- ウ 本校のキャリア発達段階表を活用した実践を進める。
- エ 授業実践から課題や改善点を明確にすることで、授業改善を行う。

(2) 研究方法

- ア 各学年で生活単元学習の実践研究に取り組む。
- イ それぞれの授業の実践例について研究を重ねる。
- ウ 学部全体での研究協議を行う。

上述のア～ウを具体化するために他学部と同様に各学年2回の公開授業並びに研究協議を設定した。1回目、2回目とも公開授業後の研究協議における協議内容（授業者・参観者・助言者の意見や質問、助言等）を踏まえ、次回の授業に向けて授業改善につなげる取組を行う。

また、本年度本校で試行された「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表(試案)」を活用することで、「主体的・対話的で深い学びの視点」から授業の中で生徒たちがねらいの達成に向けて各視点(主体的な学び、対話的な学び、深い学び)に基づいた要素が設定されていたのかを検証をする。

エ 実践の成果と課題を実践集録にまとめる。

オ 学部研究日を月に一回設定するほか、各学年での研究日を随時定める。

(3) 研究計画

月1回設定されている学部研を本学部全体で行う他、本年度は学年研を研究の柱とし、公開授業に向けて学習指導案の詳細な検討や教材研究などについては各学年で行った。

中学部年間研修計画について

月/日(曜日)	研 修 内 容
4/24 (火)	・学部にて、研究テーマの提案等
5/11(金)	・今年度の中学部の研究テーマ、研究体制などについて検討等。
6/5(火) 6/8(金) 6/27(水) 6/28(木)	・各学年での研究方法、授業研等についての話し合い ・第1回校内研(今年度の研究テーマの確認) ・中学部3年第1回公開授業研究 ・中学部3年第1回公開授業研事後協議
7/3(火) 7/12(木) 7/13(金) 7/23(月)	・各学年研修 ○各生徒のキャリア発達の確認 ・中学部2年第1回公開授業研究 ・第2回校内研(公開授業研)小学部 ・中学部2年第1回公開授業研事後協議
8/7(火)	・第3回校内研 平成30年度特別支援学校教育課程研究集会(知的障害部会) ・各学年研修
9/4(火)	・各学年研修、公開授業研究準備
10/3(水) 10/10(水) 10/30(火)	・中学部2年第2回公開授業研究 ・中学部3年第2回公開授業研究 ・中学部2年3年合同第2回公開授業研事後協議
11/14(水) 11/21(水)	・中学部1年第1回公開授業研 ・中学部1年第1回公開授業研事後協議
12/17(月) 12/21(金)	・中学部1年第2回公開授業研 ・中学部1年第2回公開授業研事後協議
1/8(火)	・各学年で実践集録のまとめ
2/5(火)	・実践研究発表会の報告(3/1(金))・中3による実践報告
3/6(水)	・本年度の反省と来年度の方向性について ○各生徒のキャリア発達の確認

3 研究事例

(1) 1年生における取組「他者と関わりながら、主体的に活動できる授業を目指して」

ア 取組にあたり

(ア) はじめに

本学年は、1年生の2学級、男子4名、女子3名の生徒で構成されており、自閉症やADHD、ダウン症の生徒が含まれる。各学級とも、生徒の実態や発達段階には差があり、文字の読み書きができ言葉でやりとりできる生徒から、声掛けや絵カードを理解して行動できる生徒まで様々である。

生徒たちは、中学部の学習にも徐々に慣れ、意欲的に学習に参加できることが多くなってきた。しかし、生徒の中には、教師の説明や友達の発表を最後まで聞くことが苦手で、友達の心情を考えず一方的な関わり方をしてしまう者、コミュニケーションに難しさがあり、情緒が不安定なときは人との適切な関わり方ができない者も見られる。また、自分の見通しと異なると学習に参加できなかつたり、失敗を恐れるため分かっていると思われる内容でも意思表示に消極的になったりする者も見られる。このような学年の実態から、皆で一つのことに取り組む経験を通し、見通しをもって主体的に行動する力を付けていくこと、また、友達の存在や自他の良さに気付きながら、協力して活動に参加する力を付けていくことが大切であると考えた。

そこで、学年の研究テーマを「他者と関わりながら、主体的に活動できる授業を目指して」とし、学習発表会に向けて、簡単な劇をする取組を設定することにした。4月から学習経験を積み重ねることによって、学習場面に応じて自分の気持ちや行動を抑え、学級から学年単位の集団で活動することが少しずつでき始めてきた。しかし、まだ自分本位な態度が見られる場面もある。そこで、本取組では、同学年の友達と一緒に一つの劇を作り上げる活動の中で、互いに関わりあうことに焦点を置いて取り組んだ。劇を、インフルエンザと戦う内容にしたため、まず保健学習でインフルエンザ予防の学習に取り組んだ。また、病気に負けない強い体作りを目指すために、栄養学習にも取り組んだ。そして、劇では3つのグループに分かれ、それぞれのグループ毎に自分たちが攻撃する技を話し合っ決めてたり、友達と息を合わせてせりふを言ったり、動いたり、ダンスを踊ったりした。そうすることで、友達の存在やその関わり、また集団の中での自分の役割を意識することをねらった。また、小道具作りでは手順書等の活用により見通しをもって主体的に取り組むことをねらって取り組んだ。

(イ) 単元計画 (全29時間)

- 第1次 「病気に負けない体づくり」について知ろう・・・1時間
- 第2次 学習発表会の劇発表について知ろう・・・2時間
- 第3次 栄養レンジャーの技を考えよう・・・2時間
- 第4次 大道具、小道具を作ろう・・・7時間
- 第5次 栄養レンジャーの動きを練習しよう・・・4時間
- 第6次 ダンスを練習しよう・・・4時間
- 第7次 通し練習をしよう・・・6時間
- 第8次 学習発表会本番・・・1時間
- 第9次 振り返りをしよう・・・2時間

イ 実践事例 I

(ア) 単元名 学習発表会で栄養レンジャーを発表しよう～レンジャーの技を考えよう

(イ) 単元設定の理由

本単元は学習発表会に向けて、簡単な劇を発表する取組である。内容については、生徒たちに興味

があり意欲的に取り組めるように戦隊もののストーリーにして、一人一人が栄養レンジャーになり、赤・黄・緑の3つの栄養素グループに分かれて、それぞれのグループで決めた技で病気を退治するように設定した。

本時は、先ず3つの栄養素グループに分かれた中から、自分がどの食材（レンジャー）になりたいかをイラストカードから選択し発表するようにした。

次にグループ毎にどんな技で病気を退治するのかを話し合うようにした。グループ分けについては生徒の実態を考慮してあらかじめ決めておくようにした。話し合いの内容については各グループに入っている教師がイラストカードを準備して、選択できたり積極的に話し合いができたりにするように支援した。

最後に各グループの話し合いの結果を発表し、お互いがどんな技に決めたのか確認し次の意欲につなげるようにした。

(ウ) 本時における目標

- ・食材カードを選ぶことができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・グループでの話し合いを通して、お互いの関わりをもつことができる。（学びに向かう力・人間性等）

表1 本時に関わる生徒の実態と個人目標（生徒7名中4名を抜粋）

	生徒の実態	本時の目標	目標達成に向けた手立て	評価規準
A	興味のあることは、簡単な言葉で伝えたり選んだりできる。特定のことに関心が向き、注意の持続が難しい。友達と好きな歌のフレーズを口ずさむなど、働きかけに応じることができる。	・選択肢の中から選ぶことができる。 ・友達と一緒に活動することができる。	・選択できるようイラストを提示していく。 ・友達の意見を教師が仲立ちをしながら伝え、興味・関心を促す。	・選択することができたか。 ・流れに沿って活動することができたか。
B	不安や自信のなさから、発表には消極的だが、問いかけに対して簡単な意思表示ができる。気の合う友達に誘われると、一緒に簡単な遊びをして楽しむことができる。	・選択肢の中から選ぶことができる。 ・話し合いの中で、自分の意見を言うことができる。	・選択できるようイラストを提示していく。 ・教師が間に入り、本人の気持ちと一緒に確認しながら友達に伝えられるよう支援していく。	・選択することができたか。 ・自分の意見を伝えることができたか。
C	学習に対して意欲的に取り組むことができる。集団の中での学習になると気後れして、挙手ができなったり、内容を理解できていなくて意見が発表できなったりすることがある。	・質問に対して挙手をするすることができる。 ・集団の中で自分の意見を発表することができる。	・個別に問いかけをして考えを確認する。 ・内容を具体的に説明したり、ヒントを伝えたりして意見を発表しやすいようにする。	・質問に対して挙手をするすることができたか。 ・自分の意見を発表することができたか。
D	集団での学習では、周りの友達の活動を見て流れに沿って一緒に取り組むことができるが、長時間の全体学習になると飽きてしまい手遊び等をすることがある。発	・好きな食材のカードを選ぶことができる。 ・友達と一緒に活動することができる。	・好きなカードを選べるように場面設定する。 ・友達や周りの状況を参考にできるように支援を最小限にする。	・好きなカードを選ぶことができたか。 ・流れに沿って活動することができ

語はなく人との関わりや意思表示の伝達が難しいが、選択等ではできる。			たか。
-----------------------------------	--	--	-----

(エ) 学習の展開及び分析表

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全 体	各児童生徒
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始まりの挨拶をする ・ 前時の振り返りをして本時の内容を聞く ・ 本時の目標の確認をする。 ・ 3つのグループの中でどのグループに分かれているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢を正せているか声掛けをする。 ・ 提示をして前時の確認をし本時の内容を提示する。 ・ 全体で声に出して確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループごと生徒一人ずつ確認をしていく。
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの食材(レンジャー)になりたいかを決める。 ・ 3つのグループに分かれて劇の中で披露したいことを話し合う。 友達の動きを見て模倣して活動する。 友達の意見を取り入れて活動する。 友達の意見をまとめて活動に取り入れる。 ・ グループごとに発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの栄養素群に主な食材のイラストを提示し、その中から選択するようにする。 ・ グループごとに集まる。 ・ 各グループに教師が入りヒントを出したり意見をまとめたりする。 ・ 各グループごとに前に出て発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択が難しい生徒については二者選択等で支援する。 ・ 生徒 A、D、F には友達の話に注目させたり、絵カード等で内容の理解を助けたりして、興味関心がもてるよう支援する。 ・ 生徒 B、C、E、G には、必要に応じて、班の友達にも意識が向けられるよう、一緒に楽しめることはないか等の投げかけを行う。 ・ 必要な生徒は、発表内容を紙に書かせ、発表しやすいようにする。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の振り返りをする。 ・ 終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標が達成できたかを確認する。 ・ 姿勢を正して挨拶ができるように促す。 	

トが、劇中の動きにつながり練習が楽しみにできることを期待して本単元を設定した。

まず、生徒たちが興味をもって取り組めるよう、あらかじめ、キャラクターやイラスト等の中から好きなものを選び、パーツとしてベルトの装飾に貼ることができるようにした。さらに、生徒の実態に応じて、パーツの形に沿ってはさみで切り取ることや、自分で好きな形を描いて切り取ることができるようにした。

また、材料や道具が分かるように手順書にすることで、自分から必要なものを取りに行くことを促すようにした。さらに、手順書を見たり、教師の声掛けを聞いたりして、活動内容を理解し、主体的に行動しようとする意欲や態度を育てたいと考えた。

制作後は、自分の作品について簡単な発表を行い、積極的に発表ができるよう、発表例「自分の気に入っているところは～です」を提示し、発表を促すようにした。

(ウ) 本時における目標

- ・手順書を見ながら自分の変身ベルトを制作することができる。(学びに向かう力・人間性等)
- ・自分の作品について簡単な感想を発表することができる。(思考力・判断力・表現力)

表2 本時に関わる生徒の実態と個人目標 (生徒7名中、4名を抜粋)

	児童の実態	本時の目標	目標達成に向けた手立て	評価規準
A	興味のあることは、簡単な言葉で伝えたり選んだりできる。数字を書いて遊ぶことに関心が向き、注意の持続が難しい。簡単な手順書は、支援があれば見ようとする。	・制作に興味をもち、手順書を見ながら作ることができる。 ・iPadで撮影した作品を見て、関連した言葉を使う。	・手順書の行程をその都度、指差ししながら一緒に確認していく。 ・iPadで撮影した写真を見せ、自分の作った飾りに注目できるように支援する。	・制作に興味をもち、手順書を見ながら作ることができたか。 ・iPadで撮影した作品を見て、関連した言葉を使うことができたか。
B	自信の無さから発表には消極的だが、簡単な意思表示ができる。ものづくりは細かい作業ができ、周囲の様子も見て作ることができる。	・手順書を見ながら制作ができる。 ・自分の作品について、感想を発表することができる。	・必要に応じて、手順書を確認するよう声掛けをする。 ・発表例を示すことで自分で考えられるようにする。	・手順書に沿って、制作することができたか。 ・作品に関する発表ができたか。
C	ものづくりは好きで、創意工夫をしながら意欲的に取り組むことができる。他者の活動を参考にしながら流れに沿って制作活動ができる。	・手順を理解し作るもののイメージをもって作品作りができる。 ・作品の感想を発表することができる。	・制作手順を理解できているか、その都度確認をする。 ・発表内容を事前にまとめられるように確認をする。	・制作手順を理解してイメージ通り制作できたか。 ・感想の発表ができたか。
D	周りの友達の活動を見たり手順書を見たりして一緒に学習に取り組むことができる。長時間の活動になると集中が途切れやすい。発語は無く、人との関わりや意思伝達が難しい。	・教師と一緒に手順書に沿って制作することができる。 ・作品の発表をiPadを使ってすることができる。	・手順書の工程を一緒に確認し、制作過程でもその都度確認する。 ・制作過程で工夫したところを本人と確認をし、Drop Talkに入力する。	・手順書の流れに沿って制作することができたか。 ・作品の発表をiPadを使ってすることができたか。

(エ) 学習活動の展開及び分析表

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全体	各児童生徒
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・座席表を見て、席に座る。 ・始まりの挨拶をする。 ・前時の振り返りを行い本時の内容を確認する。 ・本時の目標の確認をする。 ・変身ベルトの作り方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正しているか声掛けをする。 ・提示をして前時の確認をし、本時の内容を提示する。 ・全体で声に出して確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・静かに話を聞くことができている生徒を褒め、聞く意欲を促す。
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・手順書を配る。 ・材料を取ってくる。 ・制作する。 <ul style="list-style-type: none"> ○装飾の紙を、線に沿ってはさみで切る。 ○切った装飾にボンドを塗って貼る。 ○紙片や好きな飾りを選んでボンドで貼る。 ○ボンドが足りなくなったら報告をする。 ・片付けをし、手を洗う。 ・作品の感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の手順書を見て、取って来られるようにする。 ・作業の終了時刻を伝える。 ・小皿のボンドが足りなくなったら、生徒の「ください」等の報告を促す。 ・「自分の気に入っているところは～です」を示し発表を促す。 ・友達の発表に注目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒A、Dには個々が、前時に選んだパーツを使った手順書を使うことで、見通しをもって作れるようにする。 ・生徒B、Cには工夫が加えられるような手順書を準備する。 ・生徒A、Dには、要求表現を促すような絵カード等の支援を行う。他の生徒には自らの言葉を待ちながら支援を行う。 ・生徒A、Dには iPad で撮影した写真を見せ、なるべく自分で発表できるよう支援する。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ・終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標が達成できたかを確認する。 ・姿勢を正して挨拶ができるように促す。 	

単元(題材)名	学習発表会で栄誉レジャーを発表しよう～レジャーの変身ベルトを作ろう	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手順書を見ながら、自分の変身ベルトを製作することができる。 ・自分の作品について簡単な感想を発表することができる。 	
学 習 活 動		
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりの挨拶をする。 ・前時の振り返りをして本時の内容を聞く。 ・本時の目標の確認をする。 ・変身ベルトの作り方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) ・見通し ● ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示(音声言語一視覚情報一見本一一緒に) ・手順表
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・手順書を配る。 ・材料を取ってくる。 ・製作する。 <ul style="list-style-type: none"> 装飾の紙を、線に沿ってハサミで切る。 切った装飾にボンドを塗って貼る。 両面テープで磁石を貼る 紙片やスパンコール等の好きな飾りを選んでボンドで貼る ボンドがなくなったら教師に報告しもらう ・片付けをし、手を洗う。 ・グループごとに作品の感想発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ● ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) ● ③仲間と問題(課題)を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ・終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ④対話的な学び : 学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」

(オ) 成果と課題

1 回目の授業の課題の中から、今回の授業で取り組んだ改善点 2 点を中心に、成果と課題を以下に挙げる。

○言葉を使ったコミュニケーションが十分取れない生徒への手だて

・手順書について

見通しをもって、なるべく一人で制作できるよう、簡潔な手順にすること、完成図を大きく入れることに留意した(図 1)。生徒 A、F については、教師と一緒に確認をすることで、手順書を見ながら制作をしていくことが概ねできた。しかし、生徒 B、E を始め他の生徒に、手順書を自ら利用できた者はほとんどおらず、中には、材料や道具の下に敷き込んでしまっていた者もいた。途中で教師が声掛けと共に指し示すことで、見ることもできたことから、手順表が上手く使えていなかった要因として、今まで手順書を利用した経験はあっても、異なる学習場面で、形式も違う手順書を利用することが生徒達にとっては難しいことが分かった。やはり、手順書について、新しいものを導入するときには、ページをめくる、一緒に見る、読む等の使い方の支援をする必要があった。

・作品の感想発表について

発表例(図 2)を掲示し、作品で気に入っているところにポイントを絞ることで、生徒の発表を促すようにした。

興味・関心の幅が狭く、発語の無い生徒 F は、楽しんで作ることが主体的な発表につながるのではないかと考え、生徒が好きなものを装飾に用いた。発表場面では、iPad で完成作品の写真をタッチし、教師のアナウンス「くわがた虫(の飾り)が気に入っています。」を流し、自分の好きなものや作品の完成を伝えることができた。

生徒 E も、意欲的に挙手をして発表をした。しかし、まだ発音が不明瞭で、内容が人に分かるよう、整理して表現することは難しかった。教師がその場で「ニンニンジャーの飾りがきれいにできました。」と要約をして補足をしたが、この点について、発表前に感想を書いて整理する時間を設けておけば、一人でより分かりやすい発表ができたのではないか。

○生徒の課題解決を目指した授業づくりについて

生徒 D は、分かっていると思われる内容でも、自信の無さからか、自ら取り掛かることは少なく、教師の指示や友達の誘いを待つことが多い。しかし、今回の授業では、自分で材料や道具を取りに行く活動を取り入れたことで、制作の途中に、自分で足りない道具のシート(ボンドを塗る時に下に敷くことに使うもの)に気付き、「ない、どこ?」と自ら席を立って教師に聞く場面が見られた。道具が配布される設定であれば、このような場面は生まれなかったと思われる。

一方、道具の取り扱かりがあったという点では、今回は、手順書に書かれている道具と、実物とのマッチングをする場面がなかったことが考えられる。道具は、生徒が取りやすいように動線に沿って順番に配置されていたが、自分の机に戻り、そろっているのか確認をする場面があれば良かった。

全体を通しては、授業の導入に時間を要し過ぎ、展開部分が短くなる等、時間配分や準備不足が大きな反省点であるが、全員が興味をもって制作に取り組むことができた点は良かった。

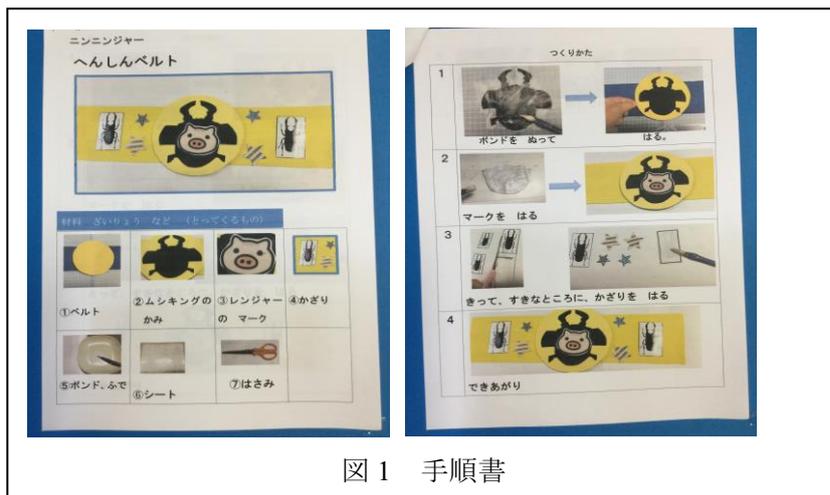


図1 手順書

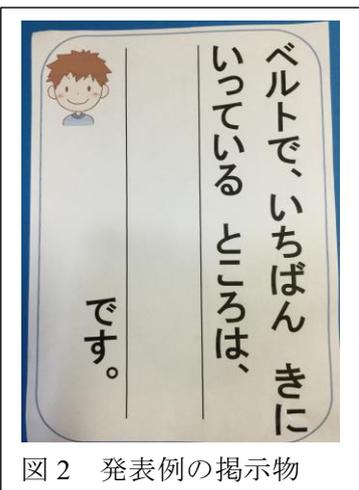


図2 発表例の掲示物

エ 中1における取組のまとめ

(ア) 実践を通して

今回の本学年の研究テーマ「他者と関わりながら、主体的に活動できる授業を目指して」のもと、授業実践を重ねてきた。

「主体的に活動できる授業を目指して」の部分において、まずテーマ設定については、学習発表会に向けた小道具の制作や栄養レンジャーになってインフルエンザ菌と戦う戦隊もののストーリーを劇の題材に設定したことで、生徒にとって比較的興味・関心の高い内容を設定することで、意欲的な活動につなげていくことができたのではないかと考えられる。次に手順書を活用することによって活動への見通しを持ちながら取り組めたという利点がある一方、使い慣れていなかったり、提示の仕方についても改善の余地が見られたりした。言葉でのコミュニケーションが十分に取れない生徒への手立てについて、1回目の実践を通しての課題として見えてきたため、2回目の実践では、タブレット端末を活用したことで、改善につなげていくこともできた。

「他者と関わりながら」の部分においては、本実践の中で、2人から3人程度の小グループの学習集団に分け、教師が仲立ちをしながらの学習に取り組んだことにより、友達存在を意識しながら、互いに関わり合うことができた。

本授業実践において、対象の生徒たちが、まだ中学部1年生段階ということもあり、教師側が意図した関わりを通して生徒自身が他者から学ぶ等の深い学びに結び付けることは難しかったが、授業以外の場面において、友達同士声掛けをしながら行動したり、お互い誘い合いながら一緒に遊んだりすることが多く見られるようになってきたことは、本実践が生徒達の成長に深くつながってきているということではないだろうか。

そして実践を通して、特に、話を聞く、聞くときの姿勢、友達への伝え方、発表の仕方等、基礎となる学習規律についてもまだ課題が見られた部分もあったので学年として今後も定着に向けて取り組んでいきたい。

(イ) 分析表改善に向けて

今年度から活用した主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表（試案）の各学びに対する項目について、全体を通して、授業者として指導のポイントを焦点化しやすい点が非常に良かったように感じた。

(2) 2年生における取組

ア 取組にあたり

(ア) はじめに

中学部2年生の取組は、学部テーマ「主体的・対話的に学び、生活に必要な力を身に付ける取組」から、さらに、学年としての研究テーマ「生徒が主体的に意欲をもって、達成感が得られる授業を目指す取組」を行うこととした。

昨年度から引き続き、生徒自らが主体的に意欲をもって、達成感が得られる授業とは何か、それらの達成感が得られるために、どのような授業を行ったらいいいのか、生徒が主体的に授業を取り組む姿を得られるには、どのような手立てが必要なのか考え、授業づくりに取り組んだ。

中学部2年生は、本校小学部から入学した3名と他校から入学した6名（男子6名、女子3名）で2クラス編成となっている。生徒は、明るく元気があり、意欲的に活動する生徒や自閉症3名、自閉症スペクトラム1名の視覚支援を必要とする生徒がいるなど、障害の程度は多様で実態は様々である。

生徒は中学部入学から1年を経過して次第にお互いのことを理解はしているが、相手の立場に立って行動するということが苦手な生徒が多い。今年に入って情緒の安定が難しく、学年での取組に参加することが時々難しい生徒もいる。

普段の生徒たちの日常生活の様子を見てると相手のことを考えた行動や声掛けが弱いように感じられる。今回の授業に取り組むことにより、日常生活において、相手の気持ちを考え行動することができるきっかけになるのではないかと、また、この授業で身に付いた力を3年生や高等部へ進級、進学して、普段の生活や学習の場、現場実習等でも活かして行けるのではないかと考えた。

2年生に進級して、今年度は生活単元学習の中でも調理学習や郵便局の貯金、学級農園活動等継続して経験したことで、少しずつ1学期の学年の生活単元学習に見通しがもてるようになってきている。5月中旬から「なつまつり」に向けての合同学習では、昨年の「ボウリング屋さん」を経験したことを踏まえ、お店屋さんの内容をみんなで話し合った。話し合いをした結果、お店屋さんの内容が「輪投げ屋(しゅわっち)」をすることが決まるとお互いに生徒同士でお店の係の仕事話し始める場面も見られ、当日はどの生徒も意欲的にお店の仕事に取り組むことができた。

2学期は、「親しい友達や先生を招いてお店屋さんをやってみよう。」「お店の設営、準備等も自分たちで取り組んでみたい。」「係についても1学期に経験した係以外に、他の係もやってみよう。」「友達と一緒に協力して自分たちでお店を運営してみよう。」「お店全体を見守る店長さん、副店長を設けてほしい。」等の生徒たちの願いを受け入れ、全面的に生徒にお店を任せることとした。

お店屋さんの活動を通して、お客さんとお店の店員とのやり取りは、一方通行では成り立たないため、相手が何を望んでいるのか、どう答えてくれたのかを自分なりに考えなくてはならない。相手の思いを考えることが、日常生活においても、より良く友達、仲間と関わる力、生活していく力につながってほしいと考えた。



図1(写真1)お店の看板



図2(写真2)輪投げ場

(ア) 単元計画

月	計画の内容	授業時数
1 学期		
5	・ なつまつりの事前学習開始～	全 34 時間
6	・ 生徒たちの話し合いによるお店屋さんの内容決定 ・ なつまつりに向けてお店屋さんの練習開始～	
6 / 30	・ なつまつり「輪投げ屋さん(しゅわっち)を開店」	
7 / 12	・ 第 1 回公開授業 単元名 「輪投げ屋さん(しゅわっち)を開店しよう I」 ・ 生徒たちによる授業反省	
2 学期		
9	・ 第 2 回公開授業に向けてお店屋さんの練習開始～	全 10 時間
10 / 3	・ 第 2 回公開授業 単元名 「輪投げ屋さん(しゅわっち)を開店しよう II」 ・ 生徒たちによる授業反省	

イ 実践事例 I

(ア) 単元名 「輪投げ屋さん(しゅわっち)を開店しよう I」

(イ) 単元設定の理由

実践事例 I は、人とのやり取りをすることをねらいとする学習である。教師、A組・B組の生徒たちでお客さんになったり、お店の店員さんになったりしながら交代して活動することで、学習を積み重ね、お店の開店当日、いろいろなお客さんとやり取りをしながら生徒たち自身も楽しんでもらいたいと考えた。

活動の中で発語のある生徒たちは「いらっしゃいませ。」「何回しますか?」「こちらにどうぞ」「ありがとうございました。」など相手に対して、気持ちよく受け答えられるような言葉で話をし、お店の「チケット」や景品を渡したりしてもらいたい。発語の難しい生徒は輪投げの「輪」をお客さんに渡し、「ありがとうございました。」のお礼のカードを表示し、身振りや笑顔等で感謝の気持ちを伝えることでお客さんとの関わりをもつこととした。

なお、店を運営するにあたっては、店を担当する生徒の役割(会計係、得点係、景品渡し係等)を明確にした。一つの仕事を確実にを行うためには、係によっては複数の生徒で対応する工夫もした。二人で協力してお客さんへの対応ができるようにするとお互いの自信にもつながると考えた。授業が終わった後、「自分が頑張ったこと」や「次回、どんな点を頑張らなくてはならないのか」を考えさせる場面も設け、自分の頑張りを友達に知らせる場とした。

(ウ) 本時における目標

- ・ 今までの授業を振り返ることができる。 (「知識・技能」)
- ・ 自分の係の役割を果たし行動することができる。 (「思考力・判断力・表現力」)
- ・ これからの取組について発表することができる。 (「学びに向かう力・人間性等」)

(エ) 学習活動の展開及び分析表

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全体	各生徒
導入	・本時の学習活動について説明を聞く。	○パワーポイントで提示する。	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンを見て、今までの取組を振り返る。 ・B組の教室に移動する。 ・「輪投げ屋さん」をする。(お店の準備) ・最初にAグループがお店の店員さん、Bグループがお客さんをする。 ・続いて、Bグループがお店の店員さん、Aグループがお客さんをする。 ・A組の教室に戻る。 ・発表をし、意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○なつまつりの活動の様子を発表するようにする。 ・発表した内容を黒板に掲示する。 ○クラスに分かれてするのではなく、グループに分かれて取組むことをカード提示して知らせる。 ○できるだけ生徒にお店の準備をさせる。 ○時間的なことを配慮して、一回ずつとする。 ○静かに移動するよう促す。 ○一人ずつ係として頑張ったことを発表させ、今後取組む内容について発表するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手を上げた生徒から、自分たちの活動について発表する。 ○グループが理解できていない生徒には、補助の教師がサポートする。 ○ピンは、ADHIに準備するよう声かけする。 ○生徒がバランスよく発表できるよう配慮する。
まとめ	・次時の学習活動について説明を聞く。	○B組の日直に促す。	



図3(写真3) お店の各係の運営手順表

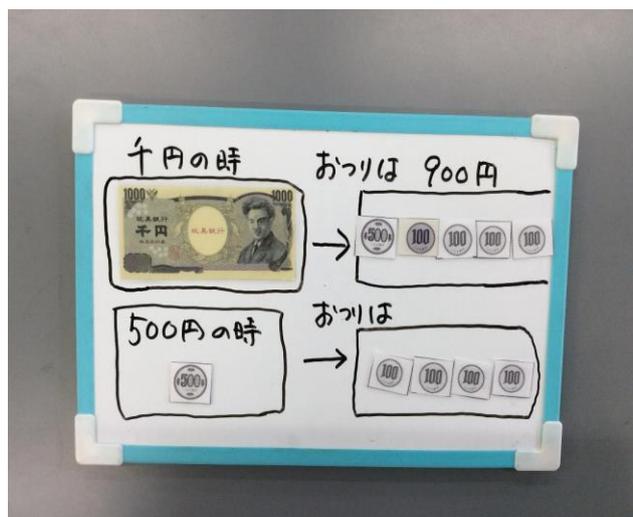


図4(写真4) 一人一人の生徒に合った支援教具

表1 本時における学習過程分析表

単元(題材)名	・「なつまつりを楽しもう」～なつまつりの振り返り学習 お店をして楽しむ (本時)34/34 (7月12日(木)授業実施, 中学部2年)	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの授業を振り返ることができる。(「知識・技能」) ・自分の係の役割を果たし行動することができる。(「思考力・判断力・表現力」) ・これからの取組について発表することができる。(「学びに向かう力・人間性等」) 	
学 習 活 動		
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・始めの挨拶をする。 ・本時の学習活動について説明を聞く。 <p>☆この授業のポイントは、 ○プレゼンを見て、自分や友達の様子を見ることができたか。また、感想を言うことができたか。○友達と協力してお店の準備をしたり、運営をすることができたか。の2点です。</p>	<p>■主体的な学び：学習活動への参加 「できそう」と思える</p> <p>①環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定 (座席配置、道具の位置、教員の位置等) ・見通し <p>②手順理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示 (音声言語-視覚情報-見本-一緒に) ・手順表
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンを見て、今までの取組を振り返る。 ・B組の教室に移動する。 ・「輪投げ屋さん」をする。(お店の準備) ・最初にAグループがお店の店員さん、Bグループがお客さんをする。 ・続いて、Bグループがお店の店員さん、Aグループがお客さんをする。 ・A組の教室に戻る。 ・発表をし、意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援 <p>■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ</p> <p>①他者からの情報を得て活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ <p>②役割の中で活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) <p>③仲間と問題(課題)を捉え解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習活動について説明を聞く。 ・終わりの挨拶をする。 <p>☆お店の設営準備、運営は、簡単な視覚支援教材を準備しています。なお、この表を活用すると、この授業では、「深い学び」まで、到達していないことがわかります。</p>	<p>■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす

(オ) 成果と課題

成果としては、生徒の中から、「次は、こんなことをやってみたい。こんなことを工夫してやってみよう」という声が出てきたことである。生徒たちにとって、取組自体はとても楽しい授業ではなかったと思われる。また、「もっとたくさんの友達や先生を呼んで、お店をやってみよう」ということは、お店をやってみて自信がついてきたのではないかと思った。

課題としては、最初にお店の会場を設営する時に、簡単な運営活動支援カードを用意していたがより細かい指示が必要であった。やはり、お店の設営や準備することは、生徒たちにとって苦手なことだと思った。スムーズにお店の仕事を行うときも同じようなことが言える。次回は、よりしっかりしたお店の設営の運営活動支援カードやお店の係の仕方の手順表を準備すれば、より生徒たちが主体的に対話的に活動できるのではないかと思った。

授業の中で、自分の仕事分かるように各生徒の胸に、ネームプレートを貼っていたが、中身をイラストや写真にすると自分や相手の仕事がより分かりやすくなり、言葉の理解があり、言葉が話すことができる生徒にとっても、言葉の理解や話すことが苦手な生徒にとっても、お互いにもっと活発に話をしたり、関わったりすることができたのではないかと思った。

ウ 実践事例Ⅱ

(ア) 単元名 「輪投げ屋さん(しゅわっち)を開店しようⅡ」

(イ) 単元設定の理由

実践事例Ⅱは、1学期に引き続き、人とのやり取りをすることをねらいとする学習である。6月の練習期間では、教師、A組、B組の生徒たちでお客さんになったり、お店の店員さんになったりしながら交代して活動することで、学習の積み重ねを行うことができた。なつまつり当日や7月の活動の中で、いろいろなお客さんとやり取りをしながら生徒たち自身もうまくいかない場面もあったが楽しむことができた。

活動の中で発語のある生徒たちは「いらっしやいませ」「何回しますか?」「こちらにどうぞ」「ありがとうございました。」など相手に対して、気持ちよく受け答えられるような言葉で話をするのが上手になってきた。

また、発語で接客が苦手な生徒は、お店の「チケット」や景品、輪投げのリング渡しの際に、お客さんに「ありがとうございました。」のお礼のカードを表示したり、身振りや笑顔等で感謝の気持ちを伝えたりすることでお客さんと関わりをもつことができた。

店を運営するにあたっては、主体的な学びを深めるために、店を担当する生徒の役割(会計係、得点係、リング渡し係、景品渡し係等)を明確にした。一つの仕事を確実にを行うためには、係によっては複数の生徒で対応する工夫(対話的な学び)もした。特に会計係や景品係では、運営活動支援カードを改善し、計算の苦手な生徒に対応した。より生徒にわかりやすいように自分の写真や係のシンボルを導入し、ネームプレートも改善した。

生徒たちの強い要望のあったそれぞれの係は、ペアを組んで取組むこと、名札を身に付けること(主体的、対話的な視点)、お店全体のことを考えることができる店長、副店長の職(深い学びの視点)を設けることにし、お店の運営は全て生徒たち自身で取組むこととした。

なお、お店の設営、準備や接客への対応については、7月の第1回目の公開授業研の反省にもとづいて視覚支援教材の充実を図り、教師の支援がなくても生徒たち自身でできる環境作りを整えた。

(ウ) 本時における目標

- ・2学期のお店屋さんの授業を振り返ることができる。(「知識・技能」)
- ・友達と協力して(助け合って)自分の係の仕事をするができる。
(「思考力・判断力・表現力」)
- ・困っている友達(スタッフ)がいたら、友達同士で助け合うことができる。
(「学びに向かう力・人間性等」)

(エ) 学習活動の展開及び分析表

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全体	各生徒
導入	・本時の学習活動について説明を聞く。	○店長を中心に「頑張ろう」と掛け声をしやすいよう支援する。	○日直は、全員が姿勢したかどうか確認を行う。

<p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの係の位置につく。(会計係C、G、I、リング渡し係D、E、得点係B、H、景品渡し、ピン直し係A、F) ・輪投げ屋さん(しゅわっち)開店(開店時間 10:00 から 10:25 まで) ・生徒たちによるお店運営、それぞれの係の仕事をする。(友達と助け合いながらお店の仕事をする。)(店長、副店長、各係の主任は、全体や係の様子を見ながら店を運営する。) ・輪投げ屋さん(しゅわっち)閉店(時間 10:25) ・振り返りの学習(10:25 より) ・それぞれの係の場所で発表する。 ・一人ずつ係として頑張ったことを発表する。 ・発表をし、意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各係ともしっかり準備ができているのか、名札をつけているのか、店長、副店長が確認するよう伝える。 ○各係の生徒に運営活動支援カードの設置の確認をさせる。 ○各係の生徒にお客さんに対してお店への呼び込みをするよう伝える。 ○各係の生徒たちの活動が少なくなった場合は、運営活動支援カードを見ながら、仕事をするよう伝える。 ○それぞれの係の場所で発表することを伝える。 ○発表の際、意見交換をしやすいように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各係で準備の最終打ち合わせをするよう伝える。 ○お互いに改善したネームプレートを付けているか確認する。 ○店長が営業中のプレートを掲げることを忘れた場合、運営活動支援カードを見るよう促す。 ○困っている友達がいたとき、店長、副店長に助けるよう促す。 ○各係の中で、友達と協力し、助け合う場面が少ない場合、助け合うよう促す。 ○店長が準備中のプレートを掲げることを忘れた場合、運営活動支援カードを見るよう促す。 ○生徒がバランスよく発表できるよう配慮する。 ○発語の苦手な生徒は、一緒に仕事した係の生徒と一緒に発表する。 ○学習したことを振り返り、自分や友達を評価するよう支援する。
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習活動について説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○B組の日直に促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○頑張りをほめる。



図5(写真5) 改善した各係の運営支援手順カード(例景品係)



図6 改善したネームプレート

表2 本時における学習過程分析表

単元(題材)名	「輪投げ屋さん(しゅわっち)を開店しよう」	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期のお店屋さんの授業を振り返ることができる。(「知識・技能」) ・友達と協力して助け合って自分の係の仕事をするができる。(「思考力・判断力・表現力」) ・困っている友達(スタッフ)がいたら、友達同士で助け合うことができる。(「学びに向かう力・人間性等」) 	
	学 習 活 動	
導入	1 それぞれの係の位置で始めの挨拶をする。 2 本時の学習活動について説明を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>☆この授業のポイントは、</p> <p>○友達と協力して(助け合う)同じ係の仕事をする事ができたか。</p> <p>○困っている友達(スタッフ)がいたら、お互いに助け合う事ができたか。の2点です。ここを見てください。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■主体的な学び : 学習活動への参加 「できそう」と思える ①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) ・見通し ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示(音声言語-視覚情報-見本-一緒に) ・手順表 ③活動中への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援
展開	3 それぞれの係の位置につく。 (会計係C、G、I、リング渡し係D、E、得点係B、H、景品渡し、ピン直し係A、F) 4 輪投げ屋さん(しゅわっち)開店(開店時間10:00から10:25まで) 5 生徒たちによるお店運営、それぞれの係の仕事をする。 (友達と助け合いながらお店の仕事をする。) (店長、副店長、各係の主任は、全体を見ながら店を運営する。) 6 輪投げ屋さん(しゅわっち)開店(時間10:25) 振り返りの学習(10:25より) ・それぞれの係の場所で発表する。 ・一人ずつ係として頑張ったことを発表する。 ・発表をし、意見交換をする。	<ul style="list-style-type: none"> ■対話的な学び : 活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) ③仲間と問題(課題)を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと ■深い学び : 学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」 ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす
まとめ	8 次時の学習活動について説明を聞く。 9 終わりの挨拶をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>☆お店の運営は、</p> <p>○店長、副店長を中心にお店が運営できる体制にしています。</p> <p>○各係に、主な活動をする主任さんを置いています。主任さん以外は、おもてなし係とし、お互いに助け合うようにしています。</p> </div>	

(オ) 成果と課題

成果として、第1回公開授業研の反省から2回目の授業では、「生徒一人一人が友達と協力しながらも一人で仕事ができる状況づくり」を目指し、お店をスムーズに運営するために、生徒と一緒により分かりやすい運営支援活動カードを改善、工夫したものを考え作ることができた。また、生徒たちが運営支援活動カードを見ながらお互いに協力しあって、お店の設営、セッティングをすることもできた。しっかり仕事の役割分担をすることでお店の仕事や運営を生徒たち自身でできる状況を作り出すこともできた。9月の授業では、お店の練習を重ねるごとに教師の支援が少なくなり、生徒主体の活動ができ始め、本番の授業に臨むこともできた。

課題としては、「友達と助け合いながらお店の仕事をする」というところで、Bが券をもらって渡すだけだったので、半券をちぎって、缶に入れて渡すという仕事があれば良かった。もう一役あったら、Hが手伝い、助け合うという場面も仕組めたのではないかと思った。さらに、発表の時に、半券をちぎったとみんなに見せることにより本人の達成感につながる活動もあれば良かったと考える。

ウ 2年生における取組のまとめ

(ア) 実践を通して

この生徒主体のお店の運営の取組は、この活動に取り組んで培ってきた学年集団としてのまとまりが強化され、どの生徒も意欲的に取り組むことが多くなり、生徒同士でお互いに相手のことも考えた行動が増え、さらに係の仕事やお店の運営で協力し助け合える場面がいくつも見られた。

授業の中で、生徒の動きがとまったり、声掛けがなかったりして、動けなかった場面が見られた。視覚支援の不十分さも考えられるが、授業の中身も考え改善していかなくてはならない。

特に生徒が視覚支援教材に慣れ、使いこなす練習も必要ではないかと思った。また、授業に取り組んでみて思ったことは、改めて運営活動支援カードも生徒一人一人の実態に応じて、その生徒にとってより分かりやすい運営活動支援カードが必要であることも分かった。一人一人の生徒の実態を教師が把握し、「この生徒の支援には、これが必要なんだ。」ということを理解したうえで、それぞれの生徒の実態に応じた運営活動支援カードを準備して授業作りをすることが「主体的・対話的で深い学び」の活動につながると思った。

(イ) 分析表改善に向けて

改善点としては、どれだけ生徒が頑張ったのか評価の点でもより分かりやすく説明できるようになることも必要ではないかと思った。評価項目の欄があれば生徒の頑張りを表示でき、評価面でも分かりやすいのではないかと思った。

また、分析表の項目について、コミュニケーションの項目も必要になってくるのではないかと思った。お店屋さんの活動を通して思ったことは、対話的な学びは、他者から学ぶということも多いが、自分自身で気が付いて友達に報告するとか、協力を求めるとか、自分から学ぶことも多いと思う。例えば、景品の在庫がないことを気が付いて自らから進んで友達に報告するとか、大事なことを相手にしっかり伝える力も必要になってくるのではないかと思った。この伝える力が深い学びの視点につながり、今後、いろいろな場面で、臨機応変に対応できる力を一人一人の生徒に身に付けるきっかけになるのではないかと思った。

(3) 中学部3学年における取組「テーマ：教科学習と生活単元学習を相補的に関連させた取組」

ア 取組にあたり

(ア) はじめに

中学部3学年の取組は、学部テーマ「主体的・対話的に学び、生活に必要な力を身に付ける取組」から教科学習と生活単元学習を相補的に関連させた取組を行うこととした。

昨年度、本学年は、「テーマ：生徒自らが主体的に授業に取り組む姿を目指した手立て」として、「主体的・対話的で深い学び」を引き出すための授業づくりを行った。学習の習熟度を基準にしたグループに分かれて、発達段階や生活経験等を考慮した「ユニバーサルデザインに基づく授業づくり」から、教科学習における「分かる・できる授業」を目指したことで、生徒の主体性や教科学習への意欲に変化が見られ、一定の成果となった。しかし、「授業で身に付いた力を社会でどのように活用するのか。」という点では、課題が見られた。

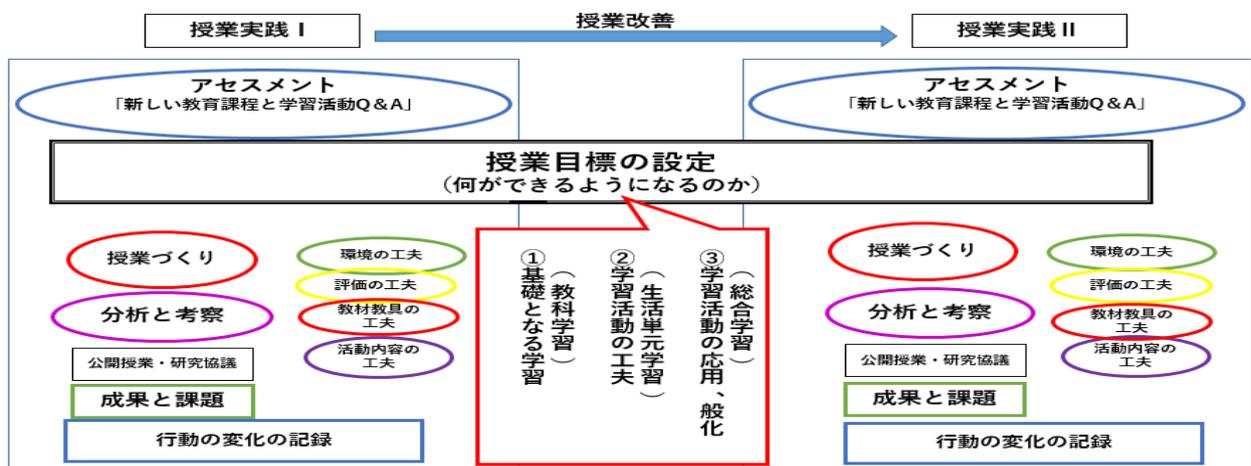
そこで、生徒の将来を見据える、「般化」に向かわせる学習計画を立てることで、具体的に「何ができるようになるのか」を授業の目標にすることとした。また、「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表（試案）」を活用することで、「主体的」「対話的」「深い学び」の三つの視点を明確にして、生徒のキャリア形成を行いたいと考えた。

(イ) 単元計画

a 研究方法

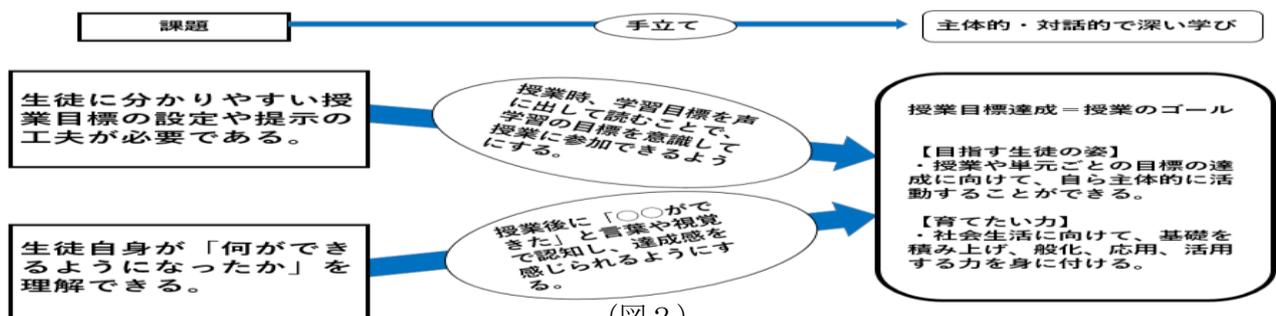
- 授業実践から課題や改善点を明確にすることで、授業改善を行う（図1）。
- 「何ができるようになるのか」を授業の目標とする（図2）。
- 「新しい教育課程と学習活動Q&A」で生徒の実態把握と行動の変化の記録を行う。

b 取組の概要



(図1)

c 授業目標について



(図2)

c 関連するキャリアの観点

- 人間関係形成能力（つながる力）「友達と協力して学習に取り組む」
- 情報活用能力（見つける力）「情報を得るための様々な方法を知る」
- 将来設計能力（憧れて目指す力）「好きな活動をもち、自発的に取り組む」
- 意思決定能力（かなえる力）「自分で達成可能な目標を立てる」
「よかったことや改善点を振り返り、次の活動に生かす。」

d 単元計画

(a) 授業実践Ⅰ 単元の学習計画（全30時間）

第1次「お店の準備をしよう。目指せ！レベル10～レベル50」（20時間）

第1時 なつまつりオリエンテーション・・・・・・・・・・ 2時間

第2時 ディスプレイ作り・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6時間

第3時 製品作り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12時間

第2次「おもてなしをしよう。目指せ！レベル100」（6時間）

第1時 接客オリエンテーション・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

第2時 接客練習、お客さん体験・・・・・・・・・・・・ 4時間

第3次「お店に来てもらおう。目指せ！レベル100」（4時間）

第1時 「作業屋・中3」広報活動①・・・・・・・・・・・・ 3時間（本時2/3）

第2時 「作業屋・中3」広報活動②・・・・・・・・・・・・ 1時間

(b) 授業実践Ⅱ 単元の学習計画（全3時間）

第1時 日めくりカレンダーを作ろう（修学旅行）・・・・・・・・ 1時間

第2時 日めくりカレンダーを作ろう（自分の好きな行事）・・ 1時間

第3時 日めくりカレンダーを作ろう（冬休み）・・・・・・・・ 1時間

イ 実践事例Ⅰ

(ア) 単元名「レベル100店を目指そう！」

(イ) 単元設定の理由

a 生徒観

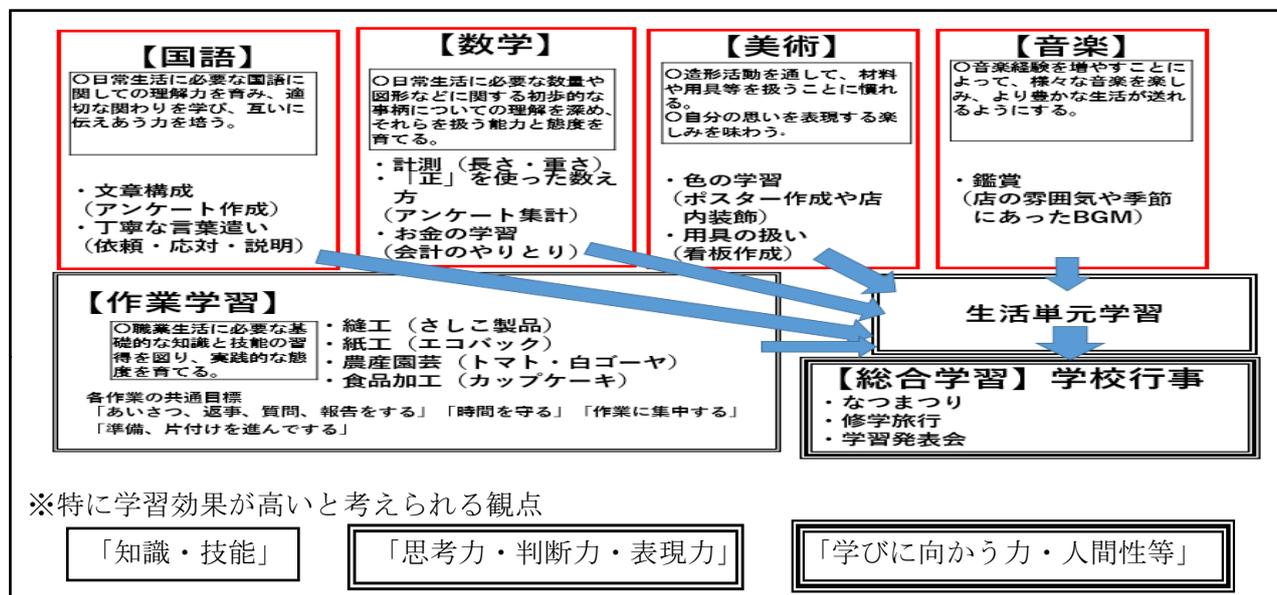
本校の中学部3学年は、男子6名、女子2名の計8名の2クラスで構成されている。好きな学習には一定時間取り組もうとするが、集中力の持続が難しい生徒、自分の見通しと異なる状況では時々パニックを起こしてしまう生徒、多動な傾向があり周りからの刺激を受けやすい生徒など、個人の特性によって実態は様々である。机上での学習では、一定の理解を示し成果を出せるが、その内容を生活の中で活用させるには至っていない。これまでの「なつまつり」でも自分たちが作った製品の評価や接客対応など、他者評価に関心をもち、自発的に改善しようとする姿は見られなかった。こうした実態を踏まえ「なつまつり」の出店準備を他教科と分かりやすく関連させた学習計画を行うことで、教科学習で身に付けた力を生活に生かすことや他者を尊重する心の育成を目指した取組を行うこととした。

b 単元観

「なつまつり」は、生徒が毎年楽しみにしている学校行事である。生徒は、販売や接客を行うことのみならず、客としても他店での催しへの参加や品物の購入を楽しみにしている。

本単元は、中学部3年間の作業学習で積み重ねた経験を踏まえ、各教科で身に付けた知識や技能を生かせる店づくりを目指した取組である。中学部最上学年であることから、学校生活に見通しをもち

更なる成長を促せる機会であると考えた。中1、中2時に行った店づくりの取組を振り返り、生徒と共に、数値化させ「レベルアップ」という形式で、目標達成を目指す単元計画を行った。本校の「なつまつり」は、保護者のみならず地域からの参加者も多いことから初対面の人への臨機応変な対応「思考力・判断力・表現力」が必要である。本単元における生活単元学習と各教科等との関連については、以下（図3）に示す。授業の中で生徒が互いに気が付いたことを伝え合い、相互評価が行えるようにしたい。



（図3）生活単元学習と各教科等との関連

c 指導観

学習のゴールをレベル10～100と数値化することで、生徒の関心・意欲を引き出し、目標を声に出して読ませることで、学習の目標を意識して授業に参加できるようにする。生徒自身も「何ができるようになるか」を理解し、授業後に「〇〇ができるようになった」と視覚的に示し、言葉にすることで、自信をもたせたい。自分の得意なことを意識すると共に、友達の得意なことについても確認し合うことで、自主性や他の意見を聞こうとする姿勢を育てたいと考えた。

ポスター制作は、これまで手順通りに見本を見て作る基礎的な活動では、主体性が見られた。オリジナルティやポスターを貼る際の工夫は見られなかったため、今回は、あえて開店準備の終盤にポスター制作を行い、自分たちの店であることの自覚を促し、それぞれが思いをもってポスター制作に取り組んでほしい。対話的な態度の育成を目指し、校内に多数貼られている他店のポスターから「見やすいポスター」を探すことで、自店のポスター制作の参考にさせたい。また、「なつまつり」当日のお客さんの目線になり、貼る場所について考えてほしい。貼った後に、友達のポスターをそれぞれが探すことで、「みんなでお店を作る」という意識を高めたい。

人目につく場所にポスターを貼ることができたかを確認し、改善の促しを行うことで、深い学びへつなげたいと考えた。また、生徒が自ら学習を進めることができるように過度な支援にならないことを十分に留意していきたい。

d 単元目標

- ・活動に必要な物を自分で準備することができる。（「知識・技能」）
- ・みんなでお店を作るという目的を理解し、他者の意見を受け入れることができる。（「思考力・判断力・表現力」）

- ・多くの人に來客してもらうことに期待感や達成感をもち、工夫することができる。
（「学びに向かう力・人間性等」）

(ウ) 本時における目標

- ・お店の情報を伝えるポスターを制作することができる。
（「知識・技能」）（「思考力・判断力・表現力」）
- ・自分の作ったポスターに他者の意見を反映させることができる。
（「思考力・判断力・表現力」）（「学びに向かう力・人間性等」）

(エ) 学習活動の展開及び分析表

a 学習活動の展開

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全体	各生徒
導入の分	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○本時の学習の流れを確認する。 ○本時の目標を確認する。 ○本時の目標を声に出して読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「日組の日直さん」と伝え、生徒たち自身が始めの挨拶をすることに気が付けようとする。 ○ホワイトボードに学習の流れを提示して、説明する。 ○本時の目標である「お店のポスターを作ろう！①お店の情報を伝えよう②アドバイスを聞こう③貼る場所を考えよう」を提示して、みんなで読むように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> C: 掲示した本時の目標を棒で指す役に授權することで意欲を高める。緊張した場合は、次回の役割を約束して他の生徒を指名する E: 掲示した本時の目標を棒で指す役に授權することで意欲を高める。
展開の分	<ul style="list-style-type: none"> ○ポスターをイメージし、制作の手順について考える。 ○ポスターの材料を準備する。 ○ポスターの道具を準備する。 ○ポスターを制作する。 ○出来上がったポスターを黒板に貼る。 ○友だちのポスターを見る。 ○本時の目標を確認する。 ○自分のポスターを見返す。 ○ポスターに工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員が準備した黒板前の素材を自由に使って制作するように伝える。 ○1分間、どのようなポスターにするかイメージするように伝える。 ○タイマーを1分間にセットし、「スタート」の掛け声で気持ちをイメージに向けられるようにする。 ○製作時間をタイマーで示し、20分で仕上げるように伝える。 ○出来上がったポスターは黒板に掲示するように伝える。 ○黒板のポスターをよく見るように伝える。 ○ポスターについて意見を言うように一人ずつ指名する。 ○本時の目標の「お店のポスターを作ろう！①お店の情報を伝えよう」②アドバイスを聞こうを強調して、本時の目標が達成できるようにする。 ○工夫する時間をタイマーで示し、5分で仕上げるように伝える。 ○「これで良い」と高評価のポスターには、「もう工夫」と声をかけ工夫を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> B: T2が促すことで、自分から道具の準備ができるようにする。 C: Aを見本にすることで主体的に活動できるようにする。 F: 本人が自発的に活動できるように声掛けを最小限にする。 G: T4が促すことで、自分から制作準備ができるようにする。 DEH: 全体への指示後、自分たちで考えられるように見守る。 BCG: 好きなポスターを選び、自分の顔写真が貼れるように場面設定する。黒板前へ出られない場合は、T2、T3、T4が促しを行う。 ADEF: 友だちのポスターを見て気付いたことを発表させる。その際、「良いポスター」の条件を記入したホワイトボードを提示する。
まとめの分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時に活動した内容を確認する。 ○次時の学習の流れを確認する。 ○挨拶をする。 （休憩10分） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホワイトボードの学習の流れを注目させる。 ○次の時間にポスターを校内に貼ることを伝える。 ○「号令してください」と伝え、生徒たち自身から終わりの挨拶をすることができるようにする。 	

b 学習過程分析表

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表（試案）			
単元（題材）名	レベル100店を目指そう（27～29 / 30時間）-お店に来てもらう。目指せ！レベル100（1～3 / 4時間目）-		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・お店の情報を伝えるポスターを制作することができる。（「知識・技能」） ・自分の作ったポスターに他者の意見を反映させることができる。（「思考力・判断力・表現力」） ・多くの人に見てもらえるように、ポスター掲示の場所を考えることができる。（「学びに向かう力・人間性等」） 		
学習活動			
導入	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめのあいさつをする。 2 本時の学習のスケジュールを確認する。 3 「なつまつり」の目標の確認をする。 ・目標を声に出して読む。 4 前時までの振り返りをする。 ・仕上げた製品を見る。 ・写真を見る。 		<p>■主体的な学び：学習活動への参加「できそう」と思える</p> <ul style="list-style-type: none"> ①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定（座席配置、道具の位置、教員の位置等） ・見通し ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示（音声言語一視覚情報一見本一一緒に） ・手順表
展開	<ol style="list-style-type: none"> 5 出店準備について考える。 ・準備項目を確認し、ペンでチェックをする。 6 ポスター制作について知る。 ・「良いポスターの条件」を考える。 ・ポスターの見本を見る。 7 ポスターを制作する。 ・材料を準備する。 ・道具を準備する。 ・ポスターを制作する。 8 仕上げたポスターを見る。 ・自分のポスターを友だちに見てもらおう。 ・友だちのポスターを見て、意見を言う。 9 友だちのアドバイスを取り入れて、仕上げる。 10 ポスターを貼る。 ・目につきやすい所を選んで貼る。 ・正しい貼り方で貼る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援 <p>■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ（自分・相手の力が分かり、何をすべきか） ③仲間と問題（課題）を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと <p>■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす
まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の目標の確認をする。 2 次時の学習の説明を聞く。 3 終わりの挨拶をする。 		

(オ) 成果と課題

ポスター作りは、教科学習で身に付けた様々な知識、技能を使う学習であったため、般化しやすく学びに向かう力が育つ教材であったと考えられる。また、授業の最初に目標を示すことで、生徒自らが主体的に目標を達成しようとする姿が見られた。「自分の作ったポスターに他者の意見を反映させることができる。」という目標は、生徒の対話的な学びや深い学びの促しになったと考えられる。しかし、「言葉のやりとりが苦手な生徒にとって、主体的な活動をどう育てていくのか」という点で課題が見られたことから、グループ別活動にすることで、別の面でのいろいろな生徒たちの動きを見ることができるよう授業改善を行っていくこととした。



ウ 実践事例Ⅱ

(ア) 単元名「日めくりカレンダーを作ろう」

(図4) 出来上がったポスター

(イ) 単元設定の理由

a 単元観

「修学旅行」は、学部の最上級生が行う宿泊学習であり、生徒が大変楽しみにしている学年行事である。興味・関心が高いため主体的に行動ができ、気付きや要求の発言を促しやすい単元である。

「発表できる」「選ぶことができる」「活動の般化ができる」など主体的に取り組めることをねらいとした。分からないことは手を挙げて聞くが、それ以外は生徒が手順書を見て自分で授業を進めていけることを目指していきたい。数学の教科学習で指定した長さに線を引き図形を作ることはできている。日めくりカレンダー作りにも作図の学習を生かしてもらいたい。これまでは、楽しい行事までの日数を確認する際には、そのつど月のカレンダーをめくり、その日までの日数を数える方法を行ってきた。修学旅行までの日数が一目で分かるカレンダーを作ることで、生徒の意欲・関心を引き出した。また、毎日めくることで修学旅行に行く心の準備と共に見通しをもって修学旅行の準備を行ってもらいたい。この単元を通して、数学で定規を使い図形を作る学習が日常生活場面に生かせることを理解し、既知の知識を未知の場面で生かせることに生徒が気付くきっかけにしたいと考えた。

b 指導観

カレンダーを作る際には、具体的な長さを提示することで評価基準を明確にする。(「授業実践Ⅰ 指導観参照」)

c 単元目標

- ・必要な長さを測り、正確に線の上を切ることができる(「知識・技能」)
- ・必要な材料を考え、選択することができる(「思考力・判断力・表現力」)
- ・工夫した点を他者に発表できる(「学びに向かう力・人間性等」)

(ウ) 本時における目標

- ・縦約13cm、横約10cmの長方形を作ることができる。
- ・日めくりカレンダーに使う材料を選ぶことができる。
- ・工夫した点を発表することができる。

(エ) 学習活動の展開及び分析表

a 学習活動の展開

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全体	各児童生徒
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○本時の学習の流れを確認する。 ○本時の目標を確認する。 ○目標を声に出して読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「A組の田直さん」と伝え、生徒たち自身が始めの挨拶することに気が付くことができる。 ○ホワイトボードに学習の流れを提示して説明する。 ○全員が前を見るまで話しはじめない。 ○本時の目標を声に出して読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> A: 本時の目標を棒で指す役に抜擢することで学習意欲を高める。
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行までの残りの日数を数える。 ○手順書を配布する。 ○カレンダーの材料を準備する。 ○カレンダーの道具を準備する。 ○カレンダーを制作する ○出来上がったカレンダーを黒板に貼る。 ○工夫した点を発表する。 ○本時の目標を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ○Cが前でカレンダーを指すことで注目させる。 ○教員が準備した黒板前の素材を自由に使って製作することができる。 ○制作時間をタイマーで示し、30分で仕上げるができる。 ○長さの違う紙を用意して、自分で長さを測り切れるように工夫を促す。 ○出来上がったカレンダーは黒板に掲示するように伝える。 ○自分の工夫した点を前で発表することができる。 ○Aにもう一度本時の目標を指してもらおうにする。 	<ul style="list-style-type: none"> C: カレンダーの日数を指す役に抜擢することで学習意欲を高める。 D: 本人が自発的に活動できるように声掛けは最小限にする。 ABCDE: 全体への指示後、自分たちで考えられるように見守る。
まとめ 7分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動した内容を確認する。 ○チェックリストを記入する。 ○挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホワイトボードの学習の流れに注目することができる。 ○目標を一つずつ達成できたことを確認する。 ○授業が終わることを伝え、生徒たち自身から終わりの挨拶をすることができる。 	

b 学習過程分析表

単元(題材)名	日めくりカレンダーを作ろう	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・縦約13cm、横約10cmの長方形をつくることができる。(「知識・技能」) ・自分が使う材料を選ぶことができた。(「思考力・判断力・表現力」) ・工夫した点を発表することができた。(「学びに向かう力・人間性等」) 	
学習活動		<ul style="list-style-type: none"> ■主体的な学び : 学習活動への参加 「できそう」と思える
導入	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめのあいさつをする。 2 本時の流れを知る。 3 本時の目標を知る。 ・目標を声に出して読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) ・見通し ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示(音声言語-視覚情報-見本-一緒に) ・手順表
展開	<ol style="list-style-type: none"> 4 修学旅行までの残りの日数を数える。 5 手順書をもらう。 ・カレンダーの材料を準備する。 6 カレンダーを制作する。 ・出来上がったカレンダーを黒板に貼る。 7 工夫した点を発表する。 8 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援 ■対話的な学び : 活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ
まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 9 本時の活動の流れを確認する。 10 チェックリストを記入する。 11 終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきか) ③仲間と問題(課題)を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活 ■深い学び : 学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」 ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす

(オ) 成果と課題

「授業実践 I」の課題から、数学の学習習熟度を基準にグループ分けを行い、暦の学習と発達段階に合わせた活動内容で授業づくりを行った。小集団の落ち着いた環境の中で、個々の実態に応じた教材教具を用意することで、生徒の主体性や対話的な活動、深い学びへのきっかけとなった。

本授業では、手順書を充実させ教師の関わりを極力少なくしたことで、生徒同士が関わる場面が多

く見られた。また、生徒からの教師への質問には、手順書を指差す等で対応し、直接的な指示よりも間接的な指示で対応した。しかし、主体性を促すための支援として、「活動へのヒント」や「学習への手掛かり」は、重要であると考えられる。支援の頻度や関わり方は、そのつど生徒の実態に応じるために今後も検討が必要である。生徒への目標提示については、具体的な活動目標である「縦約 13 cm、横約 10 cm の長方形を作ることができる。」「日めくりカレンダーに使う材料を選ぶことができる。」「工夫した点を発表することができる。」の 3 点を提示した。しかし、これらは活動の留意事項であり、本授業で生徒に提示する目標は、「修学旅行までの日めくりカレンダーを作ろう」であった。このように、生徒への目標提示のあり方については、今後の授業づくりの上でも重要と考えられる。

エ 中学部 3 学年における取組のまとめ

(ア) 実践を通して

a 生徒の行動の記録と変化

教科学習と生活単元学習を相補的に関連させた取組を行う上で、「般化」の観点から生徒の実態把握を行った。「新しい教育課程と学習活動 Q&A (中学校)」でアセスメント (表 1) を行った結果、生徒の苦手な部分が明らかになった。それぞれの単元学習に関連する項目を抜粋して、苦手な部分を補う授業づくりを行うことで一定の成果が得られた。また、学習活動以外でも生徒の活動に変化が見られるようになった。「授業実践 I」の取組後、生徒から「このポスター、日付が書いていないよ。」「このポスターは、見やすいね。」等、校内のポスターについて意見が聞かれた。また、「授業実践 II」の取組後には、これまで定規を使う習慣がなかった生徒たちに変化が見られた。国語の授業で、白紙プリントを配布すると、一人の生徒が文章を書くために、自分から定規で均一な線を引き始めた。それを見た他の生徒たちも真似をして線を引くことができた。



(図 5) 主体的に学習課題に取り組む様子

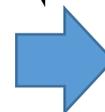
(表 1)

「新しい教育課程と学習活動 Q&A (中学校) によるアセスメント

(5 月) ひとりでできる・・・○ 教員の支援があればできる・・・△ まだできない・・・×

項目 (抜粋)	A	B	C	D	E	F	G	H
実際の場面で、指示や説明などを聞き取って行動する。(2 国語)	△	△	△	△	△	△	△	△
よく目にふれる標識 案内板、看板、ポスター、広告などの意味がわかる。(2 国語)	△	×	×	○	○	△	○	△
長さ、重さ、容積を表す単位がわかり、ものさしやはかりなどの扱いに慣れる。(3 数学)	△	×	×	△	△	△	△	△
曆のおおよその仕組みがわかり、その扱いに慣れる。(3 数学)	△	×	×	△	△	△	△	△
知らせる内容を考えて、色や形の組み合わせを工夫して表現する。(5 美術)	△	×	×	△	△	×	△	△
身近な問題を仲間と話し合い、自分の意見を述べる。(7 社会：集団生活と決まり)	△	×	×	△	△	×	○	○
困ったとき、わからないときは、人に尋ねたり、教えてもらったりして、目的を果たす。(7 社会：集団生活と決まり)	×	×	×	△	×	×	○	○
身近な問題を仲間と話し合い、自分の意見を述べる。(7 社会：集団生活と決まり)	×	×	×	△	×	×	○	○

「般化」の観点



(12月)

	A	B	C	D	E	F	G	H
	△	△	△	○	○	○	○	○
	○	×	×	○	○	△	○	○
	○	×	×	○	○	○	○	○
	△	△	△	○	○	○	○	○
	△	×	×	○	○	△	○	○
	○	△	△	○	○	△	○	○
	△	×	×	○	○	○	○	○
	△	×	△	○	○	○	○	○

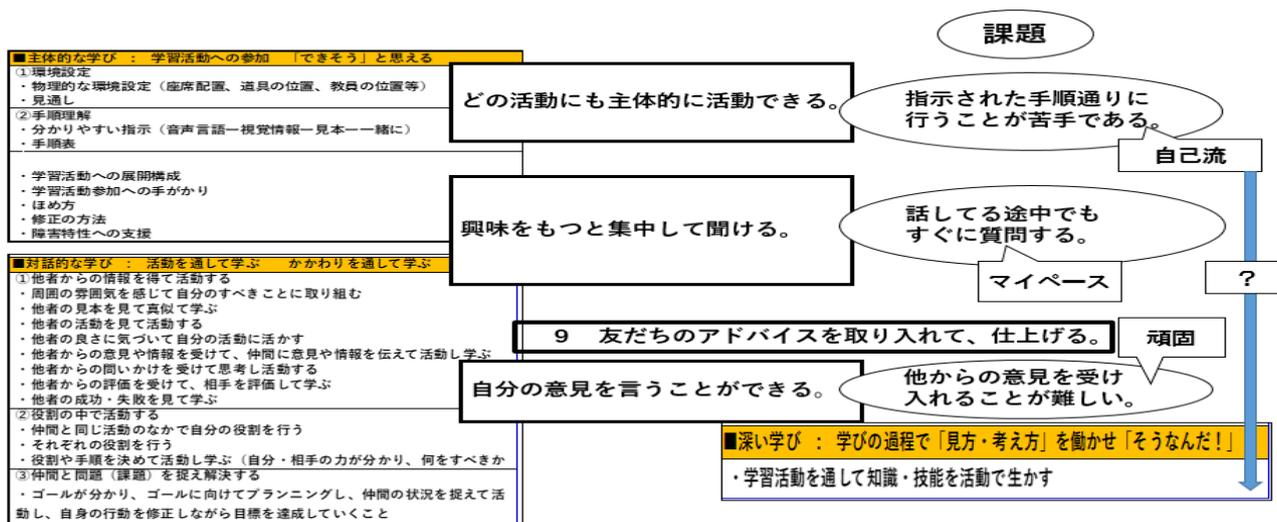
b 成果と課題

本取組は、教科学習で学んだことを生活単元学習の場面で般化させ、その後、実生活の場面で般化するという二段階の構想であった。今後の取組として、「見本を見せて同じものを作るには、どうしたらいいのか」等、個人思考する活動から集団思考させる活動につなげることで、「より深い学び」を促せると考えられる。

また、小学部、中学部、高等部と系統的に段階を踏まえながら、社会生活に向けて、学習の基礎を積み上げることや実生活で活用することで、生徒が「できた！」と達成感を感じることで「主体的・対話的で深い学び」を引き出すために必要不可欠であると考えられる。

(イ) 分析表改善に向けて

「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表（試案）」を活用し、授業の全体目標から生徒の個々の実態に応じた個人目標の設定（図5）を行った。生徒の特性や個々の課題から授業目標達成の姿を想定する点では、活用しづらい結果となった。また、生徒Gのように、既に授業の中心にいて、常に発言、質問している状態の生徒にとっての「主体的」「対話的」「深い学び」とは何かを検討する必要があった。そこで、個別の指導計画「自立活動」の目標シート【図6】を活用する等、生徒の実態把握を行うことで、その子どもにとっての「主体的に学ぶ姿」「対話的に学ぶ姿」「深い学びに向かう姿」を検討することで改善されるのではないかと考える。



(図6) 生徒Gについて

部	業	学年	組	指導目標	具体的な指導内容や学び	学習の様子と成果・評価	改善点や今後の課題
障害・実情名				相手の気持ちも考えて、適切な行動をとることができる。 集団で行動することができる。			
区分	適応						
課題の分析		生活のリズムや生活習慣の形成 病気の状態の理解と生活管理 身体各部の状態の理解とケア 障害の特性の理解と生活環境の調整 健康状態の維持・改善			・人とのトラブルを事前に想定し、その対応について視覚的に示すことで、正しい対応ができるようにする。		
心理的な安定		情緒の安定 状態の理解と変化への対応 障害による学習と日常生活上の困難の改善・克服する意欲			・客観的な考え方ができるようにイラストを活用しながら対話を行う。		
人間関係の形成		安全の確保や距離の確保 自己の理解と行動の調整 集団への参加の基礎 保育する感覚の活用 感覚や感情の特性についての理解と対応			・多数決の場面や友達と協力する場面を設定し、不適応行動が見られた場合は、刺激せず、正しい行動については称賛する。		
環境の把握		感覚の補助並びに代替手段の活用 経験や行動の学習からなる概念の形成 感覚や行動の学習からなる概念の形成 姿勢と運動、動作の基本的技能 姿勢維持と運動、動作の補助手段の活用 日常生活に必要な基本動作					
身体的能力		身体的能力 作業に必要な動作と円滑な進行 コミュニケーションの基礎的スキル 健康の受容と発現					
コミュニケーション		言葉の形成と活用 コミュニケーション手段の選択と活用 状況に応じたコミュニケーション					

(図7) 平成30年度個別の指導計画（自立学習）

4 おわりに

(1) 実践を通じた授業改善に向けて

本年度は、本校で試行された「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表(試案)」を用い、目標を達成するために手立てが必ず講じられているか、その手立ては生徒にとって最適であるのかという観点から研究協議を進めることができた。

また、本年度は学習指導案の作成時に、本単元・本時の目標と新学習指導要領の教科等の目標・内容と照らし合わせることで、その関連性と評価を確認し明確化することができた。結果、生徒は、学習環境の改善や教材教具の工夫により、より見通しをもって主体的・対話的に授業に取り組むことができた。

各学年から出た成果と課題としては、中学部1年は、教師が仲立ちをしながら生徒たちが興味・関心のある題材を選び、「互いに関わりあうこと」に焦点をおき取組を重ねていく中で、授業以外の場面においても、友達の存在を意識しながら主体的に活動する姿が見られるようになり、この実践が生徒たちの成長に深くつながることができた。

中学部2年は、日常生活においても、より良く友達、仲間と関わる力、生活していく力につなげ、生徒が主体的に意欲をもって、達成感を得られる授業を目指した。次回への改善も生徒間で考えさせる場面を設けることで、回を重ねるごとに教師の支援も減っていき、生徒主体の活動となることができた。

中学部3年は、教科学習で習得した力を生活単元学習と相補的に関連させ、その後の社会生活においても般化・応用・活用する力を身に付ける取組を行った。教科学習で学んだことと場面がつながった時「より深い学び」へとようになっていくことができた。今後は、どのように習得してきた力と、その場面をつないでいくことができるかが課題となってくると思われる。

全体の課題としては、多様な生徒の実態を踏まえ、全員で取り組める目標の設定となってくると思われる。学習の習熟度を基準としてグループ化していく方法も考えられるが、そのことにより教師も分散されてしまい、様々な個々への支援に支障が出てくることも予想される。今後の目標設定や取組について、更に考えていきたい。

(2) 学習過程分析表(試案)の改善に向けて

本年度2学期から試行的に活用した「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表(試案)」について、学部内の研究授業の事後協議の中で検討し、話し合われた内容を以下に記す。

ア 項目、運用・活用等について

分析表の活用により、その授業がどの項目を中心において取り組まれているかを知ることができたが、評価項目の欄があれば、評価面でも分かりやすくなるのではないかと。また、生徒の特性や個々の課題から、授業目標達成の姿を想定する点では活用しづらかったが、個別の指導計画「自立活動」の併用により、改善できるのではないかとする意見や、分析表の各学びに対する項目については、全体を通して授業者が指導のポイントを焦点化しやすい点が非常に良かったという感想が出た。

イ その他

1回目の1学期の研究授業の指導案を2学期になって導入された学習過程分析表含む学習指導案を作成し直して見比べてみると「深い学び」と思っていたものが、「対話的な学び」の③仲間との問題解決なのではないかということが分かった。やはり、中学部の段階は、「深い学びの視点」の入り口の部分が多いのではないかと思われ、この点は2回目の研究授業を準備する上で良かった。

V 高等部の研究

高等部テーマ

「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした社会的自立を目指す学習」

1 はじめに

高等部では卒業後の自立と社会参加に向け、生徒一人一人に必要な資質能力を育むために様々な取組を進め、「自らの力を発揮することによって自己実現を図り、社会的自立につながる力を身に付けた生徒」の育成をめざしている。

今年度は「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした社会的自立を目指す学習」というテーマを設定した2年目に当たる。

1年目はアクティブラーニングの視点を学び、その視点からこれまでの学習過程を捉え直し、授業を見直し授業改善に取り組んだ。また、校内研修会では外部講師から「社会にどれだけ結びついた授業であるかという視点が大切である」という助言も頂いた。

今年度は昨年度の研究を踏まえつつ、年2回の公開授業を実施し、主体的・対話的で深い学びの視点を生かした授業改善に取り組んでいく。その際には、「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表」を活用しつつ、分析表そのものの改善にも取り組み、教師間の共通理解を深めることにも取り組んでいく。

なお、学部テーマに沿って学年ごとに研究テーマを設定し実践に取り組む。学年ごとの研究テーマは下の通りである。

高等部1年テーマ：社会的自立に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした授業作り

高等部2年テーマ：卒業後の自立に向けたコミュニケーション能力の構築

高等部3年テーマ：「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた生活単元学習の授業づくり～卒業後の社会参加を目指して～

2 研究経過

(1) 研究内容

ア 将来の自立と社会参加に必要な資質・能力の育成に向け、生徒一人一人に応じた支援や指導の在り方を検討する。

イ 「主体的・対話的で深い学び」の視点について教師間の共通理解を深めるとともに、授業改善にどのように結びつけていくかを検討する。

ウ 実践から問題点や課題を明らかにする。

(2) 研究方法

ア 各学年で実践研究に取り組む。

イ 2回の公開授業及び事後協議を行い、授業についての検証・改善を行う。

ウ 学習過程分析表を活用し、改善について検討する。

エ 実践の成果と課題を実践集録にまとめる。

(3) 研修計画

ア 学部研究日を月1回設定する他、学年での研究日を随時定める。

イ 研修の日程

月日	研修内容
4/24	学部研究テーマ等の協議
5/11	各グループの実践（研究テーマ決定、今年度の取り組み計画について検討する）
6/5	各グループの実践（各担当での研究の進捗状況等の報告、改善点等の確認）
6/20	公開授業① 高等部3年
7/3	アセスメント①「キャリア発達段階表 2017 改訂版」
7/9	公開授業① 高等部1・2年
7/10	事後協議（各グループの取組報告及び授業改善の確認）
9/4	各グループの実践（各担当での研究の進捗状況の報告、改善点等の確認）
10/25	公開授業② 高等部1・3年
11/9	事後協議（各グループの取組報告及び授業改善の確認）
12/3	公開授業② 高等部2年
12/4	事後協議（各グループの取組報告及び授業改善の確認）
1/8	実践集録の項目立て確認、実践集録の原稿作成
2/5	研究の反省
3/6	アセスメント②「キャリア発達段階表 2017 改訂版」

※8月は学年で設定する。

3 研究事例

(1) 高等部1年生における取組

ア 取組にあたり

(ア) はじめに

実践にあたり高等部1年に在籍する22名の生徒を対象に、キャリア発達段階表や高知県版B型アセスメントシート等を活用し実態把握を行い、その結果をもとに2つのグループを編成した。

この中から、卒業後の社会生活において本人がより主体的に自身の役割に取り組んでいくことが期待される生徒13名(男子10名、女子3名)で編成された学習グループでの実践を取り上げる。

本グループの生徒は、指示理解の内容に注目しても、言語による指示だけで見通しをもち活動できる生徒、視覚的支援も併せて必要とする生徒、また内容は理解できているが不安感等から活動を起こすきっかけを自分でつくるのが難しい生徒等、実態は様々である。

また、家庭での過ごし方も、家事等の手伝いを積極的に行っている生徒もいれば、家庭の事情等によりそうした役割を担っていない生徒もいる。

生徒各自の特性や本人を取り巻く家庭環境等、様々な違いはあるが、学習活動に取り組む中で知識・技能の獲得だけにとどまらず、「自分でもできる」という自信を深めることにより、卒業後の社会生活における自分自身の役割をより主体的に担っていけるような態度の育成に取り組んでいく。

(イ) 単元計画

今回、生活単元学習において「食」をテーマに1学期と2学期に10時間前後の単元を設定し実践に取り組む。単元の実施時期及び詳細は以下のとおりである。

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		実践事例Ⅰ ←→			実践事例Ⅱ ←→					

【実践事例Ⅰ】単元名：電子レンジでお弁当を作ろう(全7時間)

- ・電子レンジと冷凍食品について知ろう 1時間
- ・自分一人で弁当づくり 2時間(本時)
- ・自分たちが作った弁当を採点しよう 2時間
- ・みんなに弁当を作ろう 2時間

【実践事例Ⅱ】単元名：電子レンジを使って調理しよう(全13時間)

- ・電子レンジを使ってできる料理に挑戦しよう。 4時間
- ・食材を買い物に行こう。 2時間
- ・電子レンジを使って料理をしよう①～玉子焼きの味を決めよう～ 2時間
- ・電子レンジを使って料理をしよう②～おかずプレートを作ろう～ 2時間(本時)
- ・電子レンジを使って料理をし、みんなにおかずを作ろう。 3時間

イ 実践事例Ⅰ

(ア) 単元名 「電子レンジでお弁当を作ろう～自分一人で弁当作り～」

(イ) 単元設定の理由

高等部を卒業後、生徒は労働等に従事する「労働の場」、それ以外の生活を過ごす「生活の場」という2つの場面で日常生活を送ることになる。

このうち家庭もしくはグループホーム等の「生活の場」でも、生徒が自分自身の役割をもち主体的に生活を送っていけるよう食に注目し、「電子レンジと冷凍食品」をテーマに、自分一人での弁当作りを設定した。

本単元においては、生徒が身の回りにある調理器具に関する実践的な知識・技能を学び、主体的に扱えるように実習を取り入れていく。

また、自分が食べたいメニューについて考え、候補の中から選択・調理し、それを友達や教師からの意見を交えながら、自分が作る弁当について考えることを通して、食についての意識を高め、バランスのとれた弁当作りにつながるようにしていく。

本単元の取組を、直後に控える夏休みにおける課題として家庭等での食事作りにつなげることにより、家庭との協力のもと生徒の生活全体を通して食についての意識を高め、主体的に携わる力の育成を目指していく。

(ウ) 本時における目標

- ・冷凍食品の調理方法について知る。
- ・電子レンジの使用方法を学び、自分で操作する経験を積む。
- ・冷凍食品の中からメニューを選択し、弁当の献立づくりをしていく。

(エ) 学習活動の展開及び分析表

	学習活動	指導上の留意点等
導入	あいさつ 前回の振り返り 本時の活動内容確認	
展開	<p>展開1 冷凍食品・電子レンジの使用方法について学習する。</p> <p>展開2 冷凍食品の中から、自分が昼食の弁当メニューにする食品を選ぶ。</p> <p>展開3 調理実習～弁当作り～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パッケージ資料をもとに、調理の際に注目すべきポイントを探そう促す。 ・発表された意見をもとに調理おける3つのポイントについて、プリントに整理する。 ・冷凍食品を調理する際、電子レンジの操作ボタンに印をつけ、操作に必要な個所について意識が高まるよう支援する。 ・生徒が冷凍食品を見比べて、自分が調理し食べたいものを選ぶようにする。 ・弁当のメニューに選んだものについては、商品名のほか、自分が食べたい優先順位等をプリントにまとめていく。 ・食品を選ぶことができた生徒には、各食品の調理方法等についても調べていくよう促す。 ・調理前に弁当作りに必要な道具の置き場所等について確認を行う。 ・調理活動の流れについて手本を示しながら確認を行う。 ・各グループを中心に調理を行い、疑問点等があればその都度教師に自分から質問することを確認する。 ・弁当が完成した生徒は、弁当の写真を撮り、本日のまとめシートに記入することを促す。
まとめ	本時の振り返り 次回の学習について おわりのあいさつ	

本時は、冷凍食品を電子レンジで調理することに取り組む最初の時間である。そこで冷凍食品を調理する際に注目してほしい内容を3つのポイントにまとめ、実際のパッケージから内容を正確に読み取れるよう学習場面を設定した。また、電子レンジの操作では個々人が操作するだけでなく、友達の手伝いをする様子も参考に理解が深まるよう学習場面を設定した。

学習活動全体を通しての目標達成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の各要素については、表1の通りである。

表1 本時における学習過程分析表

学習活動			
導入	1 はじめのあいさつ	●	■主体的な学び：学習活動への参加「できそう」と思える
	2 前回の振り返り		①環境設定 ・物理的な環境設定（座席配置、道具の位置、教員の位置等）
	3 本時の活動内容確認		見通し
展開	4 冷凍食品・電子レンジの使用方法について学習する。 ・パッケージ資料をもとに、調理の際に注目すべきポイントを探す。 ・発表された意見をもとに理おける3つのポイントについて、プリントに整理する。 ・電子レンジの操作に関する、順序、温度の設定方法を学ぶ。	●	②手順理解 ・分かりやすい指示（音声言語一視覚情報一見本一一緒に） ・手順表
	5 冷凍食品の中から、自分が昼食の弁当メニューにする食品を選ぶ。 ・提示された冷凍食品を見比べて、自分が調理し食べたいものを選ぶ。 ・弁当のメニューに選んだ商品名をプリントにまとめていく。 ・各食品の調理方法等についても調べまとめていく。		③活動中への支援 ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援
	6 調理実習～弁当作り～ ・調理前に弁当作りに必要な道具の置き場所等について確認する。 ・各グループを中心に調理を行う。 ・弁当が完成した生徒は、弁当の写真を撮影する。		■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ
	7 試食		①他者からの情報を得て活動する ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ
8 片付け	●	②役割の中で活動する ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ（自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる）	
まとめ	5 本時の振り返り	●	③仲間と問題（課題）を捉え解決する
	6 次回の学習について		ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと
	7 おわりのあいさつ		■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ！」 ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす

冷凍食品を調理する際の3つのポイント「電子レンジへの入れ方」、「ラップのかけ方」、「調理時間（個数、ワット数）」を正確に読み取れるよう、図1のように実際のパッケージをラミネート加工した教材を生徒各自に配付した。それをもとに、パッケージのどの部分に注目していくのか、友達が発表する様子や教師や友達からのアドバイスも参考にしながら学習に取り組んだ。その結果、図2のようにプリントにまとめることができる生徒が多く見られた。

また、実際に調理する場面では、自分が選んだ食品を電子レンジに入れた後、時間やワット数が分からず戸惑う生徒が調理当初は多く見られた。教師が、先に取り組んだプリント学習を例に出しながら知りたい情報がどこにあるのか考えるよう声掛けを行う中で、パッケージを手に取り裏面を確認し、時間やワット数を設定する様子が見られるようになった。こうした姿に加え、事前に確認を行ってから電子レンジでの調理に取りかかる生徒や、パッケージを手を持ちながら電子レンジを操作する生徒等、各自が工夫して調理に臨む様子が多く見られるようになった。



図1 生徒配付教材

電子レンジの操作については、一人あたり3品前後調理する中で、当初は質問する様子も多く見られたが、繰り返し電子レンジを扱う中で質問する様子も減っていった。また操作するボタンにつけたシールを確認しながら自分で活動を進める姿も多く見られた。

(オ) 成果と課題

本時は、「冷凍食品の調理方法について知る。」「電子レンジの使用方法を学び、自分で操作する経験を積む。」「冷凍食品の中からメニューを選択し、弁当の献立づくりをしていく。」の3点を目標に活動に取り組んだ。

「冷凍食品の調理方法について知る。」については、図2のプリントに正解を記入できただけでなく、冷凍食品を調理するために必要な情報がどこにあるのか理解し活動につなげることができたと考えられる。実際、電子レンジで調理を行う際、ワット数や時間の設定に戸惑いながらも、教師の声掛けを助けとし、自分でパッケージの裏面に注目して必要な情報を多くの生徒が探ることができていた。

こうした姿の背景には、図1にある教材を生徒一人一人に配付し、各自が自分のペースで教材と向き合い、必要な箇所を探す活動に取り組んだことが深く関係していると思われる。

「電子レンジの使用方法を学び、自分で操作する経験を積む。」では、多くの生徒が必要に応じて質問等を行いながら主体的に操作することができていたと思われる。操作経験があまり無い生徒にはボタンに貼ったシールが目印となり自分で操作する助けとなったり、友達の様子もどのように操作するのかイメージを深める助けとなったと思われる。

「冷凍食品の中からメニューを選択し、弁当の献立づくりをしていく。」では、準備された種類の中から自分好みのメニューを選び、進んで調理することができていた。先に書いたように電子レンジでの冷凍食品の調理について生徒各自が理解を深めることができていたことも、自分から献立づくりに進んで取り組むことへの後押しとなったと考えられる。

また、本時の次に設定した「自分たちが作った弁当を採点しよう」の学習では、本時に自分が考え作った弁当をもとに献立を見直した。図3にあるように、本時に調理した弁当よりも単元末の調理では盛り付け、献立バランス等を工夫して取り組んでいる様子が見られる。

以上のことから、本時の目標は一定達成することができ、そのための「主体的・対話的で深い学び」に配慮した学習活動にも妥当性があったと考えられる。

一方で、今後の課題として今回取り組んだ学習内容の習熟を目指すために、家庭も含め繰り返し取り組むための方策等についての検討が必要である。また、電子レンジ以外の調理活動の必要性についての意見も出されており、今後生徒の実態に照らし合わせ活動内容を見直していく必要も考えられる。

ウ 実践事例Ⅱ

(ア) 単元名 「電子レンジを使って料理をしよう②～おかずプレートを作ろう～」

(イ) 単元設定の理由

高等部を卒業後、家庭もしくはグループホーム等でも、生徒が自分自身の役割をもち主体的に生活

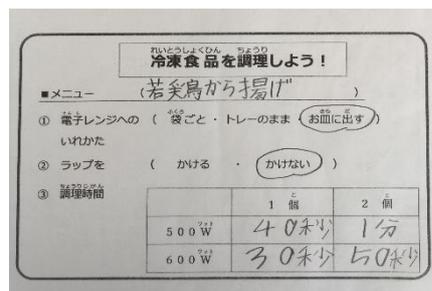


図2 プリント回答の様子



図3 弁当盛り付けの様子 (左：本時、右：単元末)

を送っていけるよう、食に注目し1学期から電子レンジを活用した調理実習に取り組んできた。

1学期は、主に冷凍食品を使って「自分一人で弁当づくり」に取り組んだ。栄養士による主食・主菜・副菜のバランスについての学習も取り入れながら、電子レンジを主体的に操作し冷凍食品の中から献立を考えオリジナルの弁当を作ることができた。

2学期も1学期に引き続き、家庭でも自分一人で調理できること、卒業後を見据え短時間で手軽に調理できることに焦点を当てつつ、身近な調理器具に関する実践的な知識・技能をさらに習得できるよう冷凍食品以外の調理にも取り組んでいく。

そうした中で自分好みの味付けになるよう調味料を工夫する場面や、どのような盛り付けにすれば食べる人に喜んでもらえるのかを考える場面も設定していく。友達の取組を参考にしたり、周囲からの意見も交えながら考えることにより、決められた品目を単に作るだけでなく、身に付けた調理技術を相手や場面に応じてより効果的に活用する気付きを促していきたい。

こうした取組を今学期も継続していく中で、生徒各自の「食」が広がり、卒業後も身体に必要なバランスのとれた食事について主体的に携わっていく力の育成を目指していく。

(ウ) 本時における目標

- ・調理に関する実践的な知識・技能を、実習を通して習得する。（「知識・技能」）
- ・調理手順を正しく理解し活動を進めるとともに、味付けや盛り付け等に工夫して取り組む。（「思考力・判断力・表現力」）
- ・自身の食生活についてより主体的に取り組む姿を育成する。（「学び向かう力・人間性等」）

(エ) 学習活動の展開及び分析表

	学習活動	指導上の留意点
導入	あいさつ 前回の振り返り 本時の活動内容確認	・電子レンジの使い方の復習をする。(ポイントになる時間やワットの確認)
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・各材料の準備を行う。 ・調理実習 <ul style="list-style-type: none"> 【玉子焼き】 <ul style="list-style-type: none"> ・卵を割る。 ・味付けをする。 ・混ぜる。 ・レンジにかける。 【ウインナー】 <ul style="list-style-type: none"> ・爪楊枝で穴を開ける。 ・レンジにかける。 【ブロッコリー】 <ul style="list-style-type: none"> ・はさみで切る。 ・レンジにかける。 【スープ】 <ul style="list-style-type: none"> ・選んだスープをつくる。 ・プレートに盛り付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順書の資料等を使いながら、調理の際のポイントを確認しながら行う。 ・調理する際、電子レンジの操作を忘れていたり、困っている様子が見られた時には、アドバイスを行う。 ・各グループで一つの食材が終わってから次の食材の調理に取り掛かるようにする。 ・各グループを中心に調理を行い、疑問点等があれば、生徒同士での確認等、友達の取組を参考にしよう声掛けを行う。 ・プレートに盛り付ける際には、彩や食事の位置を工夫し、食べたくなるような配置を考えるよう促す。

展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試食 ・ 片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループで協力して片付けることができるように支援する。
まとめ	本時の振り返り 次回の学習について おわりのあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回は友達のものも作ることを確認する。

本時は、全13時間で構成される単元において8、9時間目であり、調理活動だけに注目すると7、8時間目となる。本時まで電子レンジを使っての玉子焼き作り等に取り組み、どうすれば上手に作れるのか、失敗しないコツ等を調理経験を重ねながら生徒は試行錯誤してきた。そうした経験を生かし、本時は単元末の学年全体の食事会に向けたおかずプレート作りに取り組んだ。

学習活動全体を通しての目標達成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の各要素については、表2のとおりである。

表2 本時における学習過程分析表

学習活動		
導入	1 はじめのあいさつをする。 2 作り方の流れを確認する。 3 材料を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ■主体的な学び：学習活動への参加 「できそう」と思える ①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 物理的な環境設定（座席配置、道具の位置、教員の位置等） ・ 見通し
展開	4 各材料の準備をして、料理を開始する。 ・ 調理実習 【玉子焼き】 ・ 卵を割る。 ・ 味付けをする。 ・ 混ぜる。 ・ レンジにかける。 【ウインナー】 ・ 爪楊枝で穴を開ける。 ・ レンジにかける。 【ブロッコリー】 ・ ブロッコリーをはさみで切る。 ・ レンジにかける。 【スープ】 ・ 選んだスープを作る。 ・ プレートに盛り付けを行う。 ・ 試食 ・ 適宜、片付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすい指示（音声言語一視覚情報一見本一一緒に） ・ 手順表 ③活動中への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動への展開構成 ・ 学習活動参加への手がかり ・ ほめ方 ・ 修正の方法 ・ 障害特性への支援 ■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・ 他者の見本を見て真似て学ぶ ・ 他者の活動を見て活動する ・ 他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・ 他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・ 他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・ 他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・ 他者の成功・失敗を見て学ぶ ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・ それぞれの役割を行う ・ 役割や手順を決めて活動し学ぶ（自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる） ③仲間と問題（課題）を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと ■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ！」 ・ 学習活動を通して知識・技能を活動で生かす
まとめ	5 本時の振り返り 6 次回の学習について 7 おわりのあいさつ	

本時の活動では、生徒が各テーブルごとに準備した手順表を活用することはほとんど無く、自分で考えたり、友達の様子を参考に活動を進める様子が多く見られた。

玉子焼きの卵を割る際には、テーブルの平面で殻にひびを入れ、卵のひびの位置や指の当て方を意識し、図4のように正しい持ち方で卵を割る様子が見られた。

その一方で、卵を割る際、割れ目が上側や側面にくるように持ち、



図4 ひびが入った面を下にして卵を割る様子

そのまま親指をあてて割り、殻が混じる様子も多く見られた（図5）。

また、皿にラップをかける際、図6のようにラップの箱を手でしっかり押さえ、ラップを張った状態で手首を使い端からちぎろうとする様子が多く見られたが、上手くいかずやり直したり、くしゃくしゃになったラップを手で広げて皿にかけようとしたりする様子も見られた。

（オ）成果と課題

1学期の電子レンジを使った調理の流れを引き継ぎつつ、課題としてあげられた活動内容についても玉子焼きを調理品目に設定し幅をもたせるとともに自分好みの味付けなども工夫できるよう改善を図った。

本時は、「調理に関する実践的な知識・技能を、実習を通して習得する。」「調理手順を正しく理解し活動を進めるとともに、味付けや盛り付け等に工夫して取り組む。」「自身の食生活についてより主体的に取り組む姿を育成する。」の3点を目標に取り組んだ。

「調理に関する実践的な知識・技能を、実習を通して習得する。」では、電子レンジの操作に加え、卵の割り方、ラップの切り方など基本的な調理技術について、どのようにすべきか自分で考えながら丁寧に取り組む様子が多く見られた。

図7にあるように、取組当初は電子レンジの使い方に戸惑っていた生徒も、本時では1学期に学んだ冷凍食品のパッケージの裏面を参考にし、主体的に操作する姿が多く見られた。

先に述べた卵の割り方やラップを切る場面に注目すると、正しい向きを意識して調理する技術の向上が見られた一方で、卵の殻が混じったり、力任せにラップを切ってしまうと、調理活動を進めることが主となってしまい、十分な技術習得ができていない場面も見られた。

こうしたことから、学習活動の各場面で自分の調理方法や技術について振り返り、評価する中で改善へとつなげるような場面設定を工夫する必要があったと考えられる。

卵の持ち方やラップの切り方等、なぜそうするのかその理由について理解を深めるとともに、繰り返し練習に取り組む中で、生徒各自がつまずきの原因を整理し問題解決できるような流れを単元全体を通して設定することでより改善が図られるのではないかと考える。

「調理手順を正しく理解し活動を進めるとともに、味付けや盛り付け等に工夫して取り組む。」では、手順書を確認しなくても生徒それぞれが主体的に活動を進めることができ、味付けや盛り付けも工夫して行うことができたと考えられる。

取組の中では、グループ内で友達とかかわる様子にもテーブルごとに特色が見られた。生徒同士が主体的に関わりながら活動を進めるグループ、活動への自信の無さ等から教師と一緒に活動を進めるグループ、主に自分の調理に集中して活動を進めるグループ等、生徒の実態によって周囲との関わりも様々であった。



図5 ひびが入った面が下にならないまま卵を割る様子



図6 ラップをちぎる様子



図7 電子レンジ操作の様子

こうしたことを受け、グループ別の課題を細かく設定し、関わりの中でラップをかける意味、どのようにラップをかけるのが良いか活動の意味理解等を確認しあう中で技術の習得・向上を目指せるよう場面を設定できれば、より効果的に活動が展開できると考えられる。

「自身の食生活についてより主体的に取り組む姿を育成する。」については、調理活動を通して経験を深める中でこうした姿を育成することにつながっていくと思われるが、それをどのように評価するのかについては課題が残る。今後、評価の在り方だけでなく、目標をどのように設定していくのか、評価と関連付くことができるような目標設定の在り方についても検討が必要である。

エ 取組のまとめ

(ア) 実践を通して

今年度、高等部1年生では「社会的自立に向けた『主体的・対話的で深い学び』の視点を生かした授業づくり」をテーマに、生活単元学習の中で調理活動に取り組んできた。

ほとんど調理経験がない生徒が多い中で電子レンジの操作、冷凍食品の調理、電子レンジを使った簡単な調理、弁当作り等について理解を深め、自身で主体的に取り組むための技術を習得し、自分自身と「食」を結びつけるための力を養うことが一定できたのではないかと考えられる。

こうした背景には、「やってみればできるかも」と思えるような要素を設定し、生徒が傍観者ではなく多くの活動に主体的に取り組むことができたことが大きく関係していると考えられる。

特別な調理技術を必要としない電子レンジを取り上げたことに加え、実際に操作する前に生徒各自がパッケージを読む学習に取り組む時間の設定、自分でメニューを選ぶ楽しみ、友達の取り組む様子を参考にできるようなグループ設定も有効であったと思われる。

また、1度の経験で終わることなく単調に見える同じ活動に繰り返し取り組めるよう設定する中で、見通しだけでなく、技術の習得も図られ、生徒が自信をもって取り組むことにつながったと思われる。

こうした学習活動を展開する中で、学習グループごとに「どのような目標のために、どのような生徒同士の関わりを引き出すのか。そのために必要な場面設定や支援は何か」を丁寧に見直していけば、より効果的な学習活動が期待されることも整理された。

活動の中で、具体的な技術の評価場面等も設けることにより、授業の中で設定した場面やそれぞれの支援の有効性も見直しつつ、授業を展開していくことが必要であると思われる。

卒業後の社会的自立に向け、まずは生徒が取り組もうと思う場面設定、その中で学びを深めるような配慮を今後も引き続き検討し、より充実した学校生活を送れるよう取り組んでいきたい。

(イ) 学習過程分析表改善に向けて

分析表にある「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の各要素について校内研修の内容も参考にしながら、それぞれの内容について実際の学習活動と関連させながら考えるきっかけになったと思われる。

今後は各項目の内容について、教師間での捉え方等について共通理解を深めるとともに、具体的な活用方法についても理解を深めながら、授業改善に向けたツールとして活用していく必要があると思われる。

(2) 高等部 2 年生における取組

ア 取組にあたり

(ア) はじめに

昨年度は「一人一人の実態に応じた進路アプローチの仕方」をテーマとして、アクティブラーニングを取り入れた人間関係のもち方仲間づくりを視点に、より効果的なアプローチの仕方を研究してきた。今年度は昨年度に引き続き進路を意識し、社会生活に必要な互いに認め合う力を高める取組を、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れて行うこととし、「卒業後の自立に向けたコミュニケーション能力の構築」をテーマに研究を行ってきた。

1 年次が終了し学校にも慣れ落ち着いてきた生徒たちも、環境が変化したことで不安定な日々を送る生徒や不登校になった生徒もでてきた。また、日頃の慣れ合いから教師に対して敬語が使えなくなったり、友達同士で悪ふざけや暴言・暴力行為につながる行動が目立つようになってきた。その一方で、現場実習に向けては意欲をもって取り組んでいこうとする姿が見られ、高等部の一大イベントである修学旅行では計画を立て集団としてまとまりながら楽しく有意義な旅行を成功させることができた。

今年度は生活単元学習の中で進路につながる視点から、挨拶や返事・言葉遣い・意欲がもてる取り組み方を重点に実践した。話し合いや協力して取り組んでいく活動を行う中で、相手の気持ちを考えたり、活動の中で失敗した時にどのような声掛けをしたらよいかを考えたりすることで社会生活に必要な人間関係形成能力を高めていきたいと考えている。実践事例Ⅰでは7月9日に2年B組で行われた校外学習の事前学習「校外学習へ行こう」を、実践事例Ⅱでは12月3日に一般企業への就労や就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所への進路を希望している生徒を対象に行った、畑の単元での「収穫するよろこびを味わう」でそれぞれ授業を行った。

(イ) 単元計画

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		実践事例Ⅰ ←→				実践事例Ⅱ ←→				

【実践事例Ⅰ】単元名：校外学習へ行こう（全7時間）

- ・行き先を決める 1時間
- ・行き先、買い物調べ・発表 3時間
- ・模擬買い物学習 1時間（本時）
- ・当日の予定の確認 1時間
- ・校外学習を終えて 1時間

【実践事例Ⅱ】単元名：収穫する喜びを味わう（全14時間）

- ・畑づくり 2時間
- ・一般管理（生育の観察・灌水・病虫害駆除・追肥・環境が効率よく生かす工夫・除草・育苗。） 10時間
- ・収穫 2時間（本時1／2）

イ 実践事例Ⅰ

(ア) 単元名 「校外学習へ行こう」

(イ) 単元設定の理由

a 生徒観

高等部2年生は男子18名、女子5名の23名である。学年全体としては、修学旅行を経て仲間づくりや人間関係が確立してきつつある。1名の不登校の生徒が含まれるが明るく活発で個人差はあるものの積極的な生徒が多く、進路実現に向けてそれぞれが切磋琢磨しているところである。

本単元の対象クラスは、男子5名女子2名の合計7名が在籍している。うち自閉症スペクトラムを併せ有する生徒が2名やADHDや身体表現性障害等の、情緒面での特性を併せ有する生徒も数名含まれる。全員が身辺自立をしており、3名が声掛けのみの支援でほぼ過ごせる。あとの4名はカレンダーワークや活動の事前に丁寧な確認をすることで活動に見通しがもてたり、時々の確認や教師と一緒に活動したりすることで落ち着いて参加できる。障害特性から時間を守ることが難しい生徒や、リーダーとなってほしい生徒が自信の無さから主体的に取り組む意識が薄かったり、クラスでの決めごとを人任せにしたり逆に自分の意見を通そうとしたり、他人への興味が薄く話し合いに参加しない、友達の声に反応して言葉遣いがきつくなったりと、7名という集団の中での関わりとなるとそれぞれに課題が見られる。また、修学旅行に向けての取組として、数学でお金の学習をしており、教師と一緒に活動をする生徒たちは、紙幣の扱いに不慣れなため模擬買い物学習を繰り返して、様々な金種に慣れているところである。

b 単元観

本単元は、7月18日の校外学習の事前・事後学習として設定する。校外学習はこれまでの経験から、どの生徒もととても楽しみにしている行事である。また、高等部2年生では10月に修学旅行を予定しており、校外学習での社会的ルールやお金の使い方の向上、公共交通機関を利用する練習も兼ねている。校外学習は、過去の経験から生徒にとっては興味・関心がとても高く、意欲的に取り組むことのできる活動である。そのため事前・事後学習も、当日への期待感をもちながら、積極的に参加できると考える。また、日頃より数学の時間には、お金の使い方の学習として、買い物カードを使って買い物の場面を設定し、小遣い帳を付ける練習を継続して行っており、この単元でもワークシートとして取り入れていく。事前の調べ学習では、ICT機器で検索しながら必要な情報を取り入れる知識や技能を養い、集団の中の自分の役割を見つけたり、自分の考えや調べた内容を発表したりして友達と意見を共有することで、コミュニケーション力や思考力・表現力を養っていけると考える。

c 指導観

学習活動を通して、人にはいろいろな考え方や感じ方があるのだという気付きから、他人との適切なコミュニケーションを知り、限られた時間内での買い物や、決められた時間でのJRの利用を通して時間を守る大切さを実感して欲しい。そして校外学習に行くのは自分自身だという自覚が芽生えると、活動に参加する主体的な気持ちが高まり、友達や教師とのコミュニケーションや様々な選択の場面で対話的な学びも深められると考える。

本時の活動では、前時の調べ学習で欲しい物をリストアップし買い物カードを作っていたので、それを活用した模擬買い物学習を行う。買いたいカードを選択しながら金額を電卓等で計算し、ワークシートに記入していく。模擬紙幣を使って、適切な金種選びも取り入れる。お小遣いの金額を設定しているので、ワークシートを見てそこからお金が減っていく様子分かるようにするため、教師の支援が必要な生徒は残金が分かりやすく、欲しい物と買える物とを教師と一緒に考えながら選択したり計算したりできる。少しの声掛けで取り組める生徒は、欲しい物を自分で選択し組み合わせながら、与えられた金額でやり取りをする。どの生徒も欲しい物を選択したり残金を計算したりすることで主

体的な力を必要とし、教師や友達とのやり取りを通して対話的な学びとなり、活動全体を通してはお金の使い方の練習となる。

(ウ) 本時における目標

- ・設定された金額内で計算しながら買い物ができる
- ・適切な金種を選び支払うことができる
- ・欲しい買い物カードを選択することができる

(エ) 学習活動の展開及び分析表

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全 体	各生徒
導入 8分	<p>1 はじめのあいさつをする</p> <p>2 本時の内容の説明</p> <p>① 校外学習はいつどこへ行くのか。</p> <p>② 今日の学習のねらいを聞く。</p> <p>・設定金額内で買い物をしよう</p> <p>・お釣りが少なくなるよう支払おう</p> <p>・欲しい買い物カードを選択しよう</p> <p>③ ワークシートの活用を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が号令をかける。 ・モニターを注意するよう声を掛ける。 ・全てモニターに映しながら説明する。 ・模擬買い物学習をすること、やり方を伝える。 ・ワークシートの活用法を説明する。 ・ワークシートの引き算マークに気を付けて、残金から<u>引く</u>ことを伝える。 	<p>DFG: 必要ならば、モニターを注視するよう個別に声を掛ける。</p> <p>ABDFG: ワークシートの引き算マークに注意する。</p>
展開 29分	<p>3 買い物をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードの中から欲しいものを選び、買い物をする。 ・模擬硬貨や紙幣を使って、支払いをする。 ・買った物をワークシートに記入し、残金の計算をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電卓を使って計算するよう声を掛ける。無い生徒には貸し出す。 ・終了時間を伝える。 ・それぞれに必要な手立てを、個別に行っていく。 ・模擬硬貨や紙幣を配る。 ・全員が早く終われば、発表に移る。 	<p>AFG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残金以内のカードを選択するよう、活動の様子を見ながら声掛けする。 ・必要な時は、教師が一緒に活動する。 <p>BCD</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁度かお釣りが少ないようにお金を出すよう、声掛けで促す。 ・計算間違いがないか、時々確認する。 <p>E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で考えてカードを選び買い物できるよう、遠目で見守る。 ・終われば他を手伝うよう、声掛けをする。

まとめ 8分	<p>4 発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、ねらいを達成できたか発表する。 <p>5 ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の感想を発表する。 <p>6 終わりのあいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挙手をして発表する。 3つのねらいを再提示する。 校外学習に向けて仲間意識を高められるような、全員の学習の様子を簡単に話す。 日直が号令をかける。 	<p>ABCDEFGG</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の発表を聞き、自分とは違う意見を知る。
-----------	--	--	---

表1 本時における学習過程分析表

単元(題材)名	校外学習へ行こう(5/7時間)	
本時の目標	・設定された金額内で計算しながら買い物ができる。(思・判・表) 適切な金種を選び支払うことができる。(知・技) 欲しい買い物カードを選択することができる。(学・人)	
学 習 活 動		
導入	<p>1 はじめのあいさつをする。</p> <p>2 本時の内容を知る。</p> <p>①校外学習はどこへ行くのか。</p> <p>②今日の学習のねらいを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定金額内で買い物をしよう。 お釣りが少なくなるよう支払おう。 欲しい買い物カードを選択しよう。 <p>③ワークシートの活用を聞く。</p>	<p>■主体的な学び：学習活動への参加「できそう」と思える</p> <p>①環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) 見通し <p>②手順理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい指示(音声言語-視覚情報-見本-一緒に) 手順表 <p>③活動中への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習活動への展開構成 学習活動参加への手がかり ほめ方 修正の方法 障害特性への支援
展開	<p>3 買い物をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> カードの中から欲しいものを選び、買い物をする。 模擬硬貨や紙幣を使って、支払いをする。 買った物をワークシートに記入し、残金の計算をする。 	<p>■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ</p> <p>①他者からの情報を得て活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> 周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む 他者の見本を見て真似て学ぶ 他者の活動を見て活動する 他者の良さに気づいて自分の活動に活かす 他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ 他者からの問いかけを受けて思考し活動する 他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ 他者の成功・失敗を見て学ぶ <p>②役割の中で活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う それぞれの役割を行う 役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) <p>③仲間と問題(課題)を捉え解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を受けて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと
まとめ	<p>4 発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを参考にして、目標を達成できたか発表する 本時の感想を発表する。 <p>5 終わりのあいさつをする。</p>	<p>■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習活動を通して知識・技能を活動で生かす

(オ) 成果と課題

本時は、校外学習の1週間前の7月9日に実施した。校外学習に向けての事前学習という点と、自分たちが事前で買いたい物リストを作り、それを元に具体的な商品と金額で買い物カードを作成したことで、生徒の授業に対する興味・関心は非常に高い内容となった。導入のワークシートの活用法を説明する際には、板書と口頭の説明だけでは生徒の集中が続かないのではと考え、小型のモニターにPCをつないで説明したところ、どの生徒も最後までよく注視しながら説明が聞けていた。活動への取りかかりとしては、有効な手立てとなった。買い物の金額を2,500円と事前に設定し、ワークシートの最初の所持金の欄に2,500円とあらかじめ書いたものを用意した。買った物と金額を書き込み引き算をして、残金がすぐ分かるように工夫をしたため、間違えずに活用できる生徒がほとんどだった。授業の展開としては、買い物中の会話は店員役の教師とのやり取りだけにはなかったが、自分でカードを選びそれを店員(教師)とやり取りして、電卓等で計算した金額を模擬貨幣で支払うという流れと

なった。周りの様子やワークシートを見てほぼ一人で活動できる生徒が4名、買い物カードの確認と支払う金種の確認を教師に聞きながら進める生徒が3名となった。カード選びやワークシートへの記入の時間には、真剣なまなざしで取り組む生徒が多かった。また、店員（教師）とのやり取りの中では、慣れた相手なのでついふさわしくない言葉遣いをしてしまう生徒もいたため、生徒が実際の場面を意識できるような緊張感をもった授業づくりを考える必要があると感じた。しかし、コミュニケーション力の育成の面からは、このような課題もあったがこれらも含めて実際の生活の中で必要となる言葉遣いや態度を知る成果が得られた部分もあった。

本時の目標に対しては、ワークシートの活用により一人で設定された金額内での買い物ができる生徒がほとんどだった。中には教師に自分からワークシートの記入法や、金額・金種の確認等の手助けをお願いしてくる生徒もいたが、どれも自発的に行っていた。金種の選別はお金の扱いに慣れていないと難しいところがあるため、教師が確認をして回ったりヒントを出したりした。どの生徒も欲しい買い物カードを選択することは手早く一人でできていたが、手元のカードが気になって、活動中にそこに気を取られる生徒も見られ、机上を整理する声掛けやカードを片付ける工夫がもう少しあれば良かったと感じた。

ウ 実践事例Ⅱ

(ア) 単元名 「収穫するよろこびを味わう」

(イ) 単元設定の理由

a 生徒観

本単元の生徒は高等部2年生11名で構成されており、知的障害に加えADHDや自閉症スペクトラムを併せ有する複数の生徒や、身体表現性障害を併せ有する生徒が在籍している。生徒の能力については指示の理解力の高い生徒もおり、基本的な生活習慣についてはほぼ確立している。また、読み書きや文章の構成、簡単な計算についてはできる生徒もいる。

日常では、友達や教師とのコミュニケーションが口頭でとれ、相手の気持ちを考えて行動できる場面も見られる。中には、進路先として一般就労を目指す生徒も数名おり、将来の目標を明確にもって行動できている。

今回の授業では、3名を対象に授業を進めていく。3名の中には作業学習で農産園芸を経験している生徒もおり、農業に関する知識や技能を学んでいるが、活動に対して指示待ちをする場面が多く、個に応じて支援を行う必要があり、理解度を確認しながら伝え方、意欲の引き出し方を組み立てながら授業を行っていく。

b 単元観

本単元では、「基礎的な知識や技術を学び、意欲的に作業ができる。」という単元目標と、これまで学習の中で、生徒が達成感や自己有用感をもつことができてきた体験的な活動に視点を置き、自ら栽培した農作物を収穫する知識や技術を就労に結びつかせ、実践的な活動の中から適切な言葉遣いの習得と自信をもって自己を認める自己肯定感の向上をねらいとしている。

本時の授業では、収穫を通じて仲間との信頼感を養い、意欲、興味をもって進んで授業に参加できるように進めていき、活動の中で農作物管理に対する愛情や責任感を養い知識や技術も同時に習得していく。

c 指導観

学習活動の中で意欲的に作業ができるように、生徒の作業や行動の結果に対して、具体的な言葉で肯定的評価を行う。また、卒業後の進路先へのイメージをもたせるために、社会生活に必要な見た目

や身だしなみなどを取り上げるなどして就労に結びつけやすい環境を設定する。

(ウ) 本時における目標

- ・収穫活動を進んで主体的に学ぶ中で、就労への意欲や姿勢へとつながるように意識できる。
- ・声掛けした時の返事や挨拶、完了の報告、依頼等を理解し実践できる。
- ・機械、道具を使用する場合や自然環境において、安全・衛生に気を付けて活動できる。
- ・苦勞して収穫した農作物への喜びを味わい、手を抜かず一所懸命取り組むことの必要性を理解する。

(エ) 学習活動の展開及び分析表

過程	学習活動	指導上の留意点等	
		全 体	各生徒
導入 5分	1 挨拶をする。 2 本時の説明を聞く。 3 収穫の留意点を聞く。	○挨拶をする姿勢、態度になっているか全体に言葉を掛ける。(日直の号令) ○生徒の見本となるよう、元気に挨拶する。 ○本時の活動内容を黒板に示す。	○大きな声で挨拶をする。 ○集中し説明を聞く。
展開 35分	4 作物について。 5 収穫について説明を聞く。 6 収穫手順について説明を聞く。	○作物の写真を見せ視覚で理解しやすいように示す。 ○収穫についての説明をする。 ○収穫について手順を説明する。(理解度を確認しながら質問を行う) ○個別の目標を視覚的に理解しやすいように示す。 ○必要に応じて生徒に言葉を掛け、理解しているか確認する。(意見が出ない場合はヒントを出し意欲的発表につなげる) ○生徒だけで作業準備できるよう説明する。(自分たちで一からものづくりを行う楽しさを通じて自信につなげていく)	○スライドを見ながら作物についての説明を聞く。 ○スライドを見ながら収穫について理解する。 ○個人目標を確認し、意欲的に取り組んでいけるように意識する。 ○自分たちで準備できるように説明をしっかりと聞く。
まとめ 5分	7 本時の振り返りをする。 8 次回の説明を聞く。 9 挨拶をする。	○振り返りをさせるためにワークシートに記入させ、何人か発表させる。 ○状況に応じて言葉掛けを行う。 ○生徒の見本になるよう、元気に挨拶をする。	○振り返りを記入し発表する。 ○大きな声で挨拶をする。

表2 本時における学習過程分析表

単元(題材)名	生活単元学習(収穫する喜びを味わう)	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫活動を進んで主体的に学ぶ中で、就労への意欲や姿勢へとつながるように意識できる。 ・声掛けした時の返事や挨拶、完了の報告、依頼等を理解し実践できる。 ・機械、道具を使用する場合や自然環境において、安全・衛生に気を付けて活動できる。 	
学 習 活 動		
導入	1 係が初めの挨拶をする。 2 本時の説明。 3 収穫の留意点を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ■主体的な学び：学習活動への参加「できそう」と思える ①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) ・見通し ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示(音声言語-視覚情報-見本-一緒に) ・手順表
展開	4 作物について。 5 収穫について説明。 ・作物の写真を見せ視覚で理解しやすいように示す。 ・収穫についての説明をする。 6 収穫手順について説明。 ・収穫について手順を説明する。 (理解度を確認しながら質問を行う) ・個別の目標を視覚的に理解しやすいように示す。 ・必要に応じて生徒に言葉を掛け、理解しているか確認する。 (意見が出ない場合はヒントを出し意欲的発表につなげる) ・生徒だけで作業準備できるよう説明する。 (自分たちで一からものづくりを行う楽しさを通じて自信につなげていく)	<ul style="list-style-type: none"> ③活動中への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援 ■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) ③仲間と問題(課題)を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと ■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」 ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす
まとめ	7 本時の振り返り。 8 次回の説明。 9 挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ①他者の成功・失敗を見て学ぶ ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) ③仲間と問題(課題)を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと ■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」 ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす

(オ) 成果と課題

今回は、スライドを活用しながら農業についての基本的な知識を学びその中で、社会に出た際に必要となる挨拶や返事、身だしなみ、態度について学習した。当日は天候が悪く、実際畑での収穫はできなかったが、高等部の授業である農産園芸の作業では収穫作業を行った者もおりにスムーズに理解していくことができた。

授業の中で管理の行き届いた立派な野菜とそうでない野菜を比較させ、みなさんならどちらを購入したいですかと簡単な質問をし、次いで同じように人の装いからこの中で誰が農業が得意そうな人に見えますかと質問をした。勿論、答えはしっかりとした感じや清潔に見える方に答えが導かれるがそれを理解させた上で見た目や態度などがとても大切になってくるということを学習できた。このことが現場実習や卒業後社会に出た時に求められる挨拶や返事、身だしなみ、態度と同様重要なことであると確認することができた。

次に農業の専門知識を交えた授業を行う中で、生徒たちは今まで知らなかったことを学んでいくことに興味や関心が非常に高いと気付かされた。今回は、野菜の写真を見せ名前を言い当てたり、冬物野菜の特徴や構造、生育適温などを伝えていったが、知らないことを学んでいくことは生徒たちのやる気を引き出せる要素である。難しい問題が答えられた時の誇らしげな顔は、やる気と自信に満ちあふれとても良い表情である。実際現場に出て作業を行いながらの学習であれば更に効果が高いと考えるが、このことが意欲的な授業につながっていく。

エ 取組のまとめ

(ア) 実践を通して

今年度、高等部2年生では昨年度に引き続き進路を意識し、社会生活で必要な互いに認め合う力を

高める取組を、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れて行った。その中で「卒業後の自立に向けたコミュニケーション力の構築」をテーマに生活単元学習に取り組んできた。今回はその中の校外学習の事前学習と畑づくりを取り上げた。

校外学習はこれまでの経験から、どの生徒もとても楽しみにしている行事であるという点と、自分達が事前に作った買いたい物リストを元に具体的な商品と金額で買い物カードを作成したことで、生徒の授業に対する興味・関心は非常に高い内容となった。スライドとワークシートを使用したことで支払う金額と金種について理解を深め、自分自身で買い物をするための力を養うことがあった一定ではなかったのではないかと考えられる。こうした背景には、生徒が傍観者となることなく、実際に買い物できる場面を設定し、生徒が模擬買い物活動に主体的に取り組むことができたことが大きく関係していると考えられる。

畑づくりでは、当日は悪天候により収穫することはできなかったため、スライドを活用しながら二択のクイズ形式で授業を行った。新鮮な野菜と腐った野菜のスライドから購入したい方を選んだり、人の装いに関するスライドから相応しい方を選ぶ中で全員が正しい答えを選択することができた。スライドを活用し二択を示したことが正しい選択につながったと考えられる。また、生徒が実際に答えを選ぶことができる場面を設定し、二択のクイズに主体的に取り組むことができたため、社会生活に必要な見た目や身だしなみなどの重要性を確認することができたと考えられる。

卒業後の社会的自立に向け、まずは生徒が取り組みたいと思う場面を設定し、その中で学びを深めるような配慮を今後も引き続き検討し、より充実した学校生活を送れるよう取り組んでいきたい。

(イ) 学習過程分析表改善に向けて

作成者側からは分析しやすかったなどの意見が出た。見る側からは表が入り組んでおり項目が見にくかったなどの意見が出た。「主体的・対話的で深い学び」の項目の中から本時に関係のある項目のみ明記するなどすると見やすくなるのではないだろうか。

(3) 3年生における取組

ア 取組にあたり

(ア) はじめに

高等部3年生は、15名（男子13名、女子2名）である。身辺的な自立度の高い生徒は多いが、ADHDや他者に依存しがちな生徒、自閉症スペクトラム、反抗性挑戦性障害など、一人一人の実態が大きく違うのも特徴である。また、2年生後半から不登校となり、3年生になってからは一度も登校できていない生徒も在籍している。

全ての生徒が口頭でコミュニケーションがとれ、指示を聞いて行動に移すことができるが、生徒によっては情緒の安定が難しく、学年での取り組みに参加することが難しいこともある。また、自分の意見や考えを発言することが苦手な生徒や、他人との距離について理解できているが行動に移すことができず、適切な距離感で友達と関わることが難しいためにトラブルになってしまう生徒もいる。

今年度は「卒業後の社会参加を目指す」をテーマに、卒業後社会に参加し、学生時に得た経験を生かしつつ、地域とつながりをもつ中でいろいろな経験を体験するとともに、見知らぬ人と関わることでコミュニケーションスキルを身に付けていきたいと考えた。

(イ) 単元計画

今回、日高村で開催されている「日高メシふえすていばる」など地域との関わりをもつ場があることに注目し、それに参加するために何ができるのかを話し合い、それに向けた出店を生活単元学習で取り組んだ。1学期と2学期に20時間前後の単元を設定し実践に取り組む。単元の実施時期及び詳細は下の通りである。

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	実践事例Ⅰ ↔			実践事例Ⅱ ↔						

【単元名】日高メシふえすていばるに出店しよう（全20時間）

- ・第1次 地域参加に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間（実践事例Ⅰ）
- ・第2次 商品づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・15時間
- ・第3次 日高メシふえすていばるに向けて・・・・・・・・・・2時間（実践事例Ⅱ）
- ・第4次 単元の振り返り・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

イ 実践事例Ⅰ

(ア) 単元名 「日高メシふえすていばるに出店しよう～地域参加に向けて～」

(イ) 単元設定の理由

対象学年は高等部3年ということもあり、卒業後の社会参加を目指して、余暇活動や自立のために地域とつながりをもつことが求められる。そこで、地域学習や行事に参加することにより、卒業後の社会参加への意識を向上させるとともに、3年生の課題である、見知らぬ人とのコミュニケーションを図ることも経験を重ねることでスキルが向上するのではないかと考え単元を計画した。

本時は単元の最初の授業で導入部分を行う。生徒たちの校区がそれぞれ異なっているため、地域参加への興味・関心を深めるために、生徒たちの共通点である学校がある校区の日高村を取り上げて授業を行うことにした。

(ウ) 本時における目標

- ・イベントカレンダーから情報を読み取ることができる。（「知識・技能」）
- ・地域行事にはどんなものがあるか考えることができる。（「思考力・判断力・表現力」）

(エ) 学習活動の展開及び分析表

	学 習 活 動	支 援 の 手 立 て	
		全 体	各 生 徒
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめのあいさつをする ・本時の目当て「地域参加について知る」を発表する。 ・地域参加、地域社会について知る。 ・地域行事の種類を知る。 ・地域参加について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・席につき静かにするように伝える。 ・パワーポイントを使って本時の目当てを発表する。・地域社会について。 <p>質問：地域社会とは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域には自分の住んでいる地域にはどんな行事がある？ ・地域行事は8つの分類があることを説明する。 (博覧会、フェスティバル、見本市、展示会、会議イベント、文化イベント、スポーツイベント、販促イベント) ・自分の住んでいるお祭りを生徒に質問する。 <p>質問：地域参加とはどういうこと。 ※地域の活動に参加すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・係に号令を促す。 ・積極的に意見が出ない場合はヒントを出していく。 ヒント：地域は自分たちが住んでいる場所や市町村などで分かれている。 答え：地域の人によって作られている社会 ・生徒の住んでいる地域事について質問を行う。 (高知市、土佐氏、須崎市、佐川町、) ・8つの分類をパワーポイントで見る。 ・パワーポイントを使ってそれぞれの地域のお祭りを見る。 (高知市、土佐氏、須崎市、佐川町、) <p>答え：地域の活動に参加をすること。</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・日高村イベントカレンダーを見て6月にあるイベントをみて地域のイベントを調べる。 ・イベントカレンダーから必要な情報を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントカレンダーを配布する。 <p>質問：地域行事に参加するために必要な情報は何か。 答え：日時、場所、天候状況</p> <p>質問：目高大池あじさいまつりについて、日時、場所、天候による状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントカレンダーから必要な情報を読み取る。 (生徒の様子を見て教師が支援を行う。)

日高村のイベントカレンダー（図1）を使って地域行事についての学習では、日高村イベントカレンダー自体は校内に掲示されており何人かの生徒は見かけたことがあると返答が返ってきたが、じっくり見たことがない様子であり、この授業で初めて目を通した生徒もいた。個人で5分間イベントカレンダーに目を通し、それぞれ気付いたことを全体発表で共有したが、時間も足りない生徒もいた。イベントカレンダー内には書いてある

図1 日高村イベントカレンダー

行事に興味を示したり、カレンダー内には書いてあるイラストを見て行事内容とイラストの関係性について疑問に思ったりと、それぞれ興味をもって学習に取り組むことができていた。

(オ) 成果と課題

授業を進めていくなかで、地域行事について関心をもってイベントカレンダー内には書いてある行事を見たり、カレンダーのイラストを見たりすることができた。しかし、教師の説明が長くなったために、発表時間が十分に確保することができず、生徒の活動場面が少なくなったので主体的・対話的な学習過程を設定することが課題となった。

事後協議の中で出たこうした反省を受け、次の授業では主体的・対話的に学ぶために、授業構成を再度見直し、「①カレンダーから読み取る時間を十分確保する。」「②生徒同士が意見交換する活動を取り入れる。」「③板書等による全体発表を行う。」の三点を学習活動に取り入れた。

授業では、カレンダーから読み取る時間を長めに取ったことで、生徒もじっくりと読み込み、いろいろな発見を行い意見交換の際に役立てることができた。また、各グループの意見を板書したことで共通の意見や自分たちとは異なる意見を目にしたことで、新たな意見に気づき、学習を深めることができた（図2、3）。

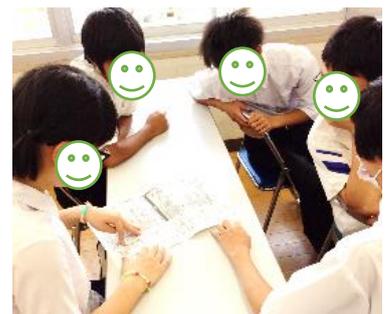


図2 イラストの意味をグループで考える

ウ 実践事例Ⅱ

(ア) 単元名「日高メシふえすていばるに出店しよう～日高メシふえすていばるに向けて～」

(イ) 単元設定の理由

本単元は校区の地域行事への参加過程で制作活動や販売活動等を通して、卒業後に地域社会に参加する社会性を身に付けることを目標としている。

地域の行事に出店することにより、学校や家族以外の普段あまり関わることのない人との接し方をそれぞれ考えることにより、卒業後に社会の一員として生活するために必要とされる力を明らかにすることで、将来の自立に役立つのではないかと考えられる。

本時は11月11日に行われる「日高メシふえすていばる」に出店するにあたり、普段接することの



図3 各グループで話し合った結果を板書し発表

ない外部の人に対して接客を行うことになる。そこで、導入部でコミュニケーションの良い見本と悪い見本を提示し、初対面の人と接する際にはどのようなことに気を付けたらよいのかを自分たちで考え、2つのグループに分かれて自分たちで考えたコミュニケーションをとる時のポイントを話し合い、発表して全体で共有する。次に、出店側とお客に分かれて接客を行う。お客役側の生徒にはいろいろな設定でお客として登場してもらい、出店者側はいろいろな設定のお客役の生徒と接しても最初に話し合ったポイントが守れていたかを確認し、人と関わることで大切なことを考えて卒業後につなげていきたい。

(ウ) 本時における目標

- ・人と関わるときのポイントを知ることができる。
- ・自分たちで話し合ったポイントを意識して行動することができる。

(エ) 学習活動の展開及び分析表

	学習活動	支援の手立て	
		全体	各生徒
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめのあいさつをする ・本時の目当て「人と関わる時のポイントを知る」を発表する。 ・コミュニケーションの良い例と悪い例について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・静かになったら号令をかけるように促す。 ・本時の目標を発表する。 ・動画や画像を使って判断しやすいようにする。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で人と関わる時に気を付けることを考える。 ・グループごとにお客役と接客役に分かれて模擬体験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1分間考える時間を設定し、足らなければ時間を追加する。 ・まとめた結果を発表し全体で確認する。 ・グループでまとめた結果を意識して接客するように促す。意見が複数出た場合は1つに絞るように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている様子ならば教師がアドバイスを行う。 ・全体に見えるようにTVで表示する
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・意識するポイントを守れて接客できたかどうか確認をとる。 ・おわりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでまとめた結果を意識して行動できたか確認する。 ・静かにするように促し号令をかける。 	



図4 お客役と接客役に分かれた模擬体験の様子

本時は、導入部でコミュニケーションの良い見本と悪い見本を提示し、初対面の人と接する際にはどのようなことに気を付けたらよいのかを自分たちで考え、2つのグループに分かれて自分たちで考えたコミュニケーションをとる時のポイントを話し合い、発表して全体で共有する。次に、出店側とお客に分かれて接客を行う。お客役側の生徒にはいろいろな設定でお客として登場してもらい、出店者側はいろいろな設定のお客役の生徒と接しても最初に話し合ったポイントが守れていたかを確認し、人と関わることで大切なことを考えて卒業後につなげていきたい。

学習活動全体を通しての目標達成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の各要素については、表2の通りである。

表2 本時における学習過程分析表

単元(題材)名	日高メシふえすていばるに出席しよう (日高メシふえすていばるに向けて2/2)	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人と接する時のポイントを知ることが出来る。(「知識・技能」) ・ポイントを意識して行動することができる。(「思考力・判断力・表現力」) 	
学 習 活 動		
導入	1、はじめのあいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> ■主体的な学び：学習活動への参加 「できそう」と思える ①環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境設定(座席配置、道具の位置、教員の位置等) ・見通し ②手順理解 <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指示(音声言語一視覚情報一見本一緒に) ・手順表 ③活動中への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への展開構成 ・学習活動参加への手がかり ・ほめ方 ・修正の方法 ・障害特性への支援 ■対話的な学び：活動を通して学ぶ かかわりを通して学ぶ ①他者からの情報を得て活動する <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の雰囲気を感じて自分のすべきことに取り組む ・他者の見本を見て真似て学ぶ ・他者の活動を見て活動する ・他者の良さに気づいて自分の活動に活かす ・他者からの意見や情報を受けて、仲間に意見や情報を伝えて活動し学ぶ ・他者からの問いかけを受けて思考し活動する ・他者からの評価を受けて、相手を評価して学ぶ ・他者の成功・失敗を見て学ぶ ②役割の中で活動する <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と同じ活動のなかで自分の役割を行う ・それぞれの役割を行う ・役割や手順を決めて活動し学ぶ(自分・相手の力が分かり、何をすべきかが分かる) ③仲間と問題(課題)を捉え解決する <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが分かり、ゴールに向けてプランニングし、仲間の状況を捉えて活動し、自身の行動を修正しながら目標を達成していくこと ■深い学び：学びの過程で「見方・考え方」を働かせ「そうなんだ!」 ・学習活動を通して知識・技能を活動で生かす
	2、本時の目当て「人と関わる時のポイントを知る」を発表する。	
展開	3、個人で人と関わる時に気をつける事を考える。	
	4、つのグループに分かれて考えた結果をまとめる。	
	5、まとめた結果を発表し全体で確認する。	
	6、コミュニケーションの良い例と悪い例について学習する。	
まとめ	8、ポイントを意識して接客できたかどうか振り返る。	
	9、おわりのあいさつをする。	

日高メシふえすていばる出店に向けて練習及びコミュニケーションについて学習を行った。お客役に複数の質問や、少し態度を悪くしてもらおうなどの設定をし、接客役の対応力を高めた。

グループでの話し合いでは今までの学習内容や実際に現場実習で体験したことを基に笑顔が大切だということや相手の目を見て話す等の共通項目が出るなどコミュニケーションについては一定の理解はできていた。しかし、授業の中で接客体験を行うと、普段は見慣れている人がいつもと様子が違っており緊張から笑ってしまうなど接客体験では緊張感に欠けてしまった。一方、授業の流れはスムーズで生徒も活動内容をしっかりと取り組むことができていた。

(オ) 成果と課題

成果としては、授業構成を工夫したことで生徒がスムーズに活動に取り組むことができた。また、話し合いの中には現場実習で体験したことや各グループが共通した笑顔や言葉遣いが大事だということなどの意見が出てきた。コミュニケーションをとるための基本的な部分は理解していることが分か

った。

しかし、模擬体験ではお客役に設定を付けたことで、普段と違う様子で関わることになり、慣れない環境に笑ってしまい緊張感に欠けてしまう生徒もいた。また、挙手で評価をしてしまい、後日振り返りがすぐにできなかつたので、振り返りで使えるように形に残す等の課題が残った。

エ 3年生における取組のまとめ

(ア) 実践を通して

卒業学年ということもあり、卒業後を強く意識したテーマであった。当初の授業では、行事に関心を示すものの、実際に行ってみたいと思う意識はあまり高くないように感じていた。特に、日頃からスポーツイベントなどに参加している生徒は当初から行事に対する期待感が高かったように思うが、日頃外に出て活動をしていない生徒は、できれば行事に参加することは避けたいという気持ちを感じていた。しかし、授業や取組を行うにしたがって、Aは家族と居住地の花火大会を見に行ったり、地域行事について口に出したりすることが徐々に出るようになった。

実践事例Ⅱでも述べたように、コミュニケーションにおいて必要な基本的知識は有することができている。笑顔や言葉遣いの重要性など、理解はできているが実践が苦手であるということが現状であると思う。「いらっしやいませ」「ありがとうございました」など、当たり前の言葉は発することができるが、想定外のやり取りという部分では、まだまだコミュニケーションスキルの習得には至っていない。コミュニケーションスキルについては、経験不足からくるものが大きいため、これから多くの人と関わる中で習得してほしいと思う。

日高メシふえすていばるは任意での参加としていたが、家庭の都合で欠席した生徒以外は、参加することができた。Aにおいても当日は店頭での接客はもちろんのこと、友達と一緒に自ら教師に声を掛けてステージでの催しものを見に行ったり、屋台を回ったりして楽しむことができていた。用意していた販売品も完売し、生徒全員が笑顔で終えることができた。

今回の地域行事は居住地ではなく、学校の所在地の行事であった。卒業後に居住する地域の行事についても関心をもち、余暇活動としてつながっていくことを願っている。

(イ) 分析表改善に向けて

分析表があることで、学習活動がどういうことにつながっているかということが明確であった。その反面、いろいろなことが関係し合っているため線が煩雑になってしまったという課題もあると思う。本時の目標に深く関わっている部分のみに線を引くなど、見やすくしていくことが課題ではないかと思う。



図5 日高メシふえすていばる当日の様子

4 おわりに

(1) 実践を通して

今年度高等部では、「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした社会的自立を目指す学習」をテーマに各学年で実践に取り組んだ。

昨年度の高等部授業研の中で外部講師より助言のあった「社会にどれだけ結びついた授業であるか」については、各学年とも生徒の実態から内容を検討してきたが、特に高等部3年生では「地域」をテーマに取り組み、校内での活動で完結することなく地域社会との関わりを体験することを通して学びを深めることができた内容だったと考えられる。

1年生の調理活動、2年生の校外学習、畑づくりの活動等も、卒業後を意識し設定されたものであった。授業へ参加したくなるような題材設定や活動しやすい場面設定を工夫することにより、生徒がより主体的に学習活動に参加できたと考えられる。

また、ワークシート等の教材活用や、生徒同士の関わり場面設定等を工夫することにより、生徒が受け身になることなく、時に友達の活動を助けとしながらも、自分の考えを整理し、主体的な活動へのつなげていく様子も見られた。

事後協議等も通して、こうした各授業の工夫が「主体的・対話的で深い学び」の各要素を含んだものであることも少しずつ整理されてきた。

一方で、調理技術や他者とのコミュニケーション力等、授業の中で生徒に獲得してほしい力、授業でのねらいが十分達成できていなかった点も明らかになってきた。

今後は、「主体的・対話的で深い学び」についての各要素についてより理解を深め、授業実践と関連づけていくだけでなく、授業で設定したねらいがどれだけ達成できたのか、そのために授業者の工夫がどれだけ効果的だったのかも、生徒の目標達成度も含めながら事後協議の中で検討していくことが必要であると思われる。

(2) 分析表改善に向けて

高等部では、「主体的・対話的で深い学び」の要素を整理するきっかけとなり、教師間の理解を深める点では効果的であったとの意見があった。

しかし、各項目が細かすぎることをはじめ、ひとつの学習活動にもいろいろな要素が含まれているため各項目と学習活動と関係づける時、目標に深くかかわっている部分を優先すべきではないか等、分析表そのものの内容理解に加え、活用の在り方についても課題が見られた。

「主体的・対話的で深い学び」について教師間の理解を深めつつ、どのように分析表を改善し活用していくのか、今後も継続して検討していく必要が考えられる。

VI 寄宿舎の研究

寄宿舎テーマ 「主体的・対話的で深い関わりの視点を生かした仲間づくり」

1 はじめに

昨年度までの5年間は、「認め合う気持ちを育む仲間づくり」をテーマにして各ホームで支援に取り組んできた。

子ども同士の関わり合いの中からは、やりとりの未熟さや不適切さによって様々なトラブルが発生するなど多くの課題が散見されていたが、どういうことが自分を大切にすることか、また、相手を思いやることであるかということを経験に、日々の関わりの中で丁寧にそして計画的に支援にあたってきた。

今年度は、昨年度より学校の研究テーマが「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした授業作り（取組）」としてスタートしており、校内研修会等でもテーマに沿った研修に取り組んでいることから、寄宿舎も同じ視点から子どもたちの行動を分析し、より効果的な支援につなげていきたいと考えた。

そこで、今年度は「主体的・対話的で深い関わりの視点を生かした仲間づくり」をテーマとして掲げ、昨年度までの取組に加えて、「集団としての動きの分かるような環境整備（適切な掲示や指示）」、「障害特性を考えた修正の方法（伝え方や次につながるほめ方）」を大切にしながら、「他者からの評価を受けて自分を客観視できる（修正し次に生かす）力をつけ」、さらには「役割」を通して仲間の行動を意識（共に目標を達成していく）する」ことのできる子どもたちを目指して生活指導と支援にあたってきた。

それぞれのホームが個性豊かな集団であるが故に日々試行錯誤の繰り返しであったが、下に述べる実践からは子どもたちの様々な気づきや成長の跡が見られたと考えている。

2 各ホームの取組

（1）すももホームの取組

ア 舎生の実態と研究課題

すももホームは、新しく3名の新入舎生が加わり、中学部6名、高等部6名、計12名でスタートした。

全体的に自己主張が強い子どもたちが多く、様々な思いや考えをもっており、それを集団生活の中でどう表現すればよいのか、またどう伝えればよいのかが分からない様子が昨年度から引き続いて見られた。自分の意見や思いは通したいが周りのことは考えられず、本人も周りにも不満がたまりトラブルになるといった毎日を繰り返していたように思う。乱暴な言葉遣いや身勝手な言動は、その都度振り返りの時間を設けたり正しい言葉の使い方を伝えたりするなど、個別に指導は行ってきた。しかし、同じホームで生活する中で大切になってくる仲間づくりの意識「仲間を認め合って成長しあう力」へのつながりが薄かったことから、実践テーマとなっている「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした仲間づくり」をどのようにすれば具体的に、子どもたちの指導・支援に反映していくことができるのかが課題となった。

子どもたちの実態を見ると、友達の意見や指導員とのやりとりから視野を広げ、自分の考えを深め

る力が十分でないため、「対話的な学び」に重きをおいた取組を行うことが必要だと考えた。自信につなげ、自分で考え行動できる「主体的な学び」へ、そこから「深い学び」へと広がっていくことを期待した。そのためにまず日常的な柱となる取組として、ホーム会ではできるだけ子どもたち同士が意見を出し合い、話し合えるよう時間を作り、みんなで協力して考えを生み出す経験ができる環境を作った。個別には、集団生活で自分の意見や思いを、周りや相手にどうすれば伝えられるかを子どもと一緒に考える時間を作るよう配慮した。

日々の寄宿舎生活の中では、仲間で助け合い、ともに学び、お互いを大切に思う気持ちを育んでもらいたいという考えのもと、「褒める」「励ます」機会を増やし、そこから指導員やホームの仲間たちから「認められる」「感謝される」体験を重ねていけるように取り組んだ。その中での実践を紹介する。

イ 実践事例

(ア) ラジオ体操マイスター

a 取組の内容

すももホームでは毎朝のラジオ体操が、何年も前からホーム独自の慣例となっている。しかし、内容がマンネリ化していることもあり子どもからは「すももホームだけ、どうしてラジオ体操するが?」といった声が聞かれるようになった。子どもたちから「やめたい」という声は出なかったため、ラジオ体操をすることで身体を動かし一日のリズムづくりになっていること、健康面でもよい側面があることを伝え、どうせするなら楽しみながらしようと「ラジオ体操マイスター」を目指した取組を1学期より始めた。「ラジオ体操マイスター」になるには①毎回ラジオ体操に参加した人(皆勤賞)、②ラジオ体操の順番を覚えて、ラジオ体操が正しくできている(曲げる、伸ばす、跳ぶなど)と認められた人(金賞)、③マイスターテストに合格した人とした。最初は乗り気でない子どももいたが、皆勤賞など表彰を受けたことが次の賞を目指す意欲につながり、ラジオ体操に子ども同士で声を掛け合って参加するようになった。1学期には全員がマイスターとなることはできなかったが、1学期最後のホーム会の中で表彰状を手渡した。それぞれがうれしそうに机に飾ったり、家庭へ持ち帰り自慢したりしている。

2学期からは、曜日ごとに担当を決め、マイスターとしてラジオ体操をみんなの前でお手本となって行うようにした。曜日ごとに担当が分かるよう視覚支援し、喜んでもらえるような個人用の花メダルにした。また、マイスターになっていない子どもにも意欲的に参加してもらうため自分で絵を描いて、オリジナルの体操カードを作成した。



図1 花メダルと担当表



図2 ラジオ体操の様子



図3 体操カード

b 成果と課題

曜日ごとに担当を決めたことにより、今までは「誰かがラジカセの準備をしてくれる」、「誰かが声を掛けみんなを集めてくれる」と人任せだったが、曲をかける手伝いをする、体操カードを出す、シールを貼る、などといった「役割」が自然と生まれ、自発的な助け合いの心が育ってきている。みんなが気持ちよく取り組める朝になってきた。

1学期にマイスターが取得できなかった子どもには、2学期に再テストの機会を設けた。花メダルを作成したことで、花メダルが欲しくて遅刻しなくなった子どももいた。合格した子どもには花メダルをホーム会で授与し、マイスターとして曜日担当に加わるようにした。「合格できなくても別に構わない」と言っていた子どもも、花メダルが気に入ったようで、「もらえるように頑張る」といった言葉があり、2学期終了時には、全員がマイスターを取得できた。

マイスターを取得している子どもたちが、「腕をもう少し伸ばして」「手が伸びていてきれい」などと声を掛け合う姿が見られるようになってきた。ラジオ体操マイスターをきっかけに「自分もやってみたい」「もっとみんなに褒めてもらいたい」という意欲が生まれ、「自分もできる」といった自信から相手を思いやり、仲間を意識できるようになってきている。今後はこの取組をきっかけに、子どもたちの意欲を持続させながら、寄宿舎生活につなげていくための支援と指導の工夫が必要である。

(イ) お上品クラブ

a 取組の内容

おやつを食べる時にあぐらをかいたり、肘をついて食べたりする子どもが多く、食事中にはそしゃくの音や汁物の音を立てて食べるなど、食事のマナーの悪さが目立った。相手に不快な思いをさせず楽しく食事をするのが大切だと考え、また食事のマナー以外にも、適切な言葉遣いなど普段の生活の中で身に付けてほしいマナーがたくさんあるため、すてきな大人を目指そうという目的で「お上品クラブ」を立ち上げることにした。言葉遣いや身だしなみといったすてきな大人になるために必要なこととして、「お上品クラブのお約束」として6つの約束事を決めることにした。

- ①美しい言葉を使いましょう ②身だしなみに気を付けましょう ③いつもハンカチを持ちましょう
- ④スリッパをそろえましょう ⑤食事のマナーを身に付けましょう ⑥姿勢よく座りましょう

食事のマナーの指導・支援は少人数の方が集中して取り組みやすいと考え、参加を希望した8名をチームA(ABCD)4名、チームB(EFGH)4名に分けて夕食時に週1回取り組むことにした。折り紙や、絵を描くことが好きな子どもが多いので、オリジナルのランチョンマットを作成し、箸置きも手作りした。それぞれが個性的な絵を描いており、みんなで「それ素敵！上手！」などと褒め合う姿が見られた。

表1 取組の日程と内容・様子

	日付	チーム	実施内容	取組の様子・変化
導入	9/18(火)	全員	お茶会 お茶会の雰囲気を楽しみ、抹茶の飲み方を学ぶ	お上品クラブの導入として、上品な雰囲気を体験する。抹茶を点てる指導員は和装する。見よう見まねでお点前を楽しんだ。子どもたちからは「緊張した」「またやりたい」などの声があった。 

図4 お茶会の様子

第1回	9/26(水)	A	食事のマナー 箸置きの使い方 お茶の入れ方	初回は、自分が作成したランチョンマットと箸置きを利用。姿勢を伸ばして食事することを意識づけた。お茶を入れる時にはやかんの蓋を押さえることを伝える。 
	9/27(木)	B		
第2回	10/2(火)	A	食事のマナー お茶碗の持ち方 お汁の飲み方 姿勢	茶碗の持ち方、お汁の飲み方に気をつけて食事をする。汁椀を持たずに食べるDに、お椀を持って食事することがマナーであると話をする。箸が動くのではなく、顔が動くAには、お皿を持って食べるよう話をする。姿勢はどの子どもも背中が曲がっていたり、反ったりしており、姿勢よく座ることが大事だと話をした。
	10/4(木)	B		
第3回	10/9(火)	B	食事のマナー お茶の飲み方 悪い箸の使い方例 (寄せ箸など)	お茶を片手飲みする子どもがほとんどであったため、両手でコップを持つと、美しく見えることを伝える。また、悪い箸の使い方を実践して見せ(寄せ箸、迷い箸、舐り箸など)、行儀が悪いのでやらないように話をした。
	10/11(木)	A		
第4回	10/15(月)	B	食事のマナー 箸袋に入った箸のしまい方	食べた後の箸袋への箸のしまい方を練習する。
	10/18(木)	A		
第5回	10/24(水)	B	食事のマナー 割り箸の割り方 割り箸のしまい方	舎外学習に向けて、割り箸の使い方を練習する。割り箸の割り方、しまい方を練習した。
	10/26(金)	A		
第6回	10/30(火)	全員	舎外学習 これまで学んだことを生かしてお上品に食事を楽しむ	子どもたちそれぞれが食事マナーに気を付けてレストラン高知での食事を楽しんだ。 
第7回	11/12(月)	B	食事のマナー お箸の取り方 姿勢 お茶の入れ方 お茶の飲み方	11/12より振り返りの会を始める。職員が準備した記録用紙を自分たちも記入したいと要望あり、急きょDが記入することになった。振り返りでは、「お箸の持ち方が良くなかった」と言われたDが、ふてくされながらも友達の良いところ「お茶の入れ方がとてもお上品だった」などと友達の良いところに目を向ける言葉があった。
	11/14(水)	A		

図5 ランチョンマット

図6 舎外学習での様子

第8回	11/20(火)	B	食事のマナー お箸の取り方 姿勢 お茶の入れ方 お茶の飲み方	振り返りでは、自己評価が高く、友達に厳しい評価が目立った。友達のよいところにも目を向けていこうと話をする。 Aが自分なりに気を付けていた「そしゃく音が聞こえていた」という指摘に不満ながらも、次の目標を「そしゃく音を立てない」と前向きに捉えて設定した。
	11/21(水)	A		
第9回	11/20(火)	全員	お茶会 抹茶の飲み方 お菓子の取り方 茶碗の返し方	今回も抹茶を点てる指導員は和装する。2回目のお茶会ということで抹茶のたしなみ方だけでなく、お菓子の取り方、茶碗の返し方を練習する。子どもたちからは好評で「もっといろいろなことを経験したい」という声があった。
第10回	12/4(火)	A	食事のマナー お箸の取り方 姿勢 お茶の入れ方 お茶の飲み方	次の食事マナーでの目標をA「背筋を伸ばす」B「お汁の飲み方に気を付ける」C「お茶の飲み方に気を付ける」D「姿勢に気を付ける」とした。前回Aがたてた「そしゃく音を立てない」は本人なりに気を付けることができていたため、別の目標を設定することとなった。
	12/5(水)	B		次の食事マナーでの目標をE「時間を見て食べるようにする」F「お箸の取り方に気を付ける」G「左手の置き方に気を付ける」H「そしゃく音に気を付ける」とした。 
第11回	12/11(火)	B	食事のマナー お箸の取り方 姿勢 お茶の入れ方 お茶の飲み方	友達のよいところを、一つだけでなく二つ、三つとあげた子どもがでてきた。それに対してうれしそうに「ありがとう」とお礼を言う姿も見られるようになり、子どもたち同士が褒め合い、認め合う姿が見られてきている。
	12/13(木)	A		
第12回	12/19(水)	A	2学期の振り返り	チームAの2学期のお上品クラブの振り返りをする。お上品クラブの約束が守れたか?の問いに、それぞれが、「△だった、×だった」などといった自己分析ができていた。食事マナーに関しては、「お箸の取り方がマスターできた」「お茶をきれいにいれられるようになった」と自信がついてきている。
	12/20(木)	B		チームBの2学期のお上品クラブの振り返りをする。お上品クラブの約束が守れたか?の問いに対して、Fから「友達に対して、キツイ言葉を使ってしまうことがあったから×」という自己評価があった。「今まで気づかなかったことに気づけてよかった」「いろいろな経験ができてよかった」「3学期も続けたい」という意欲や気持ちの変化が出てきている。

図7 第10回の様子

b 成果と課題

2学期後半は取組をした当日にチームごとに振り返りの会を行うことにし、子どもの成長したこと、気を付けることなど、気付いた部分を分かりやすく伝えるようにした。子どもたちが記入できる振り返りシートを指導員が準備し、自己評価と友達への評価、反省をふまえての次の目標などの記入欄

きる「深い学び」へとつながり、自分で考え行動できる「主体的学び」へと広がっていくような支援を今後も続けていきたい。

認め・認められる中で芽生えた、「やってみたい」という気持ちの育ちとその変化の意味を大切に、また、できたことの喜びや、新しいことを知った時の喜びを大切にしながら、いろいろな経験を生きる力にしていてもらいたい。目の前にいる子どもたちの成長を期待し、笑顔につながる自信や自己肯定感へのアプローチを大切にしながら、子どもたちの将来を見据えた、継続的な支援をこれからもしていきたい。

(2) はとホームの取組

ア 舎生の実態と研究課題

今年度のはとホームは新入舎生に中学部生1名、高等部生3名を迎え、小学部生1名、中学部生4名、高等部生14名の計19名でスタートした。昨年度は年間方針を「大切にしよう！自分のこと、仲間のこと～仲間とともに楽しく充実した寄宿舎生活を送ろう～」と設定し、リーダーが中心となって、子どもたちが主体的に活動できるように支援を行った。その結果、上級生が下級生に優しく接したり、自分の仕事が終わった後、友達を手伝ったりするなど協力して活動できる姿が見られるようになった。ただ、新入舎生は、極端に偏食がある子ども、こだわりが強く友達にしつこく関わって相手を怒らせてしまう子ども、中学時代、不登校でほとんど学校に行っていない子ども、感情の起伏があり、周りとのコミュニケーションに課題がある子どもと様々である。また、その他の在舎生も昨年度までは1階、2階の2フロアに分かれて生活していたのが、今年度から居住棟が移動となり19名が1フロアで生活することになった。小さい集団から大きな集団になったことで環境の変化などから子どもたちが不安定になるのではないかと、といった心配があった。そのため、年度当初は無理に生活時間帯の流れに沿わせるのではなく、生活に余裕をもたせた支援を行いながら、子どもたちの実態把握に努めることにした。

しかし、毎年のことではあるが、友達との関わり合いの中で問題は起こる。当番活動である配膳や風呂掃除において、偏食がある新入舎生Aと、距離感に課題があり、いつも余計な一言が多く周りとのトラブルが絶えないBをめぐって、周りが厳しい言い方をするなど、トラブルが頻繁に起こるようになった。そこで、パートタイムメンバー（配膳・風呂掃除・洗濯当番）を中心に話し合いを行うことになった。パートタイムとは、高等部生中心で行う当番活動の総称である。指導員からの支援を最低限に留め、子どもたちが主体となって活動できるよう、2つに分けたグループの名前や、メンバーの割り振りなども、子どもたちが考えて決めている。何か問題が生じた場合にはパートタイムの会を開き、解決に向けて話し合いを行うようにしている。

表1 はとホームの寄宿舎生の実態

A	高1。新入舎生。偏食があり、白ごはん以外はあまり食べない。一人で遊ぶことが多い。
B	高2。距離感が近い。ちょっかいを出したり、余計な一言を言ったりしてトラブルのきっかけになることが多い。
C	高1。新入舎生。中学校時代、不登校だった。気持ちに浮き沈みがあり、機嫌が悪いと何事も面倒臭がったり、友達にきつい言い方をしたりする。
D	高3。はとホームのリーダー的存在だが、メンタル面が弱く、自分より弱い立場の相手にきつい言い方をすることがある。
E	高1。中学部2年時より入舎し、当初はCと同じく気持ちに浮き沈みがあり、怒って物に

当たることが多かったが、少しずつ落ち着き、現在では子どもたちの中での緩衝材かつムードメーカー的存在になっている。未来のリーダーとして期待されている。

Aと同じく新入舎生であるCは、「Aは配膳をあまり手伝わない」「好き嫌いがあり、おかずを残すのにごはんのおかわりをする、余っているふりかけを勝手に持っていく」など、Aに対して不満をぶつけていた。DはBに対して、Bの名前は出さなかったものの、「配膳に遅れたり、配膳を休んでも礼を言わなかったりする奴がいる」と暗にBのことをほのめかし、非難していた。話し合いはC・D中心に進み、「Aには注意しても分かん」「(Aのことを理解するのは)無理」などの厳しい言葉が並んだ。他のメンバーにも、この際言いたいことを言うよう発言を促すとC・Dを怖がってか、遠慮してなのか、はじめは言いにくそうにしていたが、Bも「(C・Dのことではないと前置きして)言い方がきつい人いる」とつぶやく。それに対してDは自分のことを言われたと思い、間髪を入れず「黙れ！」と怒りをあらわにした。Bは「だから言いたくなかったがよ」と下を向き、それ以降口をつぐんでしまった。そんななか、会に参加したEから「ふりかけはAだけで独占しないようにみんなでわかるようにしたらいい」や「Bはそういう性格ながやき、(そんなに怒らず)放っておきや」など間を取り持つような意見が聞かれた。また、Aのことを非難していたCも「偏食って(普通の食べ物)土の味がしているような感じなんやろう」と一定の理解を示したり、DがBを責めている時に「Bの話も聞いてあげようや」とBに配慮したりする場面も見られた。

話し合いの結果、メンバー全員が納得するような結論は出なかったが、とりあえずは現在のメンバーで1学期末まで行うことになった。しかし、お互いが顔を突き合わせながら、自分の気持ちを話すことができたのではないかと思う。また、指導員が「せっかく同じホームになったのだから、いがみ合うより仲良く過ごす方が楽しいと思うよ」や「特別に仲良くしなさいと言っているのではなく、普通に会話(相手を傷つけるような言い方ではなく)ができるようにしよう」といったアドバイスをした。それ以上に当事者以外のメンバーが解決に向けて様々な意見を出してくれたことが、当事者たちにとってストンと胸に落ちたのではないだろうか。

子どもたちには自分や相手を大切にすることを育ててほしい。そういった思いから昨年度に引き続き、仲間との信頼関係を大事にしなが、お互いを認め合い、助け合う関係づくりを育ていけるよう、ホームの年間方針を「輝かせよう、大切な自分、大切な友達～お互いを認め合い、助け合う関係づくり～」と定めた。年度はじめに行った壁面飾り作りで「はとの大漁船」と題してホームの子どもたち全員の写真を貼ったちぎり絵を全員で作成した。はとホームに集まった仲間が同じ船に乗って漁に出ているイメージである。意見がぶつかりあったり、喧嘩したりしながらも「お互いを認め合い、助け合い」ながら、寄宿舎で成長してほしいという願いを込めている。

一方、Bに対しては厳しい接し方をするDは卒業・就職を前に不安であったり、Cは入舎したばかりで寄宿舎の決まりや生活時間帯に順応できずに悩んだりする場面が見られた。「生きていても楽しいことは何もない」や「死にたい」といった後ろ向きの言葉も聞かれるようになった。そこで、「お互いを認め合い、助け合うこと」という年間方針のもと、「命の大切さ」をテーマとした取組を行うことにした。



図1 はとの大漁船(壁面飾り)

今年度の実践テーマとして「主体的・対話的で深い関わりの視点を生かした仲間づくり」とあるように、子どもたちが主体的、対話的に関わる機会を増やし、子どもたちの中で問題を発見し解決していけるような取組となるよう心掛けた。

イ 実践事例

(ア) みんな、大切ないのち①「この赤ちゃんは誰でしょう？クイズ」

a 子どもの実態と研究課題

パートタイムの会を行った後も、C・DのA・Bへの厳しい言動は改善されなかった。C・Dに指導してもA・Bに対する不満を漏らしたり、「楽しいことがないからもう死にたい」といった後ろ向きの発言も聞かれたりした。そこで、性の支援部が中心となり、「自分たちは大切な存在であり、周りに支えられて成長してきたことを理解する」や「自分を大切に思うことで、相手もまた大切な存在であることを知る」ことを目的に、「この赤ちゃんは誰でしょう？クイズ」を計画した。事前に家庭へ「生まれたときアンケート」への記入をお願いし、子どもの赤ちゃんの頃の写真とともに提出をお願いした。対象はA・B・C・Dを含む高等部生を中心に行った。

b 取組の内容

①「この赤ちゃんは誰でしょう？クイズ」…赤ちゃんだった頃の写真を見て誰か当てる。

②「生まれたときアンケート」…保護者からのメッセージを聞き、赤ちゃんの頃の自分を想像し、自分がいかに大切な存在として生まれてきたかを実感する。

③「自分の番」…「自分の番」という相田みつをの詩をもとに「みんなそれぞれ大切な存在である」ことをテーマにした話を聞く。

c 成果と課題

対象の子どもの家庭にお願いした事前アンケートは、12の家庭すべてが丁寧に回答してくれており、子どもたちへの思いが聞けてよかった。取組当日は12名全員が参加したため、ふざける子どももいて、少し騒がしい会になってしまった。しかし、「自分も友達も大切な存在であること」を知る目的のためには12名全員が参加することに意味があったと考える。内容自体はクイズということで、それなりに盛り上がった。BもCもクイズを楽しんでいた。Aは開始時間になってもトイレから出てこられず、会場になかなか入ることができなかった。Dは学校で指導を受けて帰ってきており、不機嫌な様子であった。参加はできたが、窓際に雑誌を持って陣取り、イヤホンをつけ（耳にはせず）、「進んで参加しているわけではない」と意思表示しているようだった。こちらの質問にも「どうでもいい」「知らん」とぶっきらぼうだった。クイズの時も聞いていないふりをしていたが、ちらちら写真を見たり、母からのメッセージに聞き耳を立てたりしていた。総じて保護者からのメッセージは皆、照れながらもうれしそうに聞いていた。最後に相田みつをの詩を聞き、「みんなはお家の人から、こんなにも大切に思われているんだよ」と伝え、会は終了した。後日、「生まれたときアンケート」を子どもの現在の写真を添えて感謝カードに作り替え、家庭で子どもとの会話の際のよい材料になってほしいという願いも込めて2学期末に家庭へ持ち帰ってもらった。

生まれたときアンケート

名前()

1. 生まれた時の大きさを教えてください。(抱いてください時分)

体重 …… グラム

身長 …… センチ

2. どんな赤ちゃんでしたか？

3. 生まれた時の様子を教えてください。

4. 初めて赤ちゃんを抱いた時の気持ちを教えてください。

5. 成長した赤ちゃんに向けて、メッセージがなければ嬉しいです。

図2 生まれたときアンケート



図3 取組の様子①



図4 相田みつをの詩

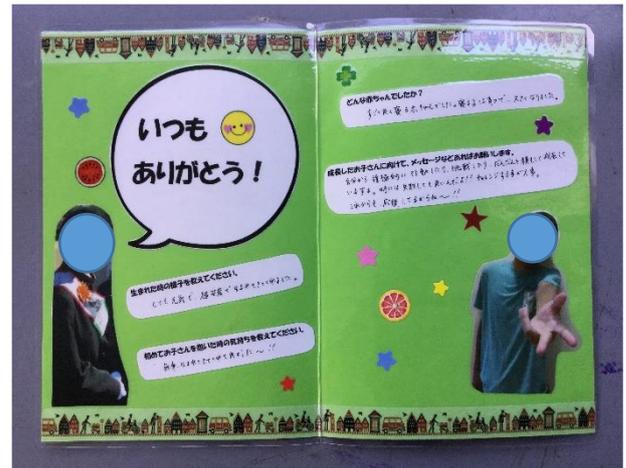


図5 感謝カード

(イ) みんな、大切ないのち②「はとホームの同窓会（10年後の自分は怎么样了）」

a 子どもの実態と研究課題

前は12名参加の会だったが、今回は2グループに分かれて行った。①グループにはBが、②グループにはDが参加していた。Cは早く就寝することが多く、取組の開始時間が21:00と遅かったため、Cは既に寝ていて参加できなかった。トラブルが起こりやすいB・C・Dを同じグループにしてもよかったが、現場実習中で都合がつかなかったこと、初めての試みということで様子を見たいこともあり、今回はBとCは分けて取組を行った。

b 取組の内容

- ①「赤ちゃんはどうやって生まれてくるの?」…イラストカードを使用して、お腹の中の赤ちゃんが1か月ごとにどのような変化が生じるか、出産を経験した女性指導員が体験を交え話す。
- ②「はとホームの同窓会」…年配の男性のイラストのお面をかぶり、10年後の自分は怎么样了想像し、同窓会の気分を味わう。

c 成果と課題

イラストカードを使用した「赤ちゃんはどうやって生まれてくるの?」は、「聞きたくない」と恥ずかしがって顔を伏せる子どもがいたが、「赤ちゃんははじめ豆粒ほどの大きさだった」や「豆粒ほどの大きさでも手足ができています」といった話に驚いていた。また、「赤ちゃんはどれくらいの重さで生まれてくると思う?」の質問には「10kg」「15kg」「2kg」など様々な答えが出た。はじめは会への参加を嫌がっていた子どもも興味をもって会に参加できていた。

「はとホームの同窓会」では老け顔のお面もそうだが、ビールに見立てたジュースやおつまみを準備し、居酒屋で同窓会をしているかのような雰囲気づくりを行った。できるだけ子どもたち中心で会が進んでいくように指導員は最低限の言葉掛けに留めた。そうすると、①グループに参加したBは釣りが好きということもあってか、10年後の現在は「(仕事は)船に乗っている」や「結婚して子どももいるよ」といった発言をしていた。同じ会に参加していた同級生(家も近くて同じ小学校に通っていた)に対しても「(10年後も)一緒に釣りに行きようよ」と発言し、相手に同意を求めると、相手も「行きようよ」と答えてくれた。Bが何ともいえないうれしそうな表情をしていたのが印象的だった。Dが参加した②グループも他愛のない話を中心だったが、会終了後に、「10年後、俺はどうしゅうろう」や「将来、彼女と一緒に住みたい」など話していた。普段、後ろ向きの考えの子どもが意外と明るい未来を思い描いていることが分かったり、恋愛観や結婚観も垣間見られたりするなど新しい発見

があった。友達とワイワイ話をする中で将来について考えるよい機会になったのではないと思う。



図6 取組の様子②



図7 取組の様子③

ウ まとめ

2学期末に行ったはとホームの忘年会（お楽しみ会）では、Bに輝ける場所を与えたいという指導員の思いから司会の大役を任せることになった。緊張した面持ちだったが、大きな声で堂々と進行し、最後までやり遂げることができた。C・Dは行事への参加に積極的ではなく、忘年会への参加もあまり乗り気ではなかったが、始めてみると「激辛焼きそばチャレンジ」や「ビンゴゲーム」といったイベントに楽しそうに参加していた。その日の食事は自由な席に座って食べてよいことになっていたが、A・B・C・Dが自然と同じテーブルに集まり、食事を始めた。食事中もゲームをしている時も和やかな雰囲気、周りから見てもとてもよい忘年会になったと感じた。

周りの子どもとトラブルになることが多いBである。トラブルの原因を作っているのはBであることが多いため仕方がないかもしれないが、最後は複数の子どもに責められ、Bが怒って物に当たり幕切れとなる場面が多々ある。Bには、自身がトラブルの原因となる行動を減らしていくことはもちろんだが、しんどくなった時は相手との距離をとって付き合うことも大切という話もしてきた。それからはトラブルになると、相手とある程度距離をとったり、自室でクールダウンしたりする姿が見られるようになってきた。それでもBは、C・Dはもちろん他の友達とも仲良くしたいという思いがあり、トラブルになりながらも関係をよくしていこうと前向きである。

Bに対して厳しいC・Dではあるが、下級生や配慮を必要とする舎生に対して、優しく接する場面が見られる。特に新入舎生で中学校時代不登校があり、ほとんど学校に行けなかった子どもに対しては、C・DだけでなくB・Eも加わり、朝起こしてあげたり、朝食を部屋に持って行ってあげたりと、その子どもの特性を理解したうえで、思いやる気持ちで接してくれた。

Cは中学校時代不登校の経験があり、本校に入学し寄宿舎に入ってから登校できるようになっているが、まだまだ夜型の生活習慣であったり、気持ちに浮き沈みがあったり、自分のことで精一杯な面がある。Dは卒業を前に決まっていた就職先が白紙になったことで不安を抱えている。そういった事情も受け止めながら今後も子どもたちに接していく必要があると思う。

忘年会の後も、B・C・Dに関連したトラブルが全くなくなったわけではないが、寄宿舎での生活や様々な取組を通して、少しずつ相手を理解し認めることができつつあるのではないだろうか。心配されたパートタイム（配膳・風呂掃除・洗濯当番）のメンバー分けは、2学期以降も変わらず同じメンバーで取り組むことができた。また、1学期に問題になったAの偏食にまつわる不満やトラブルも、

C・Dと食堂の席が近いAとC・Dの席を離したこともあってか、2学期以降全く聞かれなかった。

「子どもたちが主体的、対話的に関わる」「子どもたちの中で問題を発見し解決していける」ことを意識して計画した2つの取組は、「いかに子どもたちが楽しみながら参加してくれるのか」や「どうすれば子どもたちが中心となって活動できる取組になるだろうか」など頭を悩ませながら計画した。「命の大切さ」という大きなテーマの中では、ほんの導入に過ぎないかもしれないが、お互いの赤ちゃんの頃の写真を見てはしゃいだり、保護者によるメッセージに照れたり、10年後の未来でも友達であることを確かめ合ったりと笑顔がよく見られる取組になった。普段意見をぶつけあうことが多い子ども同士が同じ場所で笑い合えただけでも成果はあったのではないかと思います。今後も継続して取り組んでいきたい。



図8 はとのゆかいななかまたち（壁面飾り）

最後に、はとホームは指導員間の引継ぎやホーム会を通して、子どもたちにどのような支援をしていくかを話し合う時間を大切にしている。取組や行事の計画、日々のあらゆることを指導員間で共有し、意見を出し合っている。これまでに述べたように、現在はとホームには様々な特性をもった子どもたちが在籍している。今回実践事例で紹介したC以上に、中学校時代から不登校があり、現在も寄宿舎に帰ってくることも自体が難しく、継続的な支援が必要な子どもや、言葉でのコミュニケーションが難しく、要求が通らない時は壁や扉を強くたたくなどして力で思いを通そうとする子どももいる。課題がある子どもたちそれぞれの個別への対応はもちろん、各々の人間関係にも配慮が必要である。一人一人がもっている背景に目を凝らしながら、今後もホーム全体で子どもたちを支えていきたい。

（3） つばめホームの取組

ア 舎生の実態

今年度のつばめホームは、新しく中学部1名、高等部3名の新入舎生を迎え、中学部4名、高等部14名の計18名でスタートした。舎生の実態は、全体的に明るくのびのびとした雰囲気です。舎生同士の交流も活発である。しかし、活発なだけに歯止めがきかず、人との関わり方について、それぞれ課題をもっている。

年度当初は、自分の意志を出すことも少なく、周りの様子をうかがっていた新入舎生も、寄宿舎での生活にも徐々に慣れていき、余暇時間の楽しみ方などもそれぞれが見つけて楽しめるようになっていく。その一方で、昨年度からの継続入舎生は、最初は新入舎生のことが分からずちょっとしたことでイライラすることや、不満を口にすることも多かった。そういった場面では「相手は新入舎生だから仕方がない。君は先輩だから我慢しなければいけない。」という正論を押し付ける指導ではなく、ネガティブな考えに寄り添いつつ先輩としてできることを一緒に考えることで、ポジティブな発想に導く「心の支援」に配慮する関わりを指導員間で共通理解を図り対応していくことにした。このような対応を繰り返すことで、生活をともにする中で新入舎生の事を受け入れる心の成長が見られはじめた。

イ 研究課題

寄宿舎では、保護者の願いをふまえた個々の目標を設定し、実態に応じた支援を心掛けているが、さらにつばめホームとして、子どもの基本的な生活能力や社会性などの実態や課題の把握に役立てる目

的で、4つのグループ（ハート・スペード・ダイヤ・クローバー）に分け、活動や取組（性の支援）を行っている。

しかし、グループメンバーの構成やグループ名などは、ホームの所属指導員のみ話し合いで決めたものであるためか、舎生の中には自分がどのグループに所属し、何を目標に日々の生活や取組に参加すればよいのか、イメージができていないという現状があった。

そこで、まずはグループの意識づけが大切なのではないかと感じた。グループ活動を行うことでメンバー間での協力し合う気持ちが芽生え、その活動が全体に広がることでホームが1つの輪となれるような支援をねらいとし、取組を実施することにした（表1）。

表1 年間取組計画

	第1回	第2回	第3回
取組内容	新しいグループ名を考えよう	・新しい当番メンバーを考えよう ・当番グループ名を考えよう	ホームのお楽しみ会を企画運営してみよう
主体的ねらい	・理想像や、目標とする状態に目を向けさせ、自分の言葉で言語化させることにより明確にする。	・メンバーの相性や、個々の得意、不得意を実際の活動を想像しながら編成できるようにする。	・自分で状況判断して目的を明確にし、自らの責任で最も効果的な行動をとれるようになる。
対話的ねらい	・自分にはない、仲間のよさを認め、気付くチャンスをつくる。 ・相手に分かりやすく説明するための言葉を考えるチャンスをつくる。	・メンバーのバランスなどを考えることで、仲間のよさを認める。 ・相手に分かりやすく説明するための言葉を考えるチャンスをつくる。	・場面が変わっても共通する手法や考え方を自在に活用できる力を身に付ける。 ・相手に分かりやすく説明するための言葉を考えるチャンスをつくる。

ウ 実践事例

(ア) 第1回「新しいグループ名を考えよう」

実践研究のテーマである主体的・対話的な関わりを深める第一歩として「仲間と協力して取り組む」ことを目標としたハートグループに新しいグループ名を考えてもらうことにした。

	取組内容	取組の様子
第1回 (1学期)	「新しいグループ名を考えよう」 ・ハートグループを集める。 ・用紙（白紙）を渡す。 ・4つのグループ名を新しく考えてほしいと依頼する。 ・1週間後に用紙回収することを伝える。 ・所属するメンバーにあったグループ名という条件を伝える。・他の舎生と相談するなど、考える方法は各自の自由とする。 ・他の舎生と相談するなど、考える方法は各自の自由とする。	・1つの部屋に集められ、これからどんな難しい話が始まるのだろうと、緊張した表情だったが、ホームの指導員全員からの依頼という言葉聞き、全員がとてもうれしそうな表情を浮かべ、D「先生らあ、思いつかんかったがや」A「しょーがないねえ」C「何でもかまんが？」E「分かりました、考えてみます」など、口々に意欲が感じられる言葉が聞かれた。 ・グループ名を考えるにあたり、提案した条件にも「無理」や「難しい」という否定的な

	<p>【結果】 Eの案が各グループの目指す目標が明確に表れており採用される。</p> <p>旧 → 新 ハート → 絆 「絆という助け合う気持ちを大切に」</p> <p>スピード → Gate 「Gateをくぐり新しい道に進む」</p> <p>ダイヤ → 翼 「翼を広げ羽ばたくように前に進む」</p> <p>クローバー → Hope 「希望をもって諦めず いろんなことに挑戦してほしい」</p>	<p>言葉は一切聞かれなかった。</p> <p>・解散直後から、Dは他グループのHに相談し、Eはスマートフォンで検索し始めるなど思い思いの方法で取り組む姿が見られた。Dより車の名前をグループ名にしたいとEに相談するが、「なぜ、その名前になったのか、理由があった方がいいと思う」と言われ、人任せにする傾向があるDが、車の見た目やスピードなどを理由に取り入れようと真剣に考える姿が見られた。DとE以外の者は「思いつかなかった」と白紙の用紙を提出することになったが、彼らなりに考えていたことが「思いつかなかった」という言葉に表れていた。</p>
--	---	---

取組後の変化

今回の取組で絆のメンバー（旧ハートグループ）の取組に対する姿勢に変化が見られた。特に、ホーム会や全体での「性の支援」の学習場面では、今まで他人事という気持ちがあっただけか、私語や茶化す態度など、集中できず話を聞く姿勢に課題があったが、自分たちが目指す高等部生としてのイメージが明確となり、人の話を聞き、自分の意見を言う、周囲の友達への声掛けや配慮など主体的に行動する姿が見られるようになった。絆のメンバーが変わったことで、他の友達にもホーム会などの場面は、司会や提案者または指導員の話聞く時間だという雰囲気が浸透しつつある。

次回取組に向けて

絆グループはメンバーの意識の変化や、主体的・対話的な面でも目に見えて成長しつつある。そこで、2学期からの当番グループのメンバー構成やグループ名を考えてもらうことで、ホームのリーダー的な存在として力を発揮し、より成長できる場面を設けることにする。

指導員の支援としては、4つのグループに分かれてはいるが、一人一人がつばめホームの大切な仲間であるという思いを込め、新しいグループ名やメンバーを日常的に意識できるよう廊下に掲示し（図1）、それぞれのグループ名が入った言葉も添えた（表2）。

また、それぞれのグループ名とEのグループに込めた思い、実態・目標・支援方法を一覧にした表を作成した（表3）。



図1 グループ名とメンバー

表2 それぞれのグループ名を使った標語

仲間との絆が深まれば
新しい自分、新しい可能性への Gate が開く
自信をもって大きく翼を広げ、その先へ飛び立とう

表3 グループ編成表

絆	絆という助け合う気持ちを大切に	メンバー	A・B・C・D・E
実態	目標	具体的な支援方法（留意点）	
自分の得意な部分を活かし、ホームの中心となり活動することができるが、お互いに協力し取り組めるまでには至っていない。	仲間と協力して取り組む	お互いの得意、不得意を認め身勝手な部分を補い合い、得意なことを生かせるよう指導員もヒント（手助け）を出していく。	
ゲート Gate	Gateをくぐり新しい道に進む	メンバー	F・G・H
実態	目標	具体的な支援方法（留意点）	
絆グループに憧れ、ホームの中心として活躍したい気持ちはあるが、周りの様子を気に掛け、相手を思いやることは苦手である。	思いやりを学ぶ	自分が！自分が！ではなく、周りの様子も気に掛けることができるよう支援していく。まずは自分のことがきちんとできるように励ます。	
翼	翼を広げ羽ばたくように前に進む	メンバー	I・J・K・L・M
実態	目標	具体的な支援方法（留意点）	
初めての活動には消極的である。決められた活動には取り組むことができるが、指示待ちの場面が多い。	自分から進んで協力できる	初めて取り組むことは丁寧に教え、自信をもって取り組めるよう支援する。失敗しても一緒に原因を探り、次の取組につなげる。できたことは存分に褒め、自信につながるよう支援していく。	
ホープ Hope	希望をもって諦めず いろんなことに挑戦してほしい	メンバー	N・O・P・Q・R
実態	目標	具体的な支援方法（留意点）	
マンツーマンや見守りの対応が必要。一部介助が必要な舎生もいるが、自分の身の回りのことはおこなねできる。	自分のことができる	先回りして手助けせず、待つ姿勢を心掛ける。自分でできる喜びを味わえる支援を心掛ける。	

(イ) 第2回「新しい当番メンバーを考えよう・当番グループ名を考えよう」

	取組内容	取組の様子
第2回 (2学期)	<p>1 「新しい当番メンバーを考えよう」 ・「配膳当番」「風呂掃除」を月替わりで行うため、2グループの構成メンバーを考える。</p> <p>2 「当番グループ名を考えよう」 ・各グループのメンバーにあったグループ名を考えてみようとして提案する。</p>  <p>図2 オリジナルのロゴ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5名という少人数ということもあってか、自分の考えを出し合い、有意義な話し合いの時間をもてた。 ・高等部3年生をグループ分けし、グループの中心となるよう配慮できていた。また友達同士の相性や、主体的に行動できる者と、声掛けが必要な者のバランスを考慮できていた。 ・当番活動に消極的なJが自主的に参加できるよう、Jが好きなキャラクターのグループ名「エヴァ」やオリジナルのロゴ(図2)、メンバーの頭文字を使ったグループ名「YD Men's (やればできるメンズ)」など、意欲を引き出す工夫をしていた(図3)。



図3 グループ名とメンバー

取組後の変化

絆のメンバーは、各グループでのリーダー的役割を担うポジションとして、自分たちを振り分けたこともあり、グループでの活動時には個々のできることや得意なことに配慮しながら、声を掛け合うことができている。その一方で、活動前の集合に遅れるなど課題も残される。

次回取組に向けて

今回までの取組によって、理想像や目標とする状態に目を向け仲間のよさを認めるといふ、人との関わりについて個々の成長が見られた。次回は、仲間と協力することの大切さを学びながら主体性を伸ばせるような取組をする。

(ウ) 第3回「ホームのお楽しみ会を企画、運営してみよう」

ホーム会で「今後のホーム行事を考える」という議題に、調理好きな中学部生Hから「ホームで調理をして、パーティーのようなお楽しみ会をしたい」と提案があり、絆グループにサポート依頼があった。そこで今回は、行事部3名と絆グループ5名の計8名が実行委員となり企画・運営する中で、主体的・対話的な関わりを深めることを目指した。

	取組内容	取組の様子
第3回 (2学期)	<p>「12月4日のつばめホームのお楽しみ会を企画しよう」</p> <p><u>第1回 話し合い (10月25日)</u></p> <p>1 経緯の説明と確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員より、1学期末のホーム会でHが「料理(チャーハン)を作りたい」と言ったことから、2学期に絆グループに協力を依頼したことなど、ここまでの経緯を説明。 ・実行委員8人が協力して12月4日のお楽しみ会に向けて計画・準備を行うことを話した。 <p>2 日程の確認</p> <p>3 内容を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員が用意していたプリントを使用。 ・話を整理し、当日までの流れの確認ができるよう支援する。 <p>4 役割分担</p> <p>E チーフマネージャー C サブマネージャー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絆グループ5名と行事部3名G、H、Mが話し合いに参加。 ・18人全員が楽しめる企画。指導員は頼まれたことは協力することも伝え、リーダーを決めることを提案し、その後の進行は子どもたちに託した。 ・8人のリーダーはMがEを推薦。サブリーダーもMがCを推薦した。Eがすかさず、Hをサブリーダーに推薦し、この3名が中心となることが決まる。 ・イベントと夕食の2部制でホームイベントを行うことに話がまとまる。 ・イベントに関するアイデアとして、A「宝探し」H「輪投げ」E「まとあて」と天候に左右されず18人全員が楽しめる内容のものがすぐに出た。 ・Gより「ルービックキューブ」がしたいと希望あり。ルービックキューブが得意なB

H アシスタントマネージャー

に2×2、3×3、4×4のタイムを聞くと20秒、50秒、2分とのこと。指導員のアイデアでBが3個のキューブ、Gが3×3でどちらが速いかを競うことを提案。指導員も競争に参加させてほしいことも言う。それおもしろそう！となり、イベントに追加された。また、指導員にマジックを披露してほしいとお願いをしていた。

- ・ポスターは得意分野で活躍できるようG、Mが代表となる。
- ・買い出し係は、Hのサポート役としてEが立候補する。
- ・肩書を付けたことで、役割が明確となり、互いを尊重するきっかけ作りとなった。
- ・その他の準備として「輪投げの輪も作らないかん」という言葉がEから聞かれるなど、自分たちで意見を出して、企画、準備をしていくことが、当日のイベントや役割などが決まったことで、個人差はあるが8人の意欲が芽生えたように感じた。

第2回 話し合い (10月30日)

1 前回の話し合いで決まったことの確認
・指導員が用意していたプリントを使用。

2 役割分担 (前回の続き)
・ポスター：G 宣伝部長

M P R大使

- ・料理：H 料理長
A シェフ
- ・その他：B オールマイティー
D 執行役員

3 各イベントの場所、準備品

当日までの役割分担、当日の役割分担



図5 話し合いの様子

・前回の話し合いで決まったこと、今回の話し合いで決まったことを書き込めるプリントを各自に配布した (図4)。

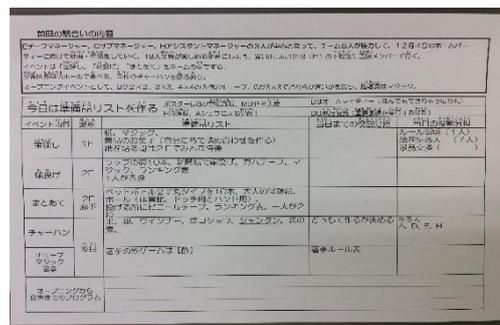


図4 子どもたちの計画書

・話し合いの進行もプリントがあることで何を話しあえばいいの視覚的に分かりやすくなり、意見を出し合えるなど意欲的に取り組む姿が見られた (図5)。役割分担では、「A君料理好きやろ？料理チームに入っちゃったら？」など任せたい役割を出し合っており、これまでのホームや寄宿舎行事の活動を通して、お互いの力を見出していたことが感じられた。

	<p>第3回話し合い（11月20日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前回の話し合いで決まったことの確認 2 各イベントの担当割り振り 3 準備品、学校から借りてくる物 <p>当日までの役割、当日の役割分担 オープニングから食事までのプログラム (買い物、借り物の日時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の話し合いに用いたプリントと同じ様式のものを使用し、決まっていることと、今回話し合うことを確認した。 ・各イベントに絆グループの誰かが必ず入るようにし、各自が活躍できるように、子どもたちで決めていた。 ・準備品の中で学校から借りて来なければいけない調理器具については、食品加工で使用経験が豊富なAが引き受けてくれ、自分の経験してきたことが生かされることに喜びを感じ張り切る姿が見られた。 ・当日の役割分担は各イベントグループの子ども同士で希望を出し合い、お互いの意見や特技を考慮して決めることができおり、感心させられた。
--	---	--

取組後の変化

話し合いを重ねる中で、「なんか、絆っていい。落ち着いちゅうし、リーダーって感じがする。」とAが言っていたことが印象的だった。言葉にしなくても、準備品の調達やチャーハンの試食をする子どもたちの表情からもグループの取組に誇りをもっている様子うかがえた。



図6 チャーハン作り

お楽しみ会当日は、担当しているイベントについてのルール説明やイベントの参加者の動向を気に掛けサポートをするなど、主体的に人と関わることができていた。また料理担当のA、Hは、みんながチャーハンを「おいしい！」と頬張る姿を満足気な表情で眺めており、達成感を感じることができたようだ。

お楽しみ会の翌週、Eの「お腹へった～」の一言から、12月19日にカップ麺を作って食べる「夜食会」がD、E、Hにより企画された。指導員は写真入りのオーダー表作りと、当日のお湯の準備を頼まれた。3人が買い出し・当日の司会・カップ麺作りのサポート・後片付けを率先してやる姿からは、自分たちで成功させたことへの自信とうれしさ、次への意欲が感じられた。その姿を見て、普段自分からお手伝いをする事のないJが「僕も手伝おうか」と机の片付けを率先して手伝ってくれたのに驚かされ、ホーム全体へのいい影響があったと感じられた。

エ まとめ

今回の取組にあたって、子どもの主体的に人と関わる力を育むことを目的とし、子どもが自分の考えや判断、意志によって行動をすることができ、その行動に責任をもつことができるよう支援することに配慮した。

また、対話的に人と関わる力を伸ばすために、様々な「正解」から学び合える雰囲気大切にホーム会のもち方や、自分にはない仲間のよさを認めることができるように、日常生活の中で指導員が気付いた心温まるエピソードや頑張っている姿を、登校前の全員が集まる玄関先で紹介している。

わずか5分程度の時間ではあるが、友達のことをみんなが知って認め合い、子どもたちの向上心を育むよいきっかけとなっている。例えば、毎週木曜日にひげが生えているメンバーが、指導員と一緒にひげを剃る取組をしており、その様子をみんなの前で紹介すると、称賛の拍手と共に「いいねえ」「かっこいい」などの言葉も掛けられる。このことがメンバーの向上心をかき立て、ひげを剃ってさっぱりした友達を見て続々とひげを剃り始めている。また、指導員から声を掛けられなくても曜日に関係なく身だしなみに気を付けようとする姿がグループの枠を越えていい影響を与えはじめている。

実践収録のテーマに含まれる「主体的・対話的」は、日々の人間関係を築いていくうえで身に付けておきたい事柄である。今後もそれぞれのグループで協力し、お互いの長所短所を認め、指導員側も一人一人が相手を思いやる行動や言葉を見逃さないよう、言葉で思いを伝えていくことに努めていきたい。

3 おわりに

今年度は「主体的・対話的で深い関わりの視点を生かした仲間づくり」を目指してそれぞれのホームの課題を挙げて取り組んだ。

すももホームでは、「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした仲間づくり」を具体的に子どもたちの指導・支援に反映する手立てを課題として取り組んだ。これまで指導員主体で進めていた毎朝のラジオ体操の取組を、主体的に取り組めるように支援することで、子どもたちが自信をもち、仲間を意識することにつながった。また、姿勢やマナーを指導員から注意されたから気を付けるのではなく、お茶会などの体験もしながら主体的に学ぶことが子どもたち自ら「お上品クラブ」の活動に取り組む気持ちを育てている。

はとホームでは、ホームの年間方針である「輝かせよう、大切な自分、大切な友達～お互いを認め合い、助け合う関係づくり～」をテーマに、性の支援部の取組からアプローチした。「赤ちゃんはどうやって生まれてくるの?」「はとホームの同窓会」の取組では、一人一人が大切な存在ということを知り、認め合い、助け合う関係づくりを目指した。指導員からの働きかけに対し、子どもたちも時には照れながらも関心をもって取り組んだ。特に「はとホームの同窓会」では、できるだけ子どもたちの中で会話が進むような準備と言葉掛けを行い子どもたちの考えや活動を引き出すことができた。

つばめホームもまた、指導員が決めた構成メンバーやグループ名で取り組んできた生活支援のグループの目標やグループ名を、主体的・対話的ねらいをもって子ども自身の活動になるように取り組んだ。その成果として子どもの自主性、積極性、判断力につながり、子ども自身で寄宿舎生活を豊かにし、仲間と協力し、友達を思いやる気持ちにつながってきた。

今年度の研究テーマである「主体的・対話的で深い学び」の視点での取組は手探り状態で取り組んだ部分もあったが、寄宿舎運営についての基本方針にも掲げられている「仲間とともに生きる喜びを共有し、生活・社会自立を目指す力を育てる」ために、今後も主体的・対話的で深い関わりの視点を生かした仲間づくりを支援していきたい。

Ⅶ 本年度の研究のまとめ

本年度の校内研究は、研究テーマ「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした取組」（3年計画）の2年次の取組であった。

まず校内研修会では、テーマにある「主体的・対話的で深い学び」について、昨年度に引き続き群馬大学教育学部霜田浩信教授を講師にお招きし、6月の研修会で講義を通して基礎的理解を深めることに取り組んだ。加えて、7月の小学部公開授業研究では、実際の授業を例に取り上げながら「主体的・対話的で深い学び」の視点をもってどのように授業実践を行い、授業を改善していくべきなのか指導・助言をいただいた。

また、夏季休業中に本校で開催した教育課程研究集会では、広島県立庄原特別支援学校松本和裕教育相談主任を講師にお招きし、庄原式カリキュラムマネジメントについて講義をいただいたほか、本校の上半期研究報告も行った。

こうした一連の校内研修会と並行して、各学部・寄宿舎で研究テーマである「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした取組」について実践を行ってきた。

各学部では年2回の公開授業に取り組む中で、「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程分析表（試案）」も活用し、研究テーマにある各要素を学習活動に盛り込みながら授業改善にも取り組んだ。

その結果、授業者自身の学習活動の展開等の整理にも一定効果的であったことや、教師間の共通理解を深めることにもつながったとの意見があった。その一方で、本分析表にある各要素の項目についてさらに内容整理を進めより効果的に活用できるよう改善が必要との意見や、児童生徒の目標達成のために授業の学習活動がどのように効果的であったのか授業評価についても活用できるような活用の仕方を検討する必要があるのではないかとの意見も見られた。

寄宿舎での取組では、各ホームごとに毎日の生活支援がより充実したものとなるよう取組を進め、「主体的・対話的で深い学び」の視点での取組はまだ手探り状態としながらも、児童生徒が主体的に仲間づくりを通して充実した活動に取り組む様子が明らかになった。

このように各学部・寄宿舎では、それぞれの取組によって、1年を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた活動を設定し実践した成果が示された。

しかしながら、学習活動分析表のとらえ方、活用の仕方に注目しても分かるよう、今後さらに「主体的・対話的で深い学び」の視点を各教師が深めるだけでなく、それを教師間で共有できるよう実践を進める必要性も明らかとなった。昨年度に引き続き今年度も霜田教授が講義の中で言われたように“本校における「主体的・対話的で深い学び」とは何を意味し、それをどう実行し、将来の何につながるのか”というところを具体的かつ明確にできるよう来年度も継続して研修に取り組んでいきたい。

平成31（2019）年2月 発行

高知県立日高養護学校

〒781-2151 高知県高岡郡日高村下分 60 番地

T E L 0889 - 24 - 5306

F A X 0889 - 24 - 5308

E-mail hidaka-s@kochinet.ed.jp

<http://www.kochinet.ed.jp/hidaka-s/>